

災害年表

鳥取県立公文書館作成

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
1	寛永 9	805	16320918	大風	因府歴年大雑集		10	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。民談記からの摘記。	鳥取県立博物館
2				洪水 (遷封水)	因府年表	洪水。先月の下旬より連日雨降り、当月に踰て猶不止。然る処、八日・九日に至て大雨盆を傾るが如くにして、大水漲り、総構の堤崩潰して府下に満溢す。水の深きこと七八尺より凡巻丈に及び。民屋流失し人畜の死亡不可勝計。此日水中に火を失し、焼死せる者ありしと聞ゆ。これを御国替より四年目の洪水と称して、邦俗の口碑に伝はれり。	18	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
3	寛永 12	812	16350923		因府歴年大雑集		15, 16	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。	鳥取県立博物館
4					五水記		5, 6	建設省鳥取工事事務所編『五水記』(社団法人中国建設弘済会、1974年)。底本の原本は鳥取県立図書館蔵。なお、対応する箇所の現代語訳が同書 36-38頁にある。	鳥取県立図書館
5					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		646, 647	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
6	寛永 19	101	16420131		大雪	因府年表	大雪降る。	28	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。
7		1217	16610117	大火 (万治三年出来薬師火事)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		623, 624	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
8	万治 3	1228	16610128		因府歴年大雑集	万治三年十二月廿八日、出来薬師辺より出火、西風強く吹て、丹後町玄忠寺〔古、当寺は下台町庚申堂之入込之奥二あり〕へ飛火、丹後町・下台町の辺より惣門内へ入、矢野兵庫宅〔大名小路之行当り水道之井之所〕へ飛、宮脇〔今荒尾内匠介殿向屋敷と相成る〕・河毛〔是も近来向屋敷之内二入〕共類焼、其節祐心・志摩殿登城被致、御前へも御出馬被遊、若キ者共の働をも御覧被遊候様ニと被申上候所、左様被為思召候、何分御手前之登被致候を御待被遊御座候旨御意被成、興禅院様北之御門へ御出馬被遊、御下知ニ依て、宮脇宅限りにて鎮火すと云、其節御将机ニ被成御座、火元見ニハ御使番被仰付、御前ニ皮の御羽織被為召、洗染晒之御鉢巻被遊、祐心殿同皮羽織着用之由、其時初鹿野七郎御児小性相動居申、志摩殿へ向ひ、私共も御供に罷出可申哉と相尋候所、我等も女子ニてハなし、御供出候へと祐心殿被申候由、其時、御城詰并御普代之面々并横河・佐分利共御側近く御供へ被召連候由。	46, 47	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。引用部分の {} 内は底本で割注。なお、他の史資料では同一の火災について、12月17日のこととしている。そのため、ここでは17日の火災のことを指していると見て、他のデータとまとめた。	鳥取県立博物館
9	寛文 2	501	16620616	地震	因府年表	大地震。此時岡益の石堂崩ると云々。未その然否を詳にせず。	64	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。なお、直後に「案、京都の大地震は当月朔日也。恐くは是と同日なりや」とあり。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
10				洪水 (種稲水)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		647	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
11					五水記		7, 8	建設省鳥取工事事務所編『五水記』(社団法人中国建設弘済会、1974年)。底本の原本は鳥取県立図書館蔵。なお、対応する箇所の現代語訳が同書 38-40頁にある。	鳥取県立図書館
12					因府年表	洪水。邦俗これを丑年水と口碑に伝ふ。昨日より大雨頻りに沃ぎ、洪水激流す。この日御船宮・鑄物師橋・蛙町〔但馬殿橋なり〕・丹後町この四橋流落つ。雖然、外構の土手筋崩壊せざりし故、府下は幸に此難を免る。郊外水深き事八九尺に及び。然る間、郡郷の民屋流亡せるもの六百九十一軒、溺死は七拾余人と聞えたり。此日水中に失火起り、人家四五軒焼滅す。其後駅路暫く通ぜず、未土の損亡難勝計と、云々	101, 102	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
13	寛文 13	514	16730628		因府歴年大雑集	民談記曰、寛文十三年癸丑五月十四日、國中夥シキ洪水イツル、十三日ヨリ雨降り、唯滝水ヲウツスニ異ナラズ、唯兩日ノ雨ナリケレトモ、何方モ海河ノ湛タル如クニナリテ、時ノ間ニ突来、鳥取城下ヘモコト々シクツキ来リケレトモ、惣構ノ堤強シテ、関トメテ内ヘハ入ズ、サレトモ、所々土手ノ上ヲ水コス斗ナリケレバ、城下周章サハグコト大方ナラズ、土手ヨリ外ハ、水ノ深キコト、八九尺、一丈斗也、堤ヨリ外ニハ、銃炮同心ノ家、其外川端ノ家共、或ハ倒シ、或ハ突流サレ、家ニ乗行モノ共、加路マデ流レ行、海ヘ入死スル者多シ、或ハ道ニテ物ニカヘリ、取ツキテアガリ助ルモノモアリ、加路ノ沖マデ流出、鳥ヶ嶋ヘカヘリタスカルモアリ、不思議ナリシ事トモ也、水ノ半家ヨリ火ヲ出シ、上ハヤクル、下ハ水深ク、水火ニセメラレ、死スル者モアリ、火ハ消者ナクシテ、家四五軒ヤケタリ、統テ家ノ倒損ゼシコト不知数、人ノ死スル事四十人余アリシトカヤ、城下モ、堤ヨリ内ヘ水ハ入ザリケレトモ、タマリ水深クシテ、下口ハ五尺三尺ハツカヌ所ナシ、城内ニモ山ヨリノ落水セキ来リ、大鞍ノ間ノ内、水ヲハキカネ、巴ニ門ヲ推崩サントセシヲ、門ノ扉ノホソヲ切トシ、門ヲ開水ヲ出ス、橋トモハ、イモジ橋、其次ノ橋、其次ノ出合橋、舟宮ノ橋流レ落ル、國中郡郷在々村々、水ノツカザル所一所モナシ、谷ウメ、岡ヲトマリ、川筋カナタコナタニ替リ、山ハウヅレ、土ヲ出シ、路ヲ遮リ、橋ヲ落シ、井溝ヲウメ、植田ヲツキナガシ、畠ヲ河原トナス事、國中全所少モナシ、折節稲ハウヘシマヒシ比ナレバ、水ニナガレタリ、跡ハ自ラ荒地トナル、是ヲ植ントスレトモ、苗ナク、或ハ田ニ沙流入、苗ハ土ノ底ニナル所モアリ、川筋近くノ田ハ、全ク残ルハ更ニナシ、五町七町或一在所一面ノ川原トナル所、或ハ水筋変、日比ノ田土河ノ底ニナル所多シ、折節土民トモ麦ヲ茹上置ヌレバ、皆是ヲ水ニ流シケル故、早一日ヲ送カネ、糶ニツクル者ノミ也、或ハ家ヲ流シ、屋財ヲ失フ者限ナシ、邑美ノ大堤五百斗モ切レ、知頭・八上ノ間路タヘ、三十日四十日ガ間ハ馬ノ通ヒナシ、是ヨリ日々ノ普請隙モナケレトモ、破損夥シケレハ、其功ミヘズ、統テ光仲公御領ノ間、田畠ノ損スル高七万石余アリケルトカヤ、此度ノ水、当国ニモ限ラズ、近国五ヶ国七ヶ国ノ間ハ、当国程水ノ出ザル国ハナカリシトカヤ、海浜浦々ヘハ他国ノ流物余多流レ寄ケルトイヘリ、下略。	84, 85	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
14	延宝 2	610	16740713	大風	因府年表	加路大明神の社、烈風難凌に依て、此度所替のこと相願候へども免許なし。	103	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
15	延宝 2	804	16740903	大風	因府年表	大風吹、禾稼を損害す。此日河村郡曹源寺の堂顛倒す。	103	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
16	延宝 5	413	16770514	大火	因府年表	知頭宿大火。御茶屋始め民屋九十一宇焼亡す。	111	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
17	延宝 6	602	16780720	大火	因府年表	倉吉町三十余宇焼亡す。	114	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
18	延宝 8	1121	16810110	大雪	因府年表	雪積地こと五尺計り。	123	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
19	貞享 2	112	16850215	大風雪	因府年表	乾の風大に吹起り、雪積、人屋破損。	137	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
20	貞享 2	1210	16860104	地震	因府年表	辰の尅雷鳴三声し、巳の尅地震。初は南方に声ありて強く動揺す。及午尅北風吹起れり。	140	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
21	貞享 3	222	16860316	大風	因府年表	夜南風吹起、及翌朝は益烈しく、且強雷轟く。	142	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
22	貞享 3	725	16860912	大風雨	因府年表	大雨頻りに沃ぎ、自申の尅北風大に吹起り洪水。	144	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
23	貞享 3	817	16861004	大風	因府年表	大風吹。	144	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
24	貞享 5	416	16880515	大風	因府年表	南風強く吹く。天野織部宅の部屋より出火。幸にして無程消留る。	149	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
25	元禄 4	1215	16920201	地震	因府年表	晨明地震。	163	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
26	元禄 5	427	16920611	大火	因府年表	王寺谷御小人殿より出火。山際の人屋十七八軒類焼。	164, 165	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。引用箇所に続いて、「案、王寺谷とあるは、恐くは栗谷の誤りなる可し。長寿院の廢地、御小人殿と成れり。此災以後後川今の地に移されたる歟。又往世には、栗谷を権現堂と称める故、これを混淆せるにや」とある。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
27	元禄 5	1105	16921212	大火	因府年表	江崎堅町出火。人屋十四五宇焼失す。	167	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本には「十四」の右横に「イ十一」の傍注あり。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
28					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		624, 625	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
29	元禄 5	1111	16921218	大火(元禄五年御天守焼失)	因府年表	風雪巳の尅過強雷轟き、府城山の天守櫓〔二階なり〕に震す。忽ち窓より黒煙を散す。斯りし故、府下の騒動大方ならず。御家中の輩急ぎ丸の内へ駈集る。然る処、執政衆の中にて月番和田式部・御城代天野織部・箕浦蔵人御組、並、預りの軽卒を領し、深雪を踏分登山す。又御役人の族には、郡代三浦刑馬・御普請奉行北村八兵衛・町奉行河瀬八右衛門・御郡奉行荒木甚右衛門、町火消、並、近郷の百姓等を引率して従之。此日山上の月見櫓は幸にして免余災。未の尅に及て鎮火に属す。一記に余火中坂口御門を焼く。又山上に火薬庫あり、雪を寄てこれを包み恙なかりしと云。此の御蔵は後に円江寺に下して建られたりと。	167	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
30	元禄 6	611	16930713	大風雨	因府年表	夜伯耆国大風雨にて民屋多く吹倒し、会見郡日吉津村にては、女一人・牛一頭即死せし由。	170	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
31	元禄 6	809	16930908	地震	因府年表	丑の尅地震。	174	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
32	元禄 7	1226	16950209	大雪	因府年表	大雪降る。	181	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
33	元禄 8	209	16950323	地震	因府年表	地震。	182	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
34	元禄 8	221	16950404	地震	因府年表	巳の尅地震。丑の尅復動揺す。	182	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
35	元禄 8	312	16950424	大火(倉吉大火)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		644	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
36					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		647	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
37	元禄 8	722	16950831	洪水	因府年表	暁天北風強く吹起り、甚雨頻りに沃ぎ、屋宇を剥ぎ、牆壁を倒し、府下全き家なし。稀代の洪水にて、加路の湊口凡拾町余りに広まると云。	184	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
38	元禄 8	917	16951024	大火	因府年表	東照宮御祭礼。此日古海へ渡御の間巳の尅比、円城院より失火起り、其騒動謂ん方無し。然る間、御目付の内にて荒木甚右衛門・絹川勝左衛門兩人、並、町奉行佐橋助太夫は、御旅所より直に火事場へ馳向ふ。其外にては、火元の近所へ下屋敷有之、物頭は同様なり。其他に於ては移動せることを不被免。当寺の本堂・庫裏悉く燔滅す。但、太子堂並土蔵一字は余災を免る。又、黒田監物台所、同家の長屋並、外市の商家十余宇延焼す。折悪しき出火なれば、寺職の迷惑甚しく、一封の残書を致置き、頓て逐電して其行衛知れず。然る処数日を歴て後、在処を相尋、一宗門より一向帰院を相願、遂に恩免ありしと聞えたり。	184	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
39	元禄 9	102	16960204	大雪	因府年表	雪天雪積地こと可尺。組付之士為年始御礼峯州公の御屋敷へ罷出る。	187	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
40	元禄 10	513	16970701	大風	因府年表	夜南風強く吹、所処破損多し。	195	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
41	元禄 10	1104	16971216	大風	因府年表	申の尅瓦町より失火起り、近辺駆集り打消候処、頓て大風吹き出し、及翌夕休止す。府下の人今日の出火の早く鎮りしを歎喜し、或は身の毛を立る者ありしとなん。	199	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
42	元禄 10	1204	16980115	山崩れ	因府年表	暁更湯所上の町、河毛十右衛門やしきの背なる山涯崩る。	199	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
43	元禄 11	429	16980607	大風	因府年表	夜に入、南風烈しく吹起り、亥尅地震。	201	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
44	元禄 11	429	16980607	地震	因府年表	夜に入、南風烈しく吹起り、亥尅地震。	201	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
45	元禄 11	921	16981024	地震	因府年表	申の尅地震。同日、倉吉組原田作右衛門〔棒三百石〕病死。跡目断絶。翌年実子某へ五人扶持を賜はる。	204	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
46	元禄 11	1005	16981107	地震	因府年表	巳の尅地震。	204	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
47	元禄 13	321	17000509	大風	因府年表	大風吹く。	211	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
48	元禄 14	407	17010514	大風	因府年表	大に風吹く。	218	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
49	元禄 14	812	17010914	洪水	因府年表	夜前子の尅比より大風起り、甚雨頻りに沃ぎ、因伯洪水す。此日幕府の廻船八橋灘にて破船し水主残らず溺没す。積荷は材木なりし由。依之御船手名倉小兵衛、命に依て其地に発し、破船を檢按す。又加路の湊内に繋りし唐津船吹放れ、水主一人溺死せり。	222	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
50	元禄 15	228	17020326	大火	因府年表	夜泊村大火。民屋八十四宇焼亡す。同日、橋津も大焼にて八十八軒燔滅せり。此時庄屋某、近郷の百姓を駆集て御蔵の火を令防候処、折節大塚へ居合候御郡奉行木村十兵衛、多人数を引率して馳向、下知せる故、遂に御蔵所無恙。依之後日蒙御賞美之仰。	227	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
51					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		648	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
52	元禄 15	830	17020921	洪水	因府歴年大雑集	一八月晦日大風雨之節、米子の城下大水にて、町屋籠七十軒余流、会見・日野両郡は当毛半分も無之、多く永荒二相成候由、同所浦辺江干割寸本角二三十丁流寄、千五百石積之大船うつふけ二相成り流寄、其内はひとと材木積ミ有之候由、稲藁の束共、凡巻万石程流寄、人も大分損し候様相聞へ申候。	166	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
53					因府年表	西北の風強く吹、大雨沃ぐが如にして出水。一記に曰。此日人屋流失し牛馬溺死す。御両国の損亡凡拾万四千九百三十六石四斗と載たり。又八箇年以前の洪水よりも水嵩五寸高しと市語す。	228	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
54	元禄 16	819	17030929	洪水	因府年表	昨日より大風雨にて出水。	234	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
55	元禄 17	305	17040408	地震	因府年表	未の剋地震。	238	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
56	宝永元	1029	17041126	地震	因府年表	巳の剋地震三度動揺す。	242	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
57	宝永元	1229	17050124	大風	因府年表	早朝北風大に吹、寒気酷し。	243	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
58	宝永 2	305	17050329	地震	因府年表	黎明大地震。	245	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
59	宝永 2	628	17050817	大風雨	因府年表	烈風甚雨辰の剋藩君御発駕。御家老荒尾志摩・乾安房・御客会釈神戸下野・三浦函書・御用人岩越官兵衛・永井太郎兵衛・御小取次伊丹基太夫・多田与惣左衛門・御目付安田佐一兵衛・奥田弥一右衛門・御奏者高浜十兵衛・能勢文蔵以下士列之面々都合七拾七人御供に候ず。然る処千代川水出、御渡り難相成、及申の剋被遊御飯城。	247, 248	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。引用箇所が続いて、「一記曰。当夜中之丸へ御一宿と載す。又今日御用人二人・神戸上野へは乗物免許せらる」、とある。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
60	宝永 3	625	17060803	大風	因府年表	大風吹。夜に入て止む。	253	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
61	宝永 3	816	17060922	大風	因府年表	大風吹。今日、来年の江戸御番を被命。岩田一学、外に番士十一人も。内倉吉にて一人。	255	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。底本では「岩田一学」の下に「番頭」と傍注が振られているが、引用箇所では省略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
62	宝永 4	819	17070914	大風雨	因府年表	大風雨。	259	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
63	宝永 4	911	17071006	洪水	因府年表	洪水。	259	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
64	宝永 4	1004	17071028	大地震	因府年表	未剋大地震。所処破損多し。同剋江戸大坂動揺尤甚し。中ノ嶋御屋敷の借屋百廿余宇崩壊すと云。又一記には、江戸大坂地震、宗是町の御屋敷潰家怪我人多しと云々。但十四日の事とす。	259, 260	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所末尾に「他日可糺之」、と傍注が振られている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
65	宝永 5	-123	17080315	大風	因府年表	夕大風吹。	262	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
66	宝永 5	327	17080517	大地震	因府年表	大地震。	262	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
67	宝永 5	812	17080925	大火	因府歴年大雑集	一八月十二日之夜、伯耆国河村郡松崎町大火、御茶屋焼亡す。	180	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、底本では引用箇所が続いて、「案に、古には、太守の御国廻りと申事有之候而、所々二御茶屋と申ものありたる様二聞ゆ、備前侯御時代よりの事なるへき歟、興禪院様・清源寺様御両代には、御国廻りと申事相見へ候得共、備ならず、其後天祥院様御代までも、若桜・浦富・倉吉などにも御出ありて、御逗留之事相見へ申候へ共、當時は右等之義も絶而無之候也、右之御茶屋ハ、御国廻之時の御旅館の如二相聞へ申候、その在たる所ハ、黒坂・松崎・倉吉・青屋・若桜・岩井などにも有之と云、其外二も有べし、今は勝見と吉岡のミなり、吉岡も焼失後久敷建ざりしに、近年御再建なされたり」、とある。	鳥取県立博物館
68					因府年表	夜河村郡松崎町大火、御茶屋燔滅す。	265	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「案、往世太守家御国巡り遊されしときの御旅館なる可き歟。御領内諸所に其名残あり。恐くは備前侯御時代の処置なる可し」、とある。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
69	宝永 5	829	17081012	大火	因府年表	巳剋米子大火。但御城の近辺は無恙。	265	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
70	宝永 5	1216	17090126	大雪	因府年表	大雪降、積地可八九尺。八九拾年以來如此大雪なしと聞えたり。嚴寒殊に強して湖山池水閉、その厚さ可五尺、人馬数日の間その上を往来す。翌年三月に及んで漸く解散り、船の通行相成ると云。稀代の酷寒なり。又潰家尤多し。又途中に於て吹雪の為に斃るゝ者少からず。又城州淀川・遠州大井川・駿州富士川なども氷りたりしと云。	268	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
71	宝永 6	911	17091013	大雨	因府年表	晴天及申剋迅雷暴雨。	273	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
72	宝永 7	125	17100223	地震	因府年表	地震。	276	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
73	宝永 7	309	17100407	地震	因府年表	地震。	276	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
74	宝永 7	604	17100630	霰害	因府歴年大雑集	宝永七とら六月四日午剋、西南之間より雷鳴し、須臾間も鳴止ず、その響口□□様ノ如し、漸々強く相成り、大霰降ル、大サ○如此、此ハ、御城山御天守丸ノ西なる松の根へ雷落、又かひら町へも落ル、及晩景漸々止ムト云々。	185	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。「貼紙」とされたもの。底本の「○」部分には「(実物大)」と傍注が振られている。	鳥取県立博物館
75	宝永 7	811	17100904	地震	因府歴年大雑集	一宝永七寅ノ年秋八月十一日午ノ下剋、当国大地震、山ワレ、地ヒラケ、水涌出、人家崩し、人馬死スル事多シ、古老モ聞伝ヘザル大地震ナリ、人民共ニ宅ヲ去リ、昼夜庭中ニ竹ニテ小屋ヲ営ミ、日数四五日ガ程居之、伯耆ニ不聞大地震ナル故、号シテ于今寅ノ地震ト称スルナリ、当山分テ強く、山川動揺シテ、今崩ルハ如ニシテ、御舎モ危ク見ユ、然レトモ、地震モ止ヌ。以上、伯耆民談記。	186	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、底本の「当山分」の箇所には「大山ヲ云也」と傍注が振られている。なお、「因府年表」では同じ地震と思われる事象について、閏8月11日の発生としており、とりあえず別個のものとしてデータを取った。	鳥取県立博物館
76	宝永 7	-811	17101003	地震	因府年表	未剋大地震。西の方殊更強く動揺すと云。河村・久米両郡の間、破損尤多く、所処山崩れ、民舎を圧潰すと云。倉吉士商家土蔵を損じ、大地に巻尺程なる割目往々に入り候由。又八橋町の内六十余宇潰家あり。其外津田氏の茶屋を始め家中やしき破損少からず。又大山の六坊震倒せし由、市語す。	279, 280	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。「因府歴年大雑集」ではこれと同じ地震と思われる事象について、閏月であることを明記していないため、とりあえず別個のものとしてデータを取った。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
77					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		625, 626	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
78	正徳元	910	17111021	大火(真教寺火事)	因府歴年大雑集	一九月十日夜、南風少シ吹、亥刻真教寺より出火。【中略】始真教寺之方丈之方より失火起り、客殿・庫裏悉く焼亡す、一旦火鎮り候所、本堂の後の方へ火藪を多く吹溜たり、いか成ル故にや、此時町目付、町火消の者を打擲しけれバ、皆逃散候所、其内本堂に火燃付候へ共、防く人乏しく、頓而兩破風より火を吹出す、是より町の方へ焼出、大火と成れり、翌十一日卯下刻ニ及んで鎮火す、真教寺之境内ニ而ハ、鐘樓・毘沙門堂も焼失せり、但、法然堂ハ災を免る、又、当寺の前町並高砂屋藤蔵方之酒蔵【中略】、並茶町土手際にて絹川弥一左衛門宅、是等ハミな風下火の中なと成りしに、稀有ニして残りぬる故、人皆不思議なる事ニ評せしと也。以上ハ珍事録ニ載る所也。	191, 192	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
79					因府年表	亥の尅真教寺より出火、頗る大火と相成る。翌十一日辰の尅に及んで漸く鎮火す。但、下火は夜に入て未消と云。この日沓州公の御差図を以て、采女様〔清源寺君の御養ひ実は沓州公之四男〕御出馬なされ御目付へ御下知なさる。此時茶町絹川弥一左衛門やしき、鹿野海道にて高砂屋藤蔵が家、又火元の寺にて法然堂同く門前の商家災を免る。此災御換国以後未曾有の大火なりと云。	287, 288	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所において、「竈数千廿七、長さ堅六町幅四町程、蔵数百卅九、酒店廿八軒、侍屋敷十八軒、と記載されている(底本では「千廿七」の後に「但町敷十八丁」と傍注が振られている)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
80	正徳2	116	17120222	大雪	因府年表	大雪積、士商家の破損不少と云。	290	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
81					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		626	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
82	正徳2	301	17120406	大火(麩屋火事)	因府歴年大雑集	三月朔日、南風吹、夜五ツ半時、二階町麩屋次郎兵衛より出火、同夜七ツ半時鎮火、其以前より雨降ルト云々。【後略】	193	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、194頁にも関連記事あり。	鳥取県立博物館
83					因府年表	戌の半尅二階町麩屋次郎兵衛宅より出火。南風強く吹大火と相成り、後雨に属す。凡堅拾町横五町程の間焼土と成れり。町敷拾五町、竈数九百六拾九宇。一記に載する処にては、千四百七拾九宇とす。内侍屋敷四十軒、土蔵三拾四戸前燻滅す。及寅半尅鎮火すと云々。又、或記には此火丹後町まで焼抜るとあり。今に是を麩屋火事と称して稀有の回祿とす。	290	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
84	正徳3	704	17130824	大風雨	因府年表	子尅過巽の方より大風吹起り、曉更に及んで益烈しく、夫より良に転じ翌朝に至り乾に吹かはし雨氣を催し、巳刻に及んで大風雨と相成る。此日二百十日より七日以前なり。	300	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
85	正徳3	713	17130902	大風雨	因府年表	今日二百十日。曉更より南風大に吹屋夜休止せず。翌十四日黎明に及んで、大風雨と成り頓て風止む。農民の愀眉尤甚し。此日の大風四国・九州殊に損亡多しと聞ゆ。当年浪華の米相場は百五十目、御国は百廿九程なり。下民の困窮謂ん方無し。	300	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。記述されている内容が後掲の享保4年の大風被害の際のそれと類似しており、あるいは混同している可能性もある。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
86	正徳3	912	17131030	大風	因府年表	西風大に吹霞降る。駒帰の駅大火、御茶屋其外民屋八十余宇燻滅す。	300, 301	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
87	正徳3	912	17131030	大火	因府年表	西風大に吹霞降る。駒帰の駅大火、御茶屋其外民屋八十余宇燻滅す。	300, 301	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
88	正徳4	808	17140916	大風	因府年表	大風吹。荒川半弥下やしきへ居ける間夫、並柏原武平下女死せり。	305	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所につき、「不詳」と傍注が振られている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
89	正徳5	728	17150826	地震	因府年表	地震。翌廿九日又八朔に動揺す。	311	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
90	正徳6	-228	17160420	大風	因府年表	夜大風吹。	313	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
91	正徳6	608	17160726	大風雨	因府年表	大風雨。所処破損多し。袋川出水。海上難船あり。	314	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
92	享保2	101	17170211	大風	因府年表	西北風強、吹雪頻りに降る。辰尅、御仮住居より御本丸に被為成。寄合以上年頭拝賀被為請之。畢て太鼓御門通り沓州公へ為御慶賀御出。及未半尅被遊御帰座。	318	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
93	享保4	418	17190605	大火	因府年表	用ヶ瀬の駅大火、民屋百拾一字焼亡す。御茶屋は幸にして余災を免る。	333	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
94	享保4	724	17190908	大風	因府年表	酉尅南風強く吹起り大に禾稼を損害す。及子尅止む。此日二百十日より七日目なり。米相場是迄は百七匁なりし処俄に百四拾目に登る。又京大阪並四国九州之地は去る十三日稀代の大風なりしと聞ゆ。	335	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。記述されている内容が前掲の正徳3年7月13日の大風時のそれと類似している。あるいは混同している可能性もある。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
95					因府歴年大雑集		214-221	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。	鳥取県立博物館
96	享保5	401	17200507	大火(石黒火事)	因府年表		338-341	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
97					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		626-629	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
98	享保6	-715	17210906	洪水	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		648, 649	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
99	享保6	-715	17210906	洪水	在方諸事控		115-117	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「享保六丑ノ歳壬七月十五日洪水ニ損毛、其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館
100	享保6	-715	17210906	洪水	因府年表	洪水。自十二日雨降り、十三日・十四日共東けにて大風雨。今日大水出る。米子にては流家五軒、崩家九拾軒、其外破損百一軒と聞えたり。又倉吉も水深き事四五尺。河筋所処土手切れ御領内の損亡尤甚し。	349	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
101	享保7	219	17220404	大火	因府年表	夜岩井湯村大火。栗屋茂兵衛が宅より出火。御茶屋も燻滅す。	353	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
102	享保7	623	17220804	大雨	因府年表	夜大雨如沃。	355	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
103	享保7	624	17220805	洪水	因府年表	土手外洪水。	355	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
104					在方諸事控		136, 137	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「享保七寅年六月廿四日・廿五日洪水ニ損毛、其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館
105	享保7	901	17221010	大風	因府年表	夜大風吹、柳蔵の柳の旧樹を倒したり。其所在は、惣門の出口向の土手の上なり。此古樹は、往昔池田備中公の鳥取へ御在城なされし比植置給ひしが、此時に枯失たりしと云。されども、今に御蔵の字に遺れり。	356	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
106	享保7	1227	17230202	大雪	因府年表	大雪積地可五尺。依之相對の年礼は致延引候様被仰触。	357	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
107	享保8	119	17230223	大風	因府年表	巳尅暴風吹起り、御領内の海面破船夥しく、溺死せる者凡百六十八人と聞えたり。	357	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
108	享保8	810	17230909	洪水	因府年表	大風甚雨洪水。伯州之地損亡多しと聞ゆ。	359	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
109	享保 9	221	17240316	大風	在方諸事控		160, 161	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「辰二月廿一日大風郡々潰家并倒木之覚」。	鳥取県立博物館
因府歴年大雑集					一二月廿一日、早朝ヨリ南風大ニ吹起リ、未剋ヨリ弥強ク、申剋ニハ辰巳ニ転シ、夜ニ入不止、子剋ニ及テヤウハノト落タリ、近年ニハ無比類大風ナリ、此風強ク吹来レル前ニハ、必南方ニ電光アリ、諸所破損夥シ、翌廿二日ニハ日和ト成タリ。	232	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館	
因府年表					早朝ヨリ南風揚塵、未の剋に及て俄に強く吹出し、申の剋時分、巽に転じて愈烈しく、大風の来れる前には必南方に電光閃々たり。及丑の剋、風西に廻りて漸く静る。雨には不属して日和となる。近年無比類大風にて所処破損夥し。	364	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館	
112	享保 9	408	17240430	大火 (黒川火事)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		629	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
因府歴年大雑集					一四月八日、鳥取大火、俗ニコレヲ黒川火事ト称ス、此日午ノ下剋、下台町黒川祐清宅ヨリ出火、南風烈シク、少々西風モ添タリ、最初丹後町ノ方へ焼出候コト甚急ナリ、其ヨリハ風上ノ方ヘト焼上リ、大火ト相成ル、不思議ト申モ無類、翌九日ノ未明鎮火ニ厲ス、委シクハ因ヲ見テ可知、コノ時、天祥院様被遊御出馬、御家中ノ士ニ御下知アリテ、火ヲ防ガシメ給シユヘ、御曲輪内此災ヲ免ルヘト云、荒尾但馬・荒尾右近〔志摩養子〕最働アリ【後略】	232-235	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館	
因府年表					南風吹。さまで強からず。巳の半剋、下台町黒川祐清宅より出火。大火と相成り、惣構の内なる商屋大半焼亡す。僅に若桜町・職人町より上余災を免る。上の方は古大工町〔今は元大工町と云一記には、薬研堀と載りたり。察すらくは、此町の橋際まで焼ける故、しか記せしと見えたり。其比には、此所に土橋を架したる堀筋も薬研ぼりと称へしと見えたり。〕下は内田〔一記には大隅中屋敷とあり。〕又川向にては出来薬師その中間残らず燼滅す。去る程に、火勢甚熾にして御曲輪の内甚危く、既に内丹後町惣門〔今云杉浦〕の内へ焼入、初鹿野七郎・井上勤兵衛宅延焼す。然る処、藩君被遊御出馬、御家中の士へ御下知を加へ給ひし故、何れも粉骨してこれを防ぎ、他に不移りしと云。此時荒尾但馬成倫・荒尾志摩豊就就中働きありしと聞ゆ。一説には豊就自身釣瓶を執て井の水を汲上、諸士を励ましけりと云。及暁更、漸く鎮火致し、其上にて藩君御入城なされし由。此大火も稀代なる故、今に黒川火事として其名を伝ふ。【後略】	365, 366	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館	
115	享保 10	312	17250424	山崩れ	因府歴年大雑集	一三月十二日、珍事録云〔享保十七年以前之記也〕、法美郡神垣村、去比より山崩候由評判有之候所、今日大ニ崩、凡巷里斗も出、瀧坪へ落入赤土山の土ニ交りて水流出、因幡川筋袋川末ハ、加路の海門迄泥土を流すと云々、是ハ霜崩と申ものにて、霜柱と云もの立、春ニ逾候而崩もの也ト云、又、高草郡布施村へ逼塞致候旅人の記に、三月朔日鳥取二出、二日帰、袋川先月廿七日より赤土をおだて候様に濁り流れる、朔日ニハ澄て居申、二日八時分罷帰候節、夥敷にこり流れ候、十四日、袋川の濁り、水上ハかうかき村之奥ひととづえ候而、其流の由、森官次郎・同梶之助見物、一昨十二日罷越候而見被帰候旨、鳥取より三里程有之由。△俗説ニハ、蛇の出る所爲也トモ云、或ハ蝶の出飛たるなど評じたる由。	242	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。引用箇所中の[]内は底本で割注部分。なお、底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
116	享保 10	713	17250820	大雨・山崩れ	因府歴年大雑集	一七月十三日、八上郡散岐郷雷鳴して、夕立雨桶を覆か如くにして、暴水漲り出、僅一時程の間也、水嵩二丈斗も有之様ニ覚候由、但、巷里斗の間にて、谷奥は別条なし、就中、荒金村山崩り、四間ニハ間程なる民屋四軒を埋む、此邑は田畑を損ス、其外谷内ニ山の抜たる所まゝ有之候由。	242	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。なお、『因府年表』では享保11年7月13日条(381頁)に記載されており、要検討。	鳥取県立博物館
117	享保 10	903	17251008	大風雨	因府年表	丑剋大雨如沃。翌四日巳剋北風強く吹起り、川々出水、又海上破船多し。	375	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
118	享保 10	928	17251102	洪波	因府歴年大雑集	一九月廿八日朝五ツ時、高草郡加路村へ洪波忽打寄て、御番所の前なる燈籠の台の石垣を牽崩ス、依之、御番人共驚て、難を町屋へ避く、此日、但州へ津浪打候間へ有之候間、定而その余波なるべしと聞へたり。	242	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。これと類似した記事を、「因府年表」では享保10年のこととして掲載している。いま、とりあえず別の災害と見做し、それぞれ項目立てしておいた。	鳥取県立博物館
119	享保 10	1115	17251219	地震	因府年表	地震甚微也。米子組加納儀左衛門出奔す。	376	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
120	享保 10	1220	17260122	大雪	因府年表	大雪降る。宝永七年以来には如此事無之と云。	377	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
121	享保 10	1228	17260130	大風	因府年表	北風強吹本町吉町目より出火。早速に打消、幸に他に不影。火元は佐藤庄助と申浪人の家なり。	377	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
122	享保 11	101	17260202	大風	因府年表	雪天二之御丸御在国。年首之嘉儀万々如恒例。寄合以上御城詰之面々年頭拝賀。夜に入大に西風吹。	377	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
123	享保 11	227	17260330	山崩れ	因府年表	法美郡神垣村山崩れ、袋川筋泥水を流す。三月中旬迄加路の海門水赤しと云。【後略】	378	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
124	享保 11	411	17260512	大火	因府歴年大雑集	四月十一日暁、南風吹、藪片原坂田次太夫通欽之木部屋、賊火起り候へ共、早速打消、他へ不影、然所、真宗寺之側なる町屋之雪隠より火起り、大火と相成る、此外ニも武ヶ所ニ附火ありしと云、其比殿様へは、勝負へ御入湯被遊居候而御留守也。【後略】	246, 247	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
因府年表					暁更藪片原坂田次太夫屋敷の木敷より出火。漸々消留之。然る処、同時に真宗寺の傍なる借屋雪隠より火炎上り、南風殊に強吹、大火と相成る。知頭海道は北側の裏通りより、下は丹後町迄焼出。夫より川向へ飛火、荒尾但馬下屋敷の際より引続き出来薬師川下迄延焼す。及卯半剋鎮火し畢ぬ。一説云。此度の火事は賊火にて、起火の時三四箇所より燃出候と云。	379, 380	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館	
126	享保 11	704	17260801	大雨	因府年表	強雷甚雨如沃。一記には、土の雨下るとあり。	381	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
127	享保 11	713	17260810	大雨	因府年表	疾雷甚雨如覆盆。八上郡散岐村荒倉と申所より暴水激流し、山岳を崩し、民舎四字を圧埋む。その水嵩二丈斗りなりけるが、須臾にして忽滅すと云。	381	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
128	享保 11	804	17260830	大雨	因府年表	酉の下剋強雷頻りに轟き及子刻雨に属し恰も如覆盆にして鳴止たり。	382	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
129	享保 11	928	17261023	津波	因府年表	辰の剋 洪波加路へ打寄、御番所の石垣を牽崩す。然る間官舎驚動して難を民屋に避く。【後略】	383	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。これと類似した記事を、「因府歴年大雑集」では享保10年のこととして掲載している。いま、とりあえず別の災害と見做し、それぞれ項目立てしておいた。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
130	享保 11	1202	17261224	大風	因府年表	午後後藩君立川の広治菴へ被為入、御帰座及夜半。此日広治へ縮緬三巻被遣之。自暮夜南風強く吹起り、終夜不止。今日庚申也。	384	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
131	享保 11	1208	17261230	洪水	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		649	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
132					在方諸事控	午十二月八日昼八ツ時、会見郡岡成村堤切候【後略】	199	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。	鳥取県立博物館
133					因府歴年大雑集	一十二月八日、伯州会見郡尾高村之堤、今屋切崩れ、民屋を流亡ス、此時同村幸三郎より注進申上候書付を抜書スト云々。【後略】	251, 252	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
134					因府年表	午の剋会見郡岡成村の堤潰え、尾高村の民屋百余宇押流され、男女溺死せる者七拾三人、牛馬廿一頭流亡す。稀有の珍事也。	384	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の[]内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
135					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		629, 630	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
136	享保 12	226	17270417	大火 (帳屋火事)	因府歴年大雑集	二月廿六日午半刻、新町油屋三郎左衛門借屋二居ける住吉屋源三郎ト申候帳屋の家より失火起り、南風強吹、大火と相成り、内丹後町、湯所下ノ丁内田の辺迄延焼ス、加之、片原町の火、広小路二建居候火ノ見櫓ニ燃付、内曲輪ノ方へ倒れ候へは、忽チ大寄合輪殿氏の宅に火移り、丹後町惣門の内迄延焼し、士・商家多く播滅す、申ノ下刻ニ及て鎮火ニ風ス。【後略】	252-254	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。なお、底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
137					因府年表	南風吹午時新町油屋三郎左衛門借屋へ居住せる住吉屋源三郎と申帳屋より出火。御曲輪へ焼近付、知頭海道の広小路に建居たりし火の見櫓に燃昇り焼倒候節、輪殿氏の宅に火移り、柳蔵の辺延焼し、荒尾但馬中やしきにて焼留る。又御曲輪外の火は、上は若桜海道北側の背通り、下は湯所下の丁迄の間、悉くに燼滅す。晩景に及んで漸く鎮火し畢ぬ。稀有の大火なれば、帳屋火事と称して今に其名を伝ふ。近年は府下に火災数にして、遅速一同ならずと雖、是を免るゝ者殆稀なり。甚しき者に至ては、及四五度も有之と聞えたり。【後略】	386	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。引用箇所中、冒頭の「午時」の部分には、「イに巳」と傍注が振られている。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
138	享保 12	727	17270912	大風	因府年表	夜西風大に吹、雨少々降る。	388	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
139	享保 12	917	17271031	大火	因府歴年大雑集		255	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。	鳥取県立博物館
140					因府年表	【前略】此日午の半尅、還御の御途中大森町出火。去れども御行列は無停滯。此災に焼失せし軒別如左。【後略】	388, 389	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
141	享保 12	928	17271111	大風	因府年表	南風強吹。午の半尅光明寺の門前の鍛冶屋より出火。但早々撲滅。同日玄好のいと、同晩愛宕の下より出火。皆賊火なりし由市語す。然る間府下の人情騒々然たり。	389	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
142	享保 13	523	17280630	洪水	在方諸事控		218, 219	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「享保十三年五月廿三日廿四日・六月六日七日両度之洪水損亡、其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館
143	享保 13	606	17280712	洪水	在方諸事控		218, 219	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「享保十三年五月廿三日廿四日・六月六日七日両度之洪水損亡、其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館
144	享保 14	312	17290409	大風	因府年表	南風強吹翌朝鍛冶町に火業あり。仍て御吟味被仰付。	398	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
145	享保 14	321	17290418	大風	因府年表	夜大風吹、火の廻りあり。	398	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
146	享保 14	429	17290526	大風	因府年表	南風大に吹、府下破損多し。	399	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
147					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		649-651	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
148	享保 14	714	17290808	洪水 (酉年水・丁酉水)	因府年表	及黎明袋川へ洪水漲り候に就て、御役人共土手筋へ出張り、所処に土俵を築きて防留候へども、水勢益強盛に相成り、既に是をも押崩し、内町へ蕩々として矢の如に切込しかば、士商家は忽に淵底と成る。知頭口惣門の辺、水深き事可七尺。大手御橋の内迄水入り、上みは上町御宮の大華表の前、粟谷は興禅寺の垣の際〔当時は其比より廿間斗下に在〕迄水来れり。去程に袋川筋は若桜橋落、それより下なる橋は悉くに流落、民屋流亡し、溺死せる者難勝計。斯る稀代の洪水なれば、今に酉の年水とて其名を伝称せり。【後略】	400	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。この前日、7月14日条には「艮の風烈しく吹、黒雲奔馬の如くに去る。申の半尅より甚雨沃ぎ、終夜不止」とある。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
149					因府歴年大雑集		262-266	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。	鳥取県立博物館
150					在方諸事控		236, 237	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「享保十四年酉七月十五日洪水損亡、其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館
151					五水記		8, 9	建設省鳥取工事事務所編『五水記』(社団法人中国建設弘済会、1974年)。底本の原本は鳥取県立図書館蔵。なお、対応する箇所の現代語訳が同書40-42頁にある。	鳥取県立図書館
152					在方諸事控		240-242	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。	鳥取県立博物館
153	享保 14	914	17291006	洪水	因府年表	連日雨湿今日巳の尅より北風吹起り、大雨沃ぐが如にして、暴水漲り出、一本橋落。知頭橋は御普請半なりけるが、中程を損じ、鹿野橋五間程流失す。先の七月の洪水に比すれば、三尺程水嵩卑しと云。此日栗谷川の奥鎌磨と云所にて、樵夫二人大風に吹倒され激水の為に押流され、一人は死して、死骸天王よりも下に揚り、今一人は辛じて助命せり。又伯州倉吉出水、新御蔵並妙玄寺の土手切る。	401	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
154	享保 14	924	17291016	大風雨	因府年表	北風烈吹大雨如沃。	401	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
155	享保 14	1217	17300204	雪崩	因府年表	八東郡落岩の農家八軒、雪なだれに圧埋められ、男女三十余人死亡。	403	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
156	享保 15	605	17300719	大火	因府年表	夜半、餌指町出火。御飛脚やしき竈数拾二軒焼失。	407	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
157	享保 16	812	17310912	洪水	因府年表	北風大吹、甚雨如沃。袋川満水し、民屋の破損少からず。	414	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
158					在方諸事控		258, 259	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「享保十六亥年八月十二日同廿七日両度之洪水損亡」。	鳥取県立博物館
159	享保 16	828	17310928	洪水	因府年表	洪水。	414	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
160					在方諸事控		258, 259	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「享保十六亥年八月十二日同廿七日両度之洪水損亡」。	鳥取県立博物館
161	享保 16	903	17311003	洪水	因府年表	出水。内湍に満溢す。	415	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
162	享保 16	1005	17311104	地震	因府年表	地震。十四日にも亦動揺す。	415	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
163	享保 16	1014	17311113	地震	因府年表	地震。十四日にも亦動揺す。	415	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
164	享保 16	1126	17311224	大風	因府年表	大風吹古海の上の船渡しの船頭過て綱を手放し、船水に入り人多く死す。	416	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
165	享保 17	222	17320318	火災 (西館出火)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		630	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
166					因府歴年大雑集	一二月廿二日戌刻、近江守様御館の御長屋より致出火、会所半類焼す、二ノ御丸、風下二而甚危候二付、御城代番ハ勿論、大手江相詰居候諸士之面々へも御目付より下知有之、御庭之内二入て防之、及丑刻鎮火致候ト云々、同日酉刻、立川へも出火あり。【後略】	280	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
167	享保 17	222	17320318	火災 (西館出火)	因府年表	亥尅近江守様御屋敷〔二之御丸下当時火除地〕御長屋〔一記には御小人小屋とあり〕より出火。会所〔宮内通りの山手御火除地の表側に在り〕半燔滅す。此日、二之御丸風下にて火勢最熾にして、既に危く相見え候間、御城代番の輩は勿論、又、大手へ相詰居たりし諸組の面々へも御下知有之、御城内へ入御庭内にて防禦せしと云。丑の刻過鎮火に属す。	417, 418	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
168	享保 17	329	17320423	大風	因府年表	夜南風強く吹。	418	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
169	享保 17	626	17320816	大雨	因府年表	迅雷大雨出来薬師荒尾越前足軽屋敷に落ち、小頭某が母被撃死す。又其外府下へ三箇所に震す。	419	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
170	享保 18	206	17330321	大風	因府年表	大に南風吹。	423	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
171	享保 18	212	17330327	大風	因府年表	甲子大に南風吹。今日は彼岸の中日也。	423	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
172	享保 18	811	17330918	地震	因府年表	未の尅大地震近年に無比類。頃刻にして又動揺す。	426	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
173	享保 18	816	17330923	大風	因府年表	夜大に南風吹く。	426	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
174	享保 18	1216	17340120	大雪	因府年表	大雪降、所処に潰家多し。	428	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
175	享保 20	-322	17350514	大風雨	因府年表	当夜大風雨。盗賊青木御馬場の内なる御金蔵へ忍入戸前を切破り、莫大の金子を掠去れり。依之右の御穿鑿甚以厳密也。	435	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
176					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		630, 631	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
177	享保 20	513	17350703	大火 (長田火事)	因府歴年大雑集	一五月十三日、上野氏之記ニ、午時分、長田ノ神社の山下町屋より失火せり、折節南風烈敷吹て、権現堂ノ方角ハ、町屋も侍屋敷も一捲り二焼て来りしかバ、去ヌル子ノ年の火事ニ焼たる芳心寺・大隣寺・興禅寺など漸ク再建しける、又今年の火事に焼て、栗谷まで通りたるにより、其時に予が栗谷の屋敷も焼失したれ共、本宅ばかり焼て、長屋ハ残りたれば、予が屋敷ニて焼留りたり、急火ニて、何一ツ取除ケル隙ハ無りけれ共、家ばかり焼て戸障子ハ一枚も焼ざりけるハ、天満宮の加護なりと云々。【底本ではここで改行】案、上野氏ハ忠親也、長田の山下の町家ト云ハ、今火除の為、古往的場的地の二つゞき、当時芝生となりて布木綿を晒せる所なり。夫までハ、長田の鳥居より上も、両側町ニてありし也、又、予が栗谷の屋敷とあるは、興禅寺の土橋の向なる下角ニて、当時小谷伊兵衛これ二居れり、又一老の説ニ曰、此火事之時、芳心寺の塔頭本慈院ニ、梅山院と云る有驗の間に高き僧住職してありけるが、屋上ニありて、初中後誦経せしに、完龍院・本山共延焼せしか共、本慈院ハ残りたり、此時大工ニ法華の信者ありて、初の程ハ、俱二屋の棟二居て経を誦居けるニ、焰火四方を取巻けれバ、炎燃ニ絶難ふして、其場を避しとなり、此梅山院は、予か幼年の比迄長寿して居られたり、今の完龍院ハ、此僧の普請なり、又、此火事の由来因府録ニ委し、本書ニ譲りて略之。【後略】	289, 290	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。また、底本では「案」以下は本文二字下げにて記載。	鳥取県立博物館
178					因府年表	午時過権現堂長田大明神の社地の下なる商家〔以前は此所両側町なり〕天王寺屋伝三郎と云者の借屋より出火。此日南風強く吹、頗る大火と相成り、山下通りは江崎の方へ焼出、栗谷の奥迄延焼す。上野小平太屋敷〔上江崎より栗谷へ曲る左角〕本宅は炎滅して、門長屋は残りて是限りに焼留る。及申の下尅鎮火に属す。此日山手の方は唯識院並坊中不残燔滅す。但御宮は無恙。芳心寺並塔頭完龍院、夫より連々大隣寺・日香寺並塔頭林乘院、栗谷にて興禅寺〔一記に此時未御普請中なりしと載す〕並塔頭残りなく燔滅す。其外士商家多ク延焼す。此日御城の大手へ相詰候諸士之輩、着到帳に筆する姓名凡四百余人。其供人を合する時は数千人に及ぶと云。此災御曲輪外には候へ共、御城の方へ余煙吹靡け候に依て也。今に是を長田火事、或は権現堂火事とて老輩の口碑に伝へたり。	435	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所に続いて、「案、此時出火せしは長田の華表よりも上にて、当時は火除の芝生と成れり。又此大火を筆せるもの彼此見ゆ。尤、不備。他日精記を得ば可糺之。近年野間宗藏物故せしに依て、是等の大火の図伝はず。以後は却て備からざる也」、と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
179	享保 20	717	17350903	大風雨	因府年表	晴天南風吹〔日方なり〕。及申の斜一天赤き事燃るが如し。風翼に転じて強く吹起り、屋を剥ぎ、牆壁を倒し、加之甚雨如沃にして、室中傘を張り手を空うして休止せるを俟者多かりしと云。此日は二百十日の翌日なりし由。又一記に載るには、北風大に吹とあり。されば後に至ては風北に吹かはしけるにや。	436	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
180	元文元	718	17360824	大風	因府年表	大に南風吹。	440	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
181	元文 3	426	17380613	大風雨	因府年表	午尅雷鳴。坤の方より暴風忽に起り、甚雨如沃。雷交り降る。其大さ中栗の如し。此日大樹を倒し、屋宇を穿ち、飛鳥翼を折或は地に墜て死す。古海の松八木倒れたり。而るに湯所にては更に此変を不知と云。	447	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所に続いて「案、一記には、雷の重さ三四十匁。毛も交り降りしと云々。又栗谷〔岩井郡敷不詳〕に降りたるは、大さ天目の如しと云々。信用し難し。予が幼歳の比には、此変を知りたる遺老未存在しけるに斯る説は不聞。尤、飛鳥の翼を折、或は牛の背に疵を請しと云事は直説に聞たり。但遠地には如何ありしにや」、と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
182	元文 3	506	17380622	洪水	在方諸事控		327, 328	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「元文三年五月六月霖雨度々洪水破損之覚」。なお、「五月六日」を誤記している可能性があり、ここでは5月6日のことと見做した。	鳥取県立博物館
183	元文 4	806	17390908	大風雨	因府年表	巳尅より西風大に吹起り、大雨頻りに沃ぎ、所処破損多し。	455	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
184	元文 4	1004	17391104	大火	因府年表	夜駒帰りの駅大火。御茶屋焼亡す。	458	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
185	元文 5	607	17400630	山崩れ	因府年表	養寿院の構なる山崩れ、土取の御小人兩人丘損ぜられて死す。	461	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。寛保元年11月28日条にも類似の事項が記載されており、重複・錯簡の可能性もあるが、取り敢えずそれぞれ別箇の出来事と見做した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
186	元文 5	1126	17410113	大雪	因府年表	大雪降り所処破損多し。	465	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
187	寛保元	1128	17420104	山崩れ	因府年表	湯所荒神の山崩れ、土取の御小人丘損ぜられて死す。	471	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。元文5年6月7日条にも地点・被害内容がほぼ一致する事項が記載されており、重複・錯簡の可能性もあるが、取り敢えずそれぞれ別箇の出来事と見做した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
188	寛保 3	418	17430511	大風	因府年表	大に南風吹く。	477	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
189	寛保 3	509	17430630	大風雨	因府年表	昨今大雨。袋川出水。	478	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
190					在方諸事控		397	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「寛保三亥五月九日・十一日・十八日并八月三日風雨二付、損亡其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
191	寛保3	511	17430702	風雨	在方諸事控		397	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「寛保三亥五月九日・十一日・十八日并八月三日風雨二付、損亡其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館
192	寛保3	518	17430709	風雨	因府年表	大雨袋川洪水。廿日又出水。尤、一昨日よりは四尺程少しと云。	478	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
193					在方諸事控		397	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「寛保三亥五月九日・十一日・十八日并八月三日風雨二付、損亡其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館
194	寛保3	520	17430711	洪水	因府年表	大雨袋川洪水。廿日又出水。尤、一昨日よりは四尺程少しと云。	478	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
195	寛保3	803	17430920	風雨	在方諸事控		397	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「寛保三亥五月九日・十一日・十八日并八月三日風雨二付、損亡其外品々相改覚」。	鳥取県立博物館
196	延享元	625	17440803	大火	在方諸事控		403	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。	鳥取県立博物館
197	延享元	810	17440916	大風	因府歴年大雑集	一八月十日〔イセチノヤウなれ共、南風也。〕【底本ではここで改行】朝飯後、雲水まさのやうにて曇ル、微雨、屋より風ちとゞ吹而、余程温成ル、風八時二吹き、七時より段々募ル、暮前夥敷ク、所々やね取、ぬるて木枯ル、上野小平太長屋門ノ方倒るゝ、五ツ時過より風次第和キ、四ツ時過ニハ風半分二成、九ツ時前より又々募ル、暮時より少ハ強く、其家のミひさし又々もくる、石なと上、材木なと上ル、天守ノ大木枯ル、其外松共折ル。	303	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。引用箇所中の{}内は底本で割注部分。なお、底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
198					因府年表	辰尅大風起り、御天守の大榎を折る。又下野守様御館の二間梁、桁行十二間の御長屋を吹倒す。其外所々破損多し。及夜半漸く静る。	483	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
199	延享2	818	17450913	洪水	因府年表	洪水。	488	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
200	延享3	723	17460908	大風雨	因府年表	大風雨。	492	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
201	延享3	824	17461008	大風	因府年表	大風吹き、屋を剥ぎ家を倒し、破損頗る多し。此日怪我人不少して死亡せる者も有之と云。	492	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
202	延享3	901	17461015	火災(城内出火)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		631	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
203					因府年表	未半尅御城内三階の御櫓下御手廻廊より失火起り、例大手へ相詰候御家中の面々も、此日は直に丸之内へ入る。然る処藩君は御馬場〔青木御馬場か或は今の御内馬場なる歟未詳之〕へ御出にて、御近習溝口軍右衛門を以て莊園院〔横尾氏亀姫様の御実母〕を致防禦候様にと御下知依有之、諸士の輩みな屋宇に上り、汗水に成りて防留之候と云々。及申の斜鎖火に属す。此時御長屋三棟は燻滅、二棟をば挽崩したり。	492, 493	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館・鳥取県立公文書館
204	延享5	525	17480620	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	地震。	503	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
205	寛延元	810	17480902	大風	因府年表(鳥府叢秘録)	大風吹。此日辰飯後魚鱗の如き雲襲き漸く曇り細雨を施し、午時後に及んで南風大に吹起り申の刻比尤甚し、亥の尅に及んで稍衰ふ。又、夜半過る比烈風再び吹起り、茅舎を穿ち板屋を巻く。家々これを防んが為、巨石材木など持運べる声いと譁し。御天守の側なる旧樹其外巨松多く倒しぬ。又、諸樹の葉みな吹損じられて恰も床の後の如し。禾稼の損亡、人屋の破壊、無算。	505	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
206	寛延元	903	17480925	大風	因府年表(鳥府叢秘録)	南風大に吹、雨に属す。依之当夕華燿の義、兼て被仰付置候処、御延引に相成る。	505	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
207	寛延元	918	17481010	洪水	因府年表(鳥府叢秘録)	大雨降、袋川出水。	505	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
208	寛延元	1001	17481022	山崩れ	因府年表(鳥府叢秘録)	ささが峰岐の山崩れ落、往来の人圧れ死すと云。	506	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
209	寛延2	410	17490525	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	地震。	510	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
210	寛延2	703	17490815	洪水	因府年表(鳥府叢秘録)	八東郡小船村希代の洪水なり。谷々山抜にて河脈の頭忽変り、民屋に水走せ込み、権次郎と云へる百姓牛と俱に押流され、牛は数津にて助り人は死たり。	511	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。「同日」の記事として、別に「御目付衆組付の士へ聽見あり、然る処夜前よりの烈風大雨にて巳の尅比水出、川向へ住居せる輩は通路絶へたる故、無詮方皆疾に託して取斗ひたりと云々、との記載もある。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
211	寛延3	822	17500922	大火(倉吉火事)	因府年表(鳥府叢秘録)	昏黒倉吉出火、大風にて及暁更鎮火。御組屋敷廿二軒・町家七百軒斗り焼亡。	516	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
212					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		644, 645	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
213	寛延4	229	17510326	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	地震。翌朔日又動揺す。	518	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
214	寛延4	301	17510327	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	地震。翌朔日又動揺す。	518	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
215	寛延4	316	17510411	大風	因府年表(鳥府叢秘録)	南風強吹。	519	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
216	寛延4	1004	17511121	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	地震。	520	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
217	宝暦元	1126	17520112	大火	因府年表(鳥府叢秘録)	暁更元大工町油屋次兵衛より出火、西風強く吹き十二軒延焼、上は妙縁寺の角にて焼留る。	521	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
218	宝暦2	704	17520813	洪水	在方諸事控		603, 604	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「宝暦貳年申七月四日、同八月十一日両度之洪水御領国御破損、左之通書附公儀え御差出」。	鳥取県立博物館
219	宝暦2	724	17520902	大雨	因府年表(鳥府叢秘録)	暴雨、府下に泥鎗を降す。	523	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
220	宝暦2	810	17520917	洪水	因府年表(鳥府叢秘録)	夜大風雨、洪水。	523	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
221					在方諸事控		603, 604	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「宝暦貳年申七月四日、同八月十一日両度之洪水御領国御破損、左之通書附公儀え御差出」。	鳥取県立博物館
222	宝暦3	103	17530205	大雪	因府年表(鳥府叢秘録)	当春大雪に付、互の年礼可致延引旨御下知。	525	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
223	宝暦3	109	17530211	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	五更地震。	525	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
224	宝暦 3	322	17530425	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	倉吉大火。	525	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。寛延3年の倉吉での大火と混同している可能性もあるが、取り敢えず別の出来事と見做し、立項した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
225					因府歴年大雑集	三月廿四日未ノ上刻、本町火元帽子屋より焼出、北風強吹、大火と相成り、茶町之土手より上は、若桜町下側、本町之下側角迄焼亡、川外にてハ、瓦町・今町不残、川外大工町半余、又、下ハ鹿野橋円城院の際迄、但、門長屋残ル、又、竹蔵之後通り押屋敷迄不残焼失ス、此時町家小間二付、丸太柱二本、竹五本、蘆巻束半宛御上より被遣之、竹木藁ハ在中へ被仰付、知頭海道札場升形二而御渡し、目代各是を請取、式町之面々へ分配之、又、御家中之面々へは、物成之内害損御返、但、借宅之輩へは五歩通也、又、御部屋様方二而、兵庫頭様へは御表之通り也、又、摂津守様にては、給人之士へ銀五百目、御支配取ニハ百五拾目、又、御徒士之分ハ七拾五匁拜借也、但、借宅之面々へは半減之割也、尤、来成之暮より五年賦ニ上納可致旨被仰出。【後略】	333-336	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。引用箇所中の {} 内は底本の割注部分。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
226	宝暦 3	324	17530427	大火 (帽子屋火事)	因府年表 (鳥府叢秘録)	北風強く吹、午の下冠多門町〔本丁三丁目なり、〕綿屋佐一郎宅より出火。鹿野海道・知頭海道若桜町辺の商家並に其続なる端々の侍屋敷焼亡す。然る処、真宗寺の堂宇の火、袋川を逾て菅能寺へ移り瓦町・今町迄も延焼す。但、妙玄寺は本堂のみ残れり。此大火町数凡廿七町の内、東西に六町、南北に八町程焼土と成りたり。士商家凡千六百四十一軒燼滅す。稀代の大火なれば、多門町火事、或は帽子屋火事とて今にその名を伝ふ。ぼうしやとは綿屋か店にてぼうしをも販きたる故也。又、此時の火事はさし火にて、早速式町の九十郎と云者被召捕、無程火罪に処せられ候也。	525, 526	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
227					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		631, 632	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
228					在方諸事控	一三月廿四日昼八時過、多門町町会所物書左市郎と申者之居宅より出火致候ニ付、御吟味役御郡奉行在入夫召連、場所え罷出候得共、折節風強く及大火、左之通焼失ニ付、町方え配木左之通被仰附。【後略】	615-618	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。	鳥取県立博物館
229	宝暦 5	824	17550929	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	晩、大風雨と成り、翌朝に逾て不止、府下潰家多し、右に就て、今年三十六年以来無之大凶作と相成る。されとも御年貢御取立、一粒の不足なく飢民科犯人一人も無ししと也。全く郡代の精勤に依て也。	533	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
230	宝暦 5	1219	17560120	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	雪降。積地四尺余。	534	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
231					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		632	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
232	宝暦 6	409	17560507	大火 (川端丁火事)	在方諸事控	一四月八日夕八時、四丁目より出火、鹿野海道隈魚町筋より四丁目迄智頭海道限り焼失。外二真宗寺・米村嘉内類焼。右二付、町方え例の通り類焼之者共え竹木被遣候。右竹木、在中え申付候ては、時節悪敷、其上去年凶年二付、下々致難儀ニ付、木持人夫貫、井葉竹代銀、竹木作廻諸入用等、焼失間数二割合候処、沓間口ニ付式刃八分余ニ相当り申二付、相談之上、御家老中え申上、沓間口ニ付三匁宛被遣候様相窺、御御届相済、竹木代銀として沓貫九百七拾四匁九分、焼失間数六百五拾八間三步割合を以、御町奉行え相渡、右之通り之受取手形、先年之通、御普請奉行え廻ス。木持夫御普請銀二入裏判ニ致ス。【後略】	650, 651	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。	鳥取県立博物館
233					因府年表 (鳥府叢秘録)	未冠過河端四丁目塩屋七左衛門屋守幸助宅より出火、大火と相成り、延焼二百五十八軒あり真教寺も蒙余災れり。一老の説に、当夕火の鳥と云もの出来り、焰火の中を翔りたりと云怪説あり。	535	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所に続いて、「一記に、四丁目より出火、智頭海道角まで焼出、若木屋六右衛門限りに留ると云也」、と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
234	宝暦 6	504	17560601	大火 (米子火事)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		645	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
235	宝暦 7	408	17570525	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜丑の刻、河端四丁目豆腐屋幸助より失火起り、町数五町竊数二百五十軒、土蔵二つ侍やしき二軒真宗寺焼失す。	540	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では、記事冒頭の日付(「八日」)の右脇に「※一記に」の注記がある。また、前年の宝暦6年の4月8日条にも被害の類似した大火記事があり、重複・錯簡が起きている可能性もあるが、とりあえず別個の火災と見做し、立項した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
236	宝暦 7	726	17570909	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹く。	541	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
237	宝暦 7	905	17571017	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	洪水。	541	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
238	宝暦 7	1124	17580103	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	岩井郡湯村焼失。	542	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
239	宝暦 8	226	17580404	火災	因府年表 (鳥府叢秘録)	子の尅天神の下より出火、肥後ヶ谷の辺まで延焼す。	544	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所に続いて、「一記に立川靈光院門前町屋よりとす」、と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
240	宝暦 10	521	17600703	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雨常に瀧き翌日洪水。	554	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
241	宝暦 12	701	17620820	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	古海へ御出御川狩、午後風出強く吹。	565	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所に続いて、「一記に少御不例にて御礼無之とあり。如何精記に糺すへし」、と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
242					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		651-653	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
243	宝暦 12	715	17620903	洪水	因府歴年大雑集	一七月十五日洪水、我等居宅、床下迄水入ル、床ト水ト間四寸程あり、伯州河村・久米両郡、古今無双之洪水とかや、久米郡奥分より倉吉近郷ハ就中大水、御田地水損も夥し、溺死人も数多く、亦、牛馬溺死ハその数を不知といふ風聞也、倉吉新御蔵流し、其跡洩となる、御蔵番伊六と云者、妻子共ニ溺死す。	349	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
244					因府年表 (鳥府叢秘録)	夜大風雨翌朝出水。但、昼前には引く。此日伯州洪水、倉吉新御蔵潰流れ其跡淵の如くに相成る。御番人伊六と云者、居宅流れ家内七人流亡す。郡郷の間、人畜の漂没せる事夥し。此日二百十日より三日前也と云。当年享保辛酉洪水の三拾三年目なる故、水害あるへしと愚俗挙て評しけるが、月日も不達して此水難ありしと云。	566	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では「此日伯州洪水」の脇に「一記に六月十六日」と傍注が振られている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
245	宝暦 12	715	17620903	飛砂	因府年表 (鳥府叢秘録)	加路明神の社務岡村左門が居宅へ砂潰込み難儀に及ぬる故、此度相願稍上の地に家を移す。	566	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
246	宝暦 12	804	17620921	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜地震。	566	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
247					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		651-653	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
248	宝暦 12	809	17620926	洪水	因府歴年大雑集	一八月九日、鳥府亦洪水、去月の水とは違ひ、以の外大水なり、土手内ハ格別、此度の水、鳥取中一円に、大か小か、床二不上所なし、去ル享保十四酉年鳥府大水ト云ル以来の水ト云風聞なり、我等居宅なぞ、床の上二八九寸斗も乗りし也、彼酉のとし水ハ、七月十五日なりしとかや。	349	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
249					因府年表 (鳥府叢秘録)	雨天丑の尅比より西風強吹、大雨頻りに沃き、翌九日午時の比嵐に吹軋し洪水と相成り、府下床を浸す所あり。夜半比に至り水勢減す。去月の出水よりは二尺高き由、享保己酉以来如此洪水なしとの評判なり。此日養寿院の山崩る。	566	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
250	宝暦 12	1108	17621222	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	亥尅、吉方一本橋鍛冶屋より出火、十四軒延焼す。復可糺。	567	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「イ丑の尅前とあり」と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
251	宝暦 12	1220	17630202	大雪	因府歴年大雑集	【前略】上旬より毎日降り積り、十日比二八、近年に先ハ珍敷大雪と成ル、中ノ丁安并杯、物見のかうしより、道行人のはきもの、木履或ハ草履など、座上より居ながら見へたり、彼物見所の窓ハ台所ニ有て、往來の道よりハ、凡上り八九尺もあらん敷。	349	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。なお、底本では「此度大雪」から「已上」までは本文二字下げ。なお、「同月」は十二月を指す。	鳥取県立博物館
252					因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪積地七尺余或は及八九尺共云、依之被仰出あり往來道筋狭く候へは、若無礼等有之候共互に令堪忍可致通行、並銘々屋敷構心を付候様。	568	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
253	宝暦 13	1122	17631226	火災	因府年表 (鳥府叢秘録)	子刻魚町横丁より出火、十八軒類焼。	574	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
254	宝暦 13	1230	17640201	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪降る。	574	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
255	明和元	711	17640808	山崩れ	因府年表 (鳥府叢秘録)	法美郡卯垣村の吉祥寺山内山崩致し、依之相願滝山村に移る。	577	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。後掲の安永6年7月11日条にもほぼ同様の記述があり、錯簡・混同の可能性があるが、取り敢えず別箇の事象として立項した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
256	明和元	803	17640829	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	袋川出水。	577	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
257	明和2	918	17651101	大雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	天王祭大雨にて道筋の挑燈火を不点。	584	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
258	明和3	828	17661001	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風雨、所々破損あり。	588	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
259	明和3	1010	17661112	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹。	589	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
260					因府歴年大雑集		366	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本で図のみ掲載。	鳥取県立博物館
261	明和4	505	17670601	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	巳の下刻湯所戸田市三郎宅より失火起り、上は多門院前を際り、下は雁木之辺迄其間二百軒余焼亡す。此日出火せし頃には早織練は相済居たりしと也。又、愛宕は坊舎も無恙りし故、弥靈威熾なりと云。今日風強く殊に御城風下なりし故、御曲輪外なれ共、大手へ御帳出る。	593	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
262	明和4	1223	17680211	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪降る。	596	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
263	明和5	222	17680409	地面変動	因府年表 (鳥府叢秘録)	岩井郡細川村の田地須臾の間に長さ八十間・幅十間・高さ壱丈五尺程なる岳と成れり。時人これを蛇持と云、古より此田土の字を蛇喰と云、由ある故の名なるへし。	597	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
264	明和5	519	17680703	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	御両国洪水。	598	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
265	明和5	721	17680901	水害	在方諸事控		792-794、843	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。「当子ノ年七月廿一日洪水ニ附、損亡并破損所書之覚」ほか。	鳥取県立博物館
266					因府年表 (鳥府叢秘録)	洪水所々破損少からず袋川の水廿四日迄濁り流る。森佐左衛門足軽屋敷の一棟往來へ流れ出。	599	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
267	明和5	1015	17681123	火災	因府年表 (鳥府叢秘録)	河端一町目出火十二軒焼亡。上は修験福善院か宅にて鎮火。其本尊秋葉三尺坊なる故、その瑞現也とて時俗信を傾くと云。	600	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。安永9年2月5日の火災記事と酷似しており、重複・錯簡の可能性もあるが、取り敢えず別箇の火災と見做し、立項した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
268	明和6	317	17690423	大火	在方諸事控	一丑三月十七日夕、用瀬中町山手之方裏町幸次郎と申者之宅より出火、御茶屋焼失并類焼人別御法之通配木可被遣候処、宿所之義、外並と違竹木繩藁等格別ニ可被遣段遂評議、夫々積りを以書付相調、御家老中申上達御聞届之上右配木代銀直し、沓間ニ付銀札拾九宛被遣候。右之段建部甚蔵并下吟味役用瀬え罷越、村役人類焼人夫々ニ呼出し、用瀬宿所故格別ニ被仰付候段申渡シ、直ニ銀札夫々え相渡、間数六百九間銀札六貫九拾目、拜借米糶沓間ニ付、御定之通五斗つゝ、御定程借り不申者も有之候。【後略】	801-803	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。	鳥取県立博物館
269					因府年表 (鳥府叢秘録)	用ヶ瀬駅大火、民屋百六十軒御茶屋も焼亡。	604	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
270	明和6	1108	17691205	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪降る。	606	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
271	明和7	223	17700320	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	浦留出火、延焼廿四軒。	607	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
272	明和7	226	17700323	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹、御宮の杉の木折れる。	607	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
273	明和7	316	17700411	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風当夜湯所北村源左衛門屋敷構に火業あり、燃出んとせし時、廻りの町御目付通り掛り撲滅之。但、家内御取調あり。	607、608	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
274	明和7	511	17700604	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	子中尅荒尾志摩長屋より失火起り、五十余戸燬滅す。間数折廻り四十八間、表門の間三間半也。依之大手へ御帳出る。	608	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
275	明和7	517	17700610	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	酉尅地震。	608	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
276	明和7	-626	17700817	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	知頭駅焼亡。	610	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
277	明和8	225	17710409	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	未尅、西風強甚雨沃ぎ雹降り屋宇を剥るゝ家不少。	614	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
278	明和8	321	17710505	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	吉岡油屋より出火、人家不残燬滅す。	615	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
279	明和9	821	17720918	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	洪水。	621	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
280	安永2	611	17730730	大風・火災	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹、摩尼寺奥院畑に苜火致候処、亘り百間余に焼広がる。	628	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
281	安永3	203	17740314	大風・高波	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹起り海鳴の音恰も百雷の如し。洪波忽寄り来りて、岩戸の民舎を牽崩す。	630	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
282	安永3	1229	17750130	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪積地三尺五寸。年尾。	636	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
283	安永4	505	17750602	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	洪水。	638	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
284	安永4	508	17750605	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	地震。十一日迄の間昼夜となく毎々動揺す。	638	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
285	安永4	522	17750619	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜地震。	638	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
286	安永5	201	17760320	高波	因府年表 (鳥府叢秘録)	洪濤忽起り、加路東禅寺の辺迄打寄る。同尅岩戸村の民屋二軒牽崩され家内四人溺没す。	640	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
287	安永5	726	17760908	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風雨。	643	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
288	安永5	806	17760918	大雨・山崩れ・高波	因府年表 (鳥府叢秘録)	此程霖雨当夜雷電雨頻りに沃く。天徳寺の山大に崩れ亡者の白骨地に充つ。又客殿を圧砕く。同刻摩尼寺の秀衡杉に雷落ち此時に枯たり。又岩戸村に大汐打寄、民屋四軒牽崩したりと云。	643	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
289					因府歴年大雑集	一二月十一日亥剋大地震、ソレヨリ月末ニ及マデ、動揺シハヽニシテテ不止、其内、廿一日大ニ震フ、同廿八日、唯識院へ仰セテ御祈祷ヲ修セラレ、町へハ、一丁在へハ一毎二御牌一枚ツヽヲ賜フ、全ク御領内ノ民人安全ノ為ナリ。	375	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、底本では「ニシテテ不止」の二番目の「テ」の部分に「(衍)」と傍注が振られている。	鳥取県立博物館
290	安永6	211	17770320	地震	在方諸事控	一去年十一月以来度々之地震二付、御両国安全五穀為成就、於唯識院御祈祷被仰付、御祈祷之御札御両国村々一枚宛、則左之通書状を以申遣ス。【後略】	935, 936	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。安永6年3月5日条。	鳥取県立博物館
291					因府年表 (鳥府叢秘録)	亥剋大地震、近年に無比類、其後連日動揺不止、依之同廿八日唯識院へ仰て領民安全の御祈祷を修せられ、毎村に一枚ツヽ御贖を賜ふ。	648	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
292	安永6	401	17770507	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	未の尅、和田左門下屋敷出火。十九軒焼亡古海の馬場相済での後也。	650	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
293	安永6	421	17770527	降水	在方諸事控	【前略】右は去月廿一日夥敷氷降、作物損候処、就中右五ヶ村格別降基敷、麦作半毛或は三步毛無毛ニ相成候場所も有之。差当作食無之、植付差支難儀仕候二付、御米拝借之儀、大庄屋松尾又左衛門罷出、夫々取調書付を以申達候付、岩垣新兵衛罷出、村々見分之上、格別難儀之者共え、右之石数拝借被仰付、今来年雨暮ニ御取立被遣候様、今日御家老中え相伺候処、御聞届相候事。【後略】	940	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。安永6年5月8日条。「右五ヶ村」とされているのは、八上郡の渡一木村・山手村・徳吉村・今在家村・下舟岡村である。省略した前書き部分からこれら五村に「米三拾石」の「拝借」が許されたことが分かる。	鳥取県立博物館
294	安永6	701	17770803	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	地震。兵庫頭様加路へ御出。	651	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
295	安永6	711	17770813	山崩れ	因府年表 (鳥府叢秘録)	卯垣村吉祥寺山内山崩致し、滝山村へ転移。	651	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。明和元年の7月11日条にもほぼ同様の記述があり、錯簡・混同の可能性はあるが、取り敢えず別箇の事象として立項した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
296	安永6	1130	17771229	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風雷鳴。	653	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
297	安永7	208	17780306	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	地震。	653	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
298	安永7	522	17780616	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	大水。	654	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
299	安永7	-712	17780902	大雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	疾雷甚雨河端巷丁目に震す。	656	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
300	安永8	205	17790322	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	午時河端四丁目出火、蒙余災者多し。	661	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
301					在方諸事控	【前略】一当四日二日夜酉ノ中刻、用瀬出火、翌三日之朝卯上刻消留申候。【後略】	989, 990	鳥取県編『鳥取県史 第9巻 近世資料』(1975年)。	鳥取県立博物館
302	安永8	402	17790517	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜用ヶ瀬宿大火延焼二百軒許。	662	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
303	安永8	616	17790729	地面変動	因府年表 (鳥府叢秘録)	黄昏、常忍寺前往来西の方の大松自ら根起して田の中に倒る。	663	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
304	安永8	825	17791004	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹。	664	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
305	安永9	101	17800205	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	御在府。二の御丸年首之嘉儀、万々如恒例。於江府両君御登堂。昏暮地震。	665	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
306	安永9	105	17800209	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹。	665	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
307	安永9	130	17800305	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	気多郡鹿野大火、延焼百五十軒余。	665	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
308	安永9	205	17800310	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	巳の尅過、川端二丁目横町桶屋久兵衛より出火、六拾軒間余焼す。上は福善院にて焼留る。此修験の持念せる本尊は秋葉三尺坊なりし故、火防の応験いちしるしかりしとて時俗俄に尊崇せしと云。	665, 666	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。明和5年10月15日の火災記事と酷似しており、重複・錯簡等の可能性もあるが、取り敢えず別箇の火災と見做し、立項した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
309					因府歴年大雑集	三月廿八日未ノ刻ノ比ヨリ、東北方へ値テ黒雲覆ヒ、亥剋雷電シ、西北ノ郡郷ニ氷降ル、ソノ大サ、大栗或ハ中栗程ナルモアリ、重サ三匁位アリ、又、深山ノ高山へハ、黒雲ノ襲タルコト墨ノ如ク、或ハ煙ノ如シ、此日八十八夜ナリ、高草郡長谷村ノ辺へ降タル氷ノ形、如左。	377	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、底本に掲載されている図は略した。	鳥取県立博物館
310	安永9	328	17800502	大風・雹害	因府年表 (鳥府叢秘録)	未尅、東北の方に黒雲覆ひ墨を沃か如し。及戌尅疾雷撃電し、大風吹りて雹を降らす。大さ大栗の如し、重さ三匁より拾九匁に及ものあり、頓て雪降地を白す。此日八十八夜也と云。又一記には、雹の大き松露の如しとあり。但し所による歟。	666	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所について、「一記に、午刻より雷鳴、夜五時より氷ふる。大は掛目十三匁小は二三匁。伯州河村郡浅津香宝寺雷火炎上夜半に止む。明日晴天。」と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
311	安永10	125	17810217	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹。	671	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
312	安永10	201	17810223	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	寅尅地震。	671	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
313	天明元	619	17810808	地面変動	因府年表 (鳥府叢秘録)	古海御旅所の松周囲八尺余の巨樹、地より上り一闘斗にして折倒る。其丈け十一間許と云、此日無風なりし故、世俗怪異の事に評す。又土手筋の松も倒れたり。	674	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
314	天明元	805	17810922	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	諸士の面々為窺御機嫌登城、御帳に着く。同夜大に南風吹く。	675	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
315	天明元	1222	17820204	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪積地四尺余。	677	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
316	天明2	121	17820304	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜大風吹。	678	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
317	天明2	125	17820308	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	北風強く吹く。	678	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
318	天明2	505	17820615	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	前日より大雨頻りに沃き出水。	679	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
319	天明3	615	17830714	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	地震。	686	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
320	天明3	802	17830829	大雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	晩景より大雨常に沃き、八日の朝に及んで迅雷撃電大雨覆盆の如し。天徳寺の卵塔場崩れ骸骨如芥しと云、見物に行人多し。	687	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
321	天明4	116	17840206	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	戌尅内丹後町若木屋庄兵衛出火、延焼十軒ばかり角の手前にて焼留る。	690	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「材木町也」と注記されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
322	天明4	201	17840321	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	地震、五日までの間昼夜屢動揺す。	691	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
323	天明4	801	17840915	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹。	694	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
324	天明5	215	17850325	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	南風強く吹。菩提心院様御法事に付、御礼不被請。	700	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「一記に有之」と注記されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
325	天明5	629	17850803	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	丑の尅地震。	703	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
326	天明5	707	17850811	大雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	霹靂大雨、鹿野海道吉田屋源右衛門か土蔵に震す。又丸山其外郡郷の間所々に落と云。	703	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
327	天明5	1102	17851203	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	午の下尅西風強く吹、田中村より出火、本浄寺延焼す。本堂庫裏不残燼滅す。申尅鎮火。此日寺町不破平内土蔵のすやに飛火、早速打消す。	704, 705	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「一記云、南の村端迄焼亡一時計にして鎮火」と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
328	天明5	1203	17860102	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	知頭宿大火不残焼亡。但、先月二日と両度の火災なり。	705	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
329	天明5	1227	17860126	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪積地四尺計り、依之来年頭の礼可為延引、且往来互に令堪忍可致通行、並に屋敷構之雪心を付可申旨被仰出。	705	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
330	天明6	401	17860428	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	古海の乗馬無し、大風なるか故なり。	706	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
331	天明6	821	17860913	大火	因府歴年大雑集	八月廿一日ノ夜子刻比中土手ヨリ出火【底本はここで改行】竈数凡百十一軒燼滅【後略】	387	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、底本に掲載されている図は略した。	鳥取県立博物館
332					因府年表 (鳥府叢秘録)	奥谷・興禅寺へ御仏詣。子尅中土手近藤作左衛門と申取次替之長屋より失火起り、北風吹き大火と相成る。延焼百十一軒、上は正行寺の丁より、下は道祖神まで其間悉く火燼す。及平明鎮火。	709	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
333					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		653, 654	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
334	天明6	829	17860921	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	洪水乾の風強く大雨頻りに沃き、翌朝に及んで千代川満水し、諸所土手切れ円通寺の人屋一字流亡す。府下川外の水高、地の高下に依て五尺より一丈に及る所あり。	709	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「同日」条が別に立てられており、「此程の霖雨に依て天徳寺山崩、髑髏亡骸芥の如く下御殿の地に出づ」と記載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
335					在方諸事控		36, 37	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。「当午年八月廿九日・九月七日両度之洪水二付、損亡并破損所之覚」。	鳥取県立博物館
336	天明6	902	17860923	大雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	袋川の水八合程に減し候処、翌三日より復々甚雨沃ぐ。	709	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
337					在方諸事控		36, 37	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。「当午年八月廿九日・九月七日両度之洪水二付、損亡并破損所之覚」。	鳥取県立博物館
338	天明6	906	17860927	洪水	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		653, 654	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
339					因府年表 (鳥府叢秘録)	大風甚雨洪水以前と不異国安村の農家其外在々の小家多く流失し人民溺死せる者少からず去共御府内惣構の土手筋幸に不潰ゆへ両度の水難を免れたり。此時又天徳寺之山崩る。	709	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
340	天明6	1111	17861231	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	亥刻過新茶屋出火、十三軒焼亡。	711	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
341	天明7	212	17870331	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	南風強吹、夜に入いよゝゝ募る。及暁更雨に属す。	713	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
342	天明7	223	17870411	大火	因府歴年大雑集	二月廿三日ノ夜、江崎堅町座頭定之都力屋宅ヨリ出火、竈数凡六十軒焼亡ス【後略】	388	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
343					因府年表 (鳥府叢秘録)	寅尅、江崎堅町督者定都か宅より出火、延焼六十余宇及黎明鎮火。御城の方風下に付、大手へ着到帳出る。	713	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
344	天明7	503	17870618	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	【前略】同夜地震。夜半也。	714	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
345	天明7	604	17870718	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	巳尅地震。	714	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
346	天明7	1016	17871125	高波	因府年表 (鳥府叢秘録)	岩戸灘へ洪濤忽来り、民舎一字並土蔵一戸其外石垣を牽崩す。	715	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
347	天明7	1222	17880129	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	雪積地可三尺。	716	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
348	天明8	102	17880208	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	雨天。申尅地震。	716	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
349	天明8	130	17880307	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大に南風吹く。	717	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
350	天明8	202	17880309	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	岩井郡湯村多田屋より出火、旅店民屋悉く焼亡す。	717	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
351					在方諸事控		62, 63	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。「因幡国岩井郡湯村当申二月二日夜出火」。	鳥取県立博物館
352	天明8	215	17880322	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	南風大に吹、及申刻大雨如沃、此日大隣寺下川口清大夫宅より出火、早速打消す。	717	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
353	天明8	330	17880505	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	亥尅震動。翌日地震、屋敷動揺す。	717	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
354	天明 8	1118	17881215	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	瓦町下屋敷へ御出。早朝竹蔵の後石原律左衛門借屋出火、延焼十九軒。	721	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
355	天明 8	1230	17890125	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪降。	722	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
356	寛政元	416	17890510	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	大地震乾の方より揺り来る。	725	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
357	寛政元	-603	17890725	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	洪水。朔日より雨頻りに沃き翌二日大雨晩景より出水。	725	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
358	寛政 2	305	17900418	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹及晩景いよゝゝ募る。	727	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
359	寛政 2	808	17900916	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	今日槍術御覧の義被仰出置候へ共、大風にて御延引。	729	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
360	寛政 2	820	17900928	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	洪水。	730	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
361	寛政 2	930	17901106	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	丑の尅地震。	730	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
362	寛政 2	1215	17910119	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雪積地可三尺。	732	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
363	寛政 3	102	17910204	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	雪地に積事可五尺なり。	732	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
364	寛政 3	115	17910217	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	一記に、地震、正月十五日より廿日まで日々揺る。	732	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。引用箇所は注記部分。この前に「式日御礼、年頭御礼残両御館衆御礼被為請」、と記載される本文がある。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
365	寛政 3	427	17910529	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	晴天西風強く丸の内なる御吹貫の棒を吹倒す。	735	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
366	寛政 3	615	17910715	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	子の刻地震。	735	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
367	寛政 3	820	17910917	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風甚雨、袋川出水。	736	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
368	寛政 3	904	17911001	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	自昨夜大風雨にて樹の枝を吹折る。	736	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
369	寛政 4	116	17920208	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	晨明地震、其後数々動揺す。至廿日止む。	738	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
370	寛政 4	327	17920517	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	浦留大火。	739	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
371	寛政 4	408	17920528	大火	在方諸事控	【前略】伯耆国河村郡泊村船持商人家より、当子四月八日丑刻出火、翌九日巳刻鎮火仕候。【後略】	125	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
372	寛政 4	410	17920530	大風・大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜西風強く吹。伯州泊り大火、民屋百六十余宇焼亡す。及翌朝鎮火す。	739	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
373	寛政 4	713	17920830	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風雨。	740	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
374	寛政 4	726	17920912	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	終日大風〔東南〕吹、屋頃よりつり大樹を折牆壁を倒す。人屋破損多し、此日は則ち二百十日なり。今年青稲の比より大豊年の順気にて、農民悦喜不斜し処に此変に当りて忽ち愁緒を含めり。米価俄に沸騰す。	740	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
375	寛政 4	926	17921110	高波	因府年表 (鳥府叢秘録)	風雨洪濤忽に寄せ来りて加路の御番所を損ず。	741	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
376	寛政 4	1008	17921121	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	丑尅、立川詫間堂の前より出火、延焼三十軒余。	741	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
377	寛政 4	1202	17930113	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	亥尅地震。	743	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
378	寛政 4	1221	17930201	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	岩井郡湯村大火、旅店民屋三十余宇焼亡す。一記に、御茶屋は残とあり。	743	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
379	寛政 5	807	17930911	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風吹。今日二百十日也。	747	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
380	寛政 6	410	17940509	山崩れ	因府年表 (鳥府叢秘録)	八東郡横地村山崩れ、竪八町横百間計り蛇持の如くに相成る。一説には、法螺貝の抜出たる也と云。	750	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
381	寛政 6	712	17940807	大雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	自申の下刻陰雲空に結れ甚雨如沃、及翌十三日辰の上尅止む。依之袋川筋、水の増事可三尺と云。	752	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
382	寛政 6	1229	17950218	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	雪積地可四尺。	757	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
383	寛政 7	305	17950423	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜大風吹。	759	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
384	寛政 7	615	17950730	大雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	迅雷大雨。蔵田八幡の松原に震す。	761	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
385	寛政 7	720	17950903	洪水	在方諸事控	【前略】一七月廿日岩井郡洪水にて、立毛傷御田地道橋破損所夥敷、山拔潰家等有之。【後略】	168-173	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。このほか、「当卯七月廿日・八月廿九日両度之洪水二付損亡并破損所之覚」など。	鳥取県立博物館
因府年表 (鳥府叢秘録)					岩井郡銀山村出水、農家二軒を押し里民四人溺死す。	761	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館	

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
387					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		654-657	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
388	寛政7	829	17951011	洪水(卯年水・乙卯水)	因府年表(鳥府叢秘録)	当月初旬の間は晴天多く、尤風冷かなり。中旬に逾へ陰雲結れ雨天勝なり。廿日廿一日曇天、廿二日快晴。但風は冷か也。廿三日陰雲厚く蔽ひて温熱甚しく恰も如蒸。廿四日より霖雨と相成り廿九日は北風強く吹募り大雨如沃。翌晦日早朝円通寺並国安の土手切れ袋川いよ / \ 満溢し、及巳尅寂勝院の土手切れ、夫より連々諸所の土手潰ゆ。依之府下は忽淵底と相成る。水深き所に至ては軒を没して室中暗夜に異ならず。されは困人茅宇を拓て助船を呼声尤譁し。川外の人屋或は流失せるも亦不少。又若桜橋より下なる橋は悉く落て、丸山にて止る。此日人畜の溺没せる者不可勝計。今これを享保己酉の洪水に比するに稍大なりと聞ゆ。斯に堀切の向なる寄付の角やしきに大谷平次兵衛居住せり。家内上下十六人屋の棟に騎りて流出、加路の東禅寺の辺にては淀みに入て姑く漂ひけるが、湖山池の激流に誘れて射る矢の如く流行く。高浜には一邑の人見物に集り居けるか、此前を過る時念仏称名の声万牛の吼が如し。当家の娘十七歳容顔花の如くにして緋縮緬の小袖を着し居ければ、一入目立て哀を増けるに頓て海門に向ひければ、怒濤の為に牽沈られ出沒せる度毎に人数は漸々減しける。哀と云も無類。中にも僕たる者は湖山の池辺の産にて、水練を得たりしかは危難を歴れ共、屋に抛りて離れざりけるが、遂に烏ヶ嶋に取上り灘辺を望んで喚叫せる事恰も狂者に異ならず。九月三日に及んで、稍浪も穏に相成りしかば、船人の内にて杜丁を選び助船を出しけるに、いまた嶋へは船を乗寄難く、食物を投与へて明日を期し、懇に申論して船を返しける時、俊寛僧都の足ずりも是には過しと思はれて、正躰も無き形勢なりと云。其夜中風波おさまりぬれば、翌朝は早々助船を出しけるに、何なる運の甲斐なき者なりしや。嶋へは禪斗り残りて人影は無しける。不思議なりける事共也。里人の説に、前夜の寒冷に忍兼て入水せるものにやと申ける。但時評は区也。彼者の取上りたるは前なる小嶋にてありしと也。大嶋は激浪打違て中々以溜がたしと聞えける。さて洪水の日申の斜に及んで漸く水減ず。郡郷の損亡尤夥し。是を卯の洪水とて世俗の口碑に伝れり。委しくは五水記・因溢記等の書に載れば略之。	762, 763	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
389					因府歴年大雑集		401-405	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。	鳥取県立博物館
390	寛政7	829	17951011	洪水(卯年水・乙卯水)	在方諸事控	【前略】一八月廿六七日之頃より雨天続有之候処、廿八日別て大雨川々満水、廿九日明ヶ方より鳥取洪水、昼時分甚強、袋川筋之橋智頭橋より出合橋迄不残流失、土手筋いと / \ 切し込、内町御郭内迄一面二水湛、暫時は一門如海上之にて、古来稀成大変二有之候処、同日晩方より水追々二引汐二相成、翌朝日ニハ地高之所は水引候得共、端々所々地低之所ハ二日晩方迄も水湛有之候。然ル処右大変二付、町中諸色売々無之、差当り夫持方無貯下賤之者は可及餓死二程之難洪人多ク有之、右為御救町家之分は町役所より御焚出し被遣、町裏之分えも朝日ニハ握り飯被遣候二付、下御吟味役小倉要助・西川分之右衛門・西村忠兵衛・馬場基太夫・吉田作太夫罷出、所々船にて廻り致差因飯為相渡、翌二日よりハ於左之所御焚出し粥被遣候二付、村々庄屋根帳面之もの召連罷出候之様相触置。左之面々右場所え相詰、門前二印之幟建置、粥為相渡候処、追々諸色売々も有之様相成り、同五日より粥相止。【後略】	168-173	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。このほか、「当卯七月廿日・八月廿九日両度之洪水ニ付損亡并破損所之覚」など。	鳥取県立博物館
391					五水記		10-23	建設省鳥取工事事務所編『五水記』(社団法人中国建設弘済会、1974年)。底本の原本は鳥取県立図書館蔵。なお、対応する箇所現代語訳が同書42-61頁にある。	鳥取県立図書館
392	寛政7	901	17951013	洪水	因府年表(鳥府叢秘録)	今日に到り候ても、諸所瀧て水不去処多し。	763	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
393	寛政7	917	17951029	洪水	因府年表(鳥府叢秘録)	当年の御祭礼洪水にて鹿野橋落、地祭にて事済む。但夜宮朝宮共御家老御着座の参候有之。	764	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
394	寛政7	924	17951105	大火	因府年表(鳥府叢秘録)	夜矢津三枚橋の辺三田衆臼田長兵衛宅より出火。延焼十軒ばかり。	764	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
395	寛政7	1001	17951112	大風	因府年表(鳥府叢秘録)	先頃洪水後学館相止候へ共、今日より始る。南風大に吹此程士商家共堺の牆壁崩れ、修造等閑にして甚不用心なり。困民等その弊に乗して盜掠を縦にし、世上頗る物騒なり。依之諸所自分に申談し、夜番を建る処多し。	764	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
396	寛政7	1124	17960103	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	未の尅前代未曾有の大地震、其後連日動揺不止。	765	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所の後に「一記に、廿五日七時大地震と有」、と注記されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
397	寛政7	1218	17960127	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	黄昏地震。	766	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
398	寛政8	109	17960217	大雪	因府年表(鳥府叢秘録)	今日より雪降り積地可三尺。	766	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
399	寛政8	124	17960303	大風雨	因府年表(鳥府叢秘録)	大風雨。	766	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
400	寛政8	204	17960312	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	薄暮地震。同九日復動揺す。	766	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
401	寛政8	211	17960319	大風・高波	因府年表(鳥府叢秘録)	南風強く吹。此日浜村之辺洪波寄せ来る。尤西の方程甚し。	766	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
402	寛政8	606	17960710	高波	因府年表(鳥府叢秘録)	洪濤加路東禅寺の辺まで打寄る。	768	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
403	寛政8	813	17960914	大風	因府年表(鳥府叢秘録)	汎颯西風烈しく吹、洪濤洶湧す。	770	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
404	寛政8	1113	17961211	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	学館にて素読出精左之面々へ為御褒美金二百疋つゝ被遣。同夜地震。【後略】	772	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
405	寛政8	1209	17970106	大雪	因府年表(鳥府叢秘録)	此頃大雪降り積地可五尺。鹿多く出つ。豊州公御館の御山にて御自身に之を獲給ふ。御壮健尤甚し。其外府下に於ても諸所にて捕之。	773	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
406	寛政9	214	17970312	地震	因府年表(鳥府叢秘録)	長谷並横枕へ御参詣。横枕にて御小弁当被召上御帰路瓦町に御下屋しきへ御立寄。同夜亥の尅地震。	776	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
407	寛政9	801	17970920	大風	因府年表(鳥府叢秘録)	夜大風吹。	780	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
408	寛政9	813	17971002	大風雨	因府年表(鳥府叢秘録)	大風雨。伊勢谷より水を吹出すと云。	780	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所の直後に「不詳」と注記されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
409	寛政9	923	17971111	大風	因府年表(鳥府叢秘録)	雷電烈風驟降る。	780	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
410	寛政10	320	17980505	大火(茶町火事)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		632, 633	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
411					在方諸事控	一去年廿日鹿野町喜多屋次郎七宅より夜九時分出火、左之通り致焼失、翌廿一日晩八時鎮火、在方火防致出精候旨御称美有之事。【後略】	217, 218	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
412	寛政 10	320	17980505	大火 (茶町火事)	因府歴年大雑集	一三月廿日、南風吹、夜半過、鹿野海道茶町御城側角の続き升屋ト云商家より出火、大火と相成ル。【後略】	420-422	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世 6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。なお、掲載の図では「寛政十戌午年」となっている(ここでは略す)。また、「因府年表」(鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』1976年)や『鳥取藩史 6』でも寛政10年とされているので、こちらに従うこととする。	鳥取県立博物館
413					因府年表 (鳥府叢秘録)	子の半刺鹿野海道茶町の角升屋が宅より出火。南風強く吹き大火と相成る。東は片原観音堂の前、西は外構の土手筋を限り、南は四町目の下も四つ角を限り、北は下台町庚申堂を限其間の土商家凡そ千九軒焼亡す。此災の如きは近代に無比類。此頃相撲ありければ、相撲取の名に寄せて狂歌を詠す。其一、二を抜萃す。【後略】	784	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
414	寛政 10	9999	17989999	海岸浸食	因府年表 (鳥府叢秘録)	【前略】夏の比より加路西浜自然に崩れ河に入、漁民居を移す者三十余家。【後略】	790	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。寛政十年の記事の末尾に「此年」としてまとめられた記事の内の一。日時等が不明なため、日付欄は便宜的にそれぞれ、陰暦については「9999」、グレゴリオ暦については「17989999」と入力した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
415	寛政 11	211	17990316	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	巳の刻地震。	791	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
416	寛政 11	305	17990409	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	申の尅地震。	791	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
417	寛政 11	622	17990724	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	戌尅光明寺の門前鍛冶次郎兵衛と云者の宅より失火起り、大火と相成り四十七軒焼亡す。及暁更厲鎮火。	793	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
418	寛政 11	907	17991005	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	大風雨。	795	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
419	寛政 11	1024	17991121	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	戌の刻覚応寺長屋長次郎宅より出火、十二軒焼亡。	796	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
420	寛政 12	101	18000125	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	雪天烈風。二の御丸御在府年首之嘉儀、万々如恒例。為年始御礼御家老中始め寄合以上並御役人之輩登城。列之御帳を以被為請之。今日池田兵衛利吉 (多仲息) 初て御目見。	798	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「一記に、八日・九日・十日御帳にて年頭御礼とあり、他日可考」と注記されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
421	寛政 12	102	18000126	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	地震。組付無頭之士為御礼登城。	798	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
422	寛政 12	202	18000225	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	地震。	799	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
423	寛政 12	426	18000519	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	昼、新品治町御国産の墨座より出火して玄忠寺類焼す。其外廿八軒蒙余災。	801	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
424	寛政 12	502	18000623	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	自早朝南風大に吹起り、及翌朝止む。	801	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
425	寛政 12	518	18000709	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	自昨日大雨常に沃き出水。中土手並に川向の人屋床を浸せる処あり。	801	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
426	寛政 12	1207	18010121	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	雪降風烈し。縫殿頭様江府へ御発程、その後御帰館なし。御旅中遠州灘に異国船漂流し領主方より出勢あり。依之御旅中御見廻使者を被進。後年たり共々様の義なし共難申、各心得可有之事也。此時漂着せるは清国浙江省寧波府の商船にて、毎歳肥前国へ通津せるもの也。然る処東海に吹放れ当所へ流着せると云。合船八十六人船主を劉然乞と云。今かんゝと踊と云るは此時の船客等か伝る処なり。	804	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
427	寛政 12	1229	18010212	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	雪降。積地可三尺。依之来年頭相対之年礼当分可致延引旨被仰出。	805	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
428	寛政 13	101	18010213	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	雪降二之御丸御在府年首之嘉儀、万々如恒例。当年は列の御帳無之、並に往来依深雪相対之年礼可及遅延之旨旧臘御下知あり。此程積地三尺余。	805	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
429	寛政 13	104	18010216	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	大隣寺本堂の庇不残崩れ落つ、其外府下破損多し。	805	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。明記されていないが、前日条などから考えて、大雪による被害と見て立項した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
430	寛政 13	110	18010222	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	大に南風吹。袋川水漲出橋を繋く。	805	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
431	寛政 13	114	18010226	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	未の尅大地震。	805	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
432	享和元	219	18010402	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	青屋大焼、民舎六百八十二軒焼亡す。【一記に三百四十けんとす。】此日老人夫婦焼死す。但御蔵所は無恙。其後塗家二軒を営む。里俗無益の如くに譏れり。	806	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
433	享和元	219	18010402	大火	在方諸事控	一気多郡潮津村当西二月十九日屋出火、同村并芦崎村致焼失、百軒已上は公義へ御達被成候二付、右御達書前格之通相認、御月番大隅殿え長役吉田安太夫今日差出。軒別分委細諸事達控二有。御達書控此所二くゝ置。【後略】	277	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
434	享和元	305	18010417	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	辰尅地震。学館へ御出、御儒者佐善清蔵論語御講釈申上る。	807	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
435	享和元	820	18010927	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	自去る十七日雨常に沃き、夜前丑尅大風起り牆壁を倒し或は折樹、千代川水溢れ徳吉村の土手潰ゆ。但し府下はさまで水難なし。此日伯耆国洪水米子表所処橋落土商家浸床。近郷の内水深き所に至ては軒を没す。人畜の死亡不少と云。	811	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
436	享和2	604	18020703	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	半更地震。	816	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
437	享和2	806	18020902	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	二百十日なり。日落の比一如如紅及三更翼の風起り、後は北に転し雨頻りに降り、人屋を剥き堵牆を損す。早稲は穂を折晚稲は華を振ふ。及翌朝千代川水出乗越の土手を逾す。又袋川の辺浸床家あり。	817	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
438	享和2	1023	18021118	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	暁更地震。	818	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
439	享和2	1103	18021127	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	船岡大火。	818	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
440	享和2	1299	99999999	地面変動	因府年表 (鳥府叢秘録)	此頃八上郡山ノ上村蛇割れと云ものにて、山の半腹横に長さ二町程裂、下へ崩れ民舎一宇圧潰す。	818	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。本記事は12月条の冒頭に記載されているものの、日付が明記されていないため、陰暦の日付は「1299」と、グレゴリオ暦の日付は「99999999」(陰暦の12月中旬に1802年から1803年に移行するため)とそれぞれ便宜的に記載した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
441	享和3	105	18030127	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	初御飛脚出る。此日南風大に吹起、早春如此。大風は六十年来には無之と先輩の説なり。	819	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
442	享和3	323	18030514	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	昏暮地震。	820	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
443	享和3	520	18030708	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雨出水。浄宗寺の辺人の臍を没と云。	821	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
444	文化元	221	18040401	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	丑の尅立川天神の下岩本孫左衛門宅より出火。下は小宅市正か宅まで其間二十余宇災に罹る。	825	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
445	文化元	705	18040810	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	午時地震。	827	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
446	文化元	726	18040831	大風雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜大風雨。	828	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
447	文化元	829	18041002	大風・洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	袋河出水。夜北風大に吹起り及翌朝巽に転し、晩景に至り漸く静る。是れ迄秋禾満作の処大に損害せらる。	829	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
448	文化元	830	18041003	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	天気昏味にして往來人跡稀也。[一記に、拳猶可糺。] 又朝大風巽より吹起り、民屋破損多し。	829	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
449	文化元	1220	18050120	大火	在方諸事控	一氣多郡酒津村、去子十二月廿日之夜出火、同村致類焼、百軒以上は公義え御達被成候二付、右御達書前格之通相認メ、今日御用日御櫓え三宅権平差出。軒別分委細諸事達扣二有之。【後略】	367, 368	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
450	文化2	321	18050420	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	国府一ノ宮之祭礼有故久しく及中絶居候処、今年再興有之老幼男女群詣す。此日大に南風吹き及暁更漸く止む。	835	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
451	文化2	409	18050507	地震	因府年表 (鳥府叢秘録)	巳刻地震。	835	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
452	文化2	1115	18060104	大雪	因府年表 (鳥府叢秘録)	雷電。雪積地三尺余、兩三日之内及五尺。学館の巨松の枝折れ御物見の屋宇を圧潰す。此の官舎は姫君方の御祭礼御拝見の処なり。其後御取毀に相成る。	841	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「一記に、矢津下村権内家潰れ、小児圧殺さる」と注記されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
453	文化2	1229	18060217	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	北風烈々小雪降る。当年米余り下直に付、却て世上金銀之融通滞り、当惑ありと云。	842	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
454	文化3	216	18060404	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	南風大に吹、夜に入益々熾なり。及暁更西風に転す。	842	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
455	文化3	513	18060629	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	大雨降、出水。	844	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
456	文化3	622	18060806	大雨	因府年表 (鳥府叢秘録)	未の尅大雨疾雷。御城太鼓御門に落、多門を損す。又申の尅御天守へ二ヶ所落、着見櫓の畳を掻き角柱を蹴裂く。稀代の強雷也。此後府下雷を恐るゝ人多く成たり。	845	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
457	文化3	907	18061018	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	午の時暴風起り、浦方の獵船覆没し、海死の者不少と云。	848	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
458	文化3	1229	18070206	大風	因府年表 (鳥府叢秘録)	朝雪降、寒風烈し。立春。米下直世上人気安静なり。但、金銀の融通は滞りて当惑せる者多し。年尾。	851	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
459	文化4	917	18071018	洪水	因府年表 (鳥府叢秘録)	米倉参候残半組相詰る。夜前より大風雨にて破損多し。栗谷川水出。参候之輩下の江崎より船に乗り、興禅寺門前より揚陸す。	859	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
460	文化4	1224	18080121	大火	因府年表 (鳥府叢秘録)	夜鹿奴宿大火。民屋四十八軒焼亡す。	863	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
461					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		657	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
462	文化5	-629	18080820	洪水	在方諸事控		417, 418	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。「当閏六月廿九日洪水二付、田畑荒高井品々破損」ほか。	鳥取県立博物館
463					因府年表 (化政叢秘録)	伊勢知風大に吹、大雨頻りに沃く。後には沖西に転し千代川洪水漲る。八東郡の民屋捨余宇崩流と云、此日湯所上の丁津田六之進宅地の大松を吹折、長屋を圧潰す。又御会所八間の土蔵の屋根を吹落せり。稀有の大風也。	867	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
464	文化5	1016	18081203	地震	因府年表 (化政叢秘録)	亥尅地震。丑尅又動揺す。以前よりも甚し。	870	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
465	文化5	1124	18090109	大風雪	因府年表 (化政叢秘録)	大風雪頻りに積み、所々破損多し。	871	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
466	文化6	417	18090530	地震	因府年表 (化政叢秘録)	辰尅、地震。	875	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
467	文化6	615	18090727	大雨	因府年表 (化政叢秘録)	大雨如沃。翌日より暑気に復す。	875	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
468	文化6	823	18091002	大風	因府年表 (化政叢秘録)	夜、大風吹。	876	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
469	文化6	915	18091023	大火	在方諸事控	一氣多郡芦崎村当巳九月十五日夜、九拾三軒致焼候二付、公義え御達し被成候二付、右御達書前格之通相認メ、御月番近江殿え御郡代米村六兵衛今日差出。軒別分り委細諸事達扣二有之。御達書扣此所二くゝり置。【後略】	460	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
470	文化6	1114	18091220	大風	因府年表 (化政叢秘録)	大風吹。	878	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
471	文化6	1208	18100113	大火	因府年表 (化政叢秘録)	巳尅鹿奴出火、民屋廿余宇焼亡す。	878	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
472	文化6	1229	18100203	大雪	因府年表 (化政叢秘録)	雪天。雪地に積事一尺斗り。当暮御家中物成上なるに米直殊に貴く、下民の困窮最も甚しと云。	878	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
473	文化7	312	18100415	大火	因府年表 (化政叢秘録)	屋、宮ノ下村出火。民屋十四宇延焼す。但賊の放火なりし由巷説す。	879	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
474	文化7	322	18100425	大火	因府年表 (化政叢秘録)	子尅、吉岡賊火の為に一邑焼亡す。但葉師堂より上は僅に免余災。	880	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
475	文化7	323	18100426	大風	因府年表 (化政叢秘録)	夜、大風吹。	880	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
476	文化7	414	18100516	大風	因府年表 (化政叢秘録)	南風強吹、揚塵砂。午尅大風の最中風呂や町の麴屋より失火起り、これを聞く人魂魄を飛ばす。然処余りに風勢烈して火気立上る事不能、其内近隣の人駈集り、精力を竭して消留之畢ぬ。市中焼土とならざるは頗る幸也。	880	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
477	文化7	419	18100521	大火 (矢津大火)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		633, 634	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
478	文化7	419	18100521	大火 (矢津大火)	因府歴年大雑集	一四月十九日亥半剋、矢津三枚橋向、元庄屋礪四郎が放れ雪隠より火起り、南風強く吹候程に、火勢熾にして、立河さして焼出る、遂に大火と相成り、東ハ竹嶋天神の鳥居の前なる横筋を限り、靈光院、同寺の横大橋の方焼残る、西ハ中土手佐治所右衛門居宅二而焼止ル、北ハ法泉寺を限り、但し、観音院の火、山を飛越、上町長田の鳥居の前なる町屋に移り、御宮の大華表の方へと焼行候程に、火消役乏少成しゆへ、臨時に、御宮の防を池田日向二被命、去共、御組之者も其場二居合不申、手勢不多バ、その心配謂ん方なし、その比ハ、五更の天に近し、火勢益盛二して、事危き所、王寺ヶ谷より忽嵐出て、火先を吹靡し候程に、御殿の後限り二而鎮火に属したり、南の方はハ、火元なりしが、矢津の内二て、大 橋二近き方並二半屋より下少々残り候也、立河二而挽木の行当りハ、古道具屋岩井屋常七か宅二而防留候間、惣いと場の方ハ恙なし、但、東側ハ延焼ス、又、同三丁目二而、百谷屋か持中山所右衛門借宅、瓦屋二而、火二包まれながら、唯一宇災を免ル、其外谷々より烏芋田の辺、残る所なし、依之、谷の獄舎も燔滅す、又、源太夫松もしたゝか余災を蒙り、既二枯れやせんと相見えけるか、幸二、縁を榮へて、以前に復したり、又、此度焼亡せる家数凡千二百卅五軒、土蔵四十戸、其内十六戸ハ焼滅候と聞へたり、扱、鎮火二及たる比ハ、東雲已にほのゝと明たるなり、近来二ての大火なれば、是を立川焼と称へ候事なり。	454-458	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。また、底本に掲載されている図も略した。	鳥取県立博物館
479	文化7	419	18100521	大火 (矢津大火)	因府年表 (化政叢秘録)	亥尅、矢津村元庄屋礪四郎が放れ雪隠より火起り、南風殊に烈して余災数丁に蔓延し、上は宅間堂の際竹嶋天神の華表の前、下は法泉寺の前を限り、又中土手の方は佐治一伯屋敷を限り、其間山下谷々悉く燼滅す。又観音院の火飛行して山を逾え永田大明神の前町を焼及黎明鎮火に属す。此時焼亡せる家数凡千二百三拾五軒、土蔵四十戸 [内十六戸燔滅] 近年無比類大火なり。	880	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本には「千二百三拾五」の脇に「イ六百五十」と傍注あり。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
480	文化7				在方諸事控		492-496	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
481	文化7	422	18100524	地震	因府年表 (化政叢秘録)	辰尅、地震。	881	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
482	文化7	706	18100805	大雨	因府年表 (化政叢秘録)	自去月廿二日連日炎旱。稲田甚水乏しく三尺落しを願出候処、当夜雷電甚雨如沃にして、農民大に閉眉せり。	882	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
483	文化7	715	18100814	大風	因府年表 (化政叢秘録)	二更暴風起る。鳥ヶ嶋沖にて長州侯の廻船 [千百石積] 破損。乗組十六人の内一人海死あり。	882	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
484	文化7	1024	18101120	大風	因府年表 (化政叢秘録)	霹靂西風大吹。垣牆を倒し屋宇を剥く。夜に入霰降る。	885	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
485	文化8	106	18110130	大雪	因府歴年大雑集	金剛翁之随記二、当春大雪降り、炭薪殊外高直也、炭の直段壹貫目二付代五分、予が弱冠の比までは、拾六七文を定相場として、若廿文にも上レハ、高直なりとて、買人も先見合候也、夫よりいつとなく諸式共沸騰して、一度上りたる物ハ、再下る事なし、以前は、民人質朴二して姦凶少かりしに、近来二至り、人氣漸々二悪敷相成り候也【後略】	460	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。また、底本に掲載されている図も略した。月日は記載されていないため、この時の大雪のことと思われる「因府年表」所載の記事と同様に扱った。	鳥取県立博物館
486					因府年表 (化政叢秘録)	御仏詣。大雪にて奥谷へは御廟参無し。	887	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所について、「一記に、慶安寺・龍峯寺・興禪寺え御仏詣」と注記されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
487	文化8	-204	18110327	大風	因府年表 (化政叢秘録)	夜、南風大に吹く。風廻りあり。今日御用人加藤主馬江府より帰る。	888	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
488	文化8	503	18110623	地震	因府年表 (化政叢秘録)	未尅地震。	890	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
489	文化8	514	18110704	洪水	因府年表 (化政叢秘録)	快霽。屋八上郡宇土谷なる山ノ上村の堤潰へ、激水暴流して民屋二字を圧崩し、老婆一人溺死したり。田畑多く損害し、加路の海門数日泥水流る。	890	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
490	文化8	525	18110715	大雨	因府年表 (化政叢秘録)	夜大雨、雷電。	890	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
491	文化8	1224	18120206	大雪	因府年表 (化政叢秘録)	大雪降。嚴寒堅氷閉、陶器を破る。	893	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
492	文化9	125	18120308	大火	因府年表 (化政叢秘録)	船岡焼失。	893	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
493	文化9	310	18120421	地震	因府年表 (化政叢秘録)	戌尅、地震強く動揺す。	894	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
494	文化9	712	18120818	大火 (佐橋火事)	在方諸事控	一今四ツ時頃、権現堂辻売え居申佐橋鉄蔵居宅門長屋より出火、辰巳ノ大風二て火口数多二相成り及大火、江崎惣御門内えも燃入、飛驒守様御館・兵部様御長屋・三御役所其外御手懸り御場所数々焼失、町内も惣門外通り三歩式余も焼失二て焼留り湯所下ノ丁内田之端迄も焼抜、漸夜五ツ時頃鎮火。御城は御別業無之、御役所御帳類焼失等無之、右二付左之通焼失いたし、其段御家老中え書付を以申達す。触口之面々、焼失も同様申達し候事。【後略】	569, 570	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
495	文化9	712	18120818	大火 (佐橋火事)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		634, 635	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
496					因府年表 (化政叢秘録)		896-902	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
497					因府歴年大雑集	【前略】一此日之風ハ巽二而、余程強く吹、出火して、屋根へ二三間焼出、未草も不落内、火花を吹口口、近辺へハ、諸所ニ燃付也、学館の飛火も、少しハ後れ候得共、同時の如し、火元、出火致候廐之軒口と本宅との間、二三間共放れ不申候へ共、本宅へ火之移り候ハ、稍隙あり候て、学館之火余程焼広かり候後なりし様二間へたり、全く風の強きが故也、庖丁人町ノ辺、風道二而、早々焼たる様思ハる。	464-467	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、引用したのは一部。底本には他にも関係記事がある。また、底本の464、465頁に掲載されている図を参照のこと。なお、資料には何月のことが明記していないが、「因府年表」(鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』1976年)で同じ大火について記載している月日と同様と見做した。	鳥取県立博物館
498	文化9	729	18120904	洪水	在方諸事控	一会見郡左之村々、当七月廿九日洪水にて兼久土手切込、田地水押二相成り候処、極難洪人有之段申達し候二付、卷人え一日三合宛被遣候。極難洪人左之通取調申達ス。【後略】	573	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
499	文化9	1222	18130124	大雪	因府年表 (化政叢秘録)	大雪積地事六尺余、今度余災を蒙る者、大半は股木柱に竹の桁をかけ、薄き苫葺屋根にて冬を凌んとせし処に、恒に異なる深雪に降困られ、其難儀云ん方無し。万端推て察す可し。一説曰、此比松崎より来れる脚力中の茶屋を出て、湖山へ行間雪道甚紛はしく、一村落に入て尋れば、高住也と聞て大に驚愕せり。其来りし道路を計るに、湖山池の上を歴て青嶋の西を過て来れるもの也。其後池辺の民人翌春に至て池上を往來せり。又云、米子の裏海に繋留居ける大船、水乏しく相成候へ共、氷に閉られ往來絶候間、香番の錠を氷の上に投じて試みけるに、数町を走て不陥。其後里人等海上を経過せし由、又斧を以て氷を穿ち其厚さを計るに、五尺余有之候由。稀有の珍事なり。	905	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
500	文化9	1222	18130124	大雪	因府歴年大雑集	一極月中旬より連日雪降り、月迫ニハ稀代の大雪と相成、家々の軒を埋む、深サ凡七八尺なるべし、冱寒も素より甚敷、仏壇の水氷りて、陶器を破れり、又、湖山池氷固て、一面の平地と成れり、依之、その比小鹿谷より和田家へ来れる飛脚之者、中茶屋を出てより池辺へ出んとて、右を忘、いか程参候ても出逢さるゆへ、不審ざりしが、一つの村里へたどり着ぬるゆへ、湖山なりやト尋問けるに、高住村也と答ふ、来りし道筋を案るに、池の上を青嶋の南を経たる積りなりしとの説を聞たり、又、伯州ニ而は、米子の裏海に例年困置ぬる大船、氷に張閉られけるに、用水乏敷相成りしか共、陸へ通へき便なく、初二てんま舟を卸しけるに、数十間氷の上を走行たる二、少も損る跡更ニなし、重而、試の為大錠を擲けるに、是も陥ざりし故、最早安堵して、数日陸へ行通ひせしと也、又、錠を以氷の厚を穿ちて試けるに、五尺余ありしとなん、是は稀世の珍事なりと里老も語り候よし、又、その年より百五年以前、宝永五子年大雪なり、今のノ御丸を中の丸と称へ候時、清源寺様、河州公の御館へ御立除被遊候事あり、委敷は其年之所に挙たり、上野氏の勝見紀行ニ云、上略宝永五子年、当国大雪降る、御城下積雪八九尺口、老人の云けるは、八九十年〔案、寛永年間なる歟〕以来の大雪也とぞ、其時、湖山の池の上、氷一面に張り塞ぎ、年内十二月より明ル三月まで、氷之上を行キ通ふ事平地の如しと聞、我等年若き比、高住村に住む浪士中川某が妻の云けるとて咄伝へに聞候事也、水の中、三段ニ氷あり、厚サ五六尺あり、其あハひ、少し氷ならず、水ありて、又其下に一重あり、その下も右の如し、斯あれバ、其上往來ハ自由なるべき事なり、又、昔は御国大雪降りけるが、次第ノに雪の降事少く、百二三十年已來ハ、昔の如くなる大雪なし、是ハ、遠山の林木を伐尽して、風の吹こもりなき故也と云る人あり、左もあるべき事也ト云々下略、殊に当年ハ大火にて、仮屋住居の者幾ばくと云事を知らず、その難義之程、推て知るべし。	471, 472	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。引用箇所中の{}内は底本の割注部分。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、「我等」の部分には「上野氏也」と傍注が振られている。また、資料には月日が明記されていないが、「因府年表」(鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』1976年)で同じ事象について記載している月日と同様と見做した。	鳥取県立博物館
501	文化9	1229	18130131	大雪	因府年表 (化政叢秘録)	深雪埋軒。御触。就大雪来春互の年礼可及遅延、且往來無礼を可相慎旨被仰出。	905	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
502	文化10	124	18130224	地震	因府年表 (化政叢秘録)	亥尅地震。	906	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
503	文化10	211	18130313	洪水	因府年表 (化政叢秘録)	南風吹雨常へに沃ぎ、雪解水激流して河々洪水。	906	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
504	文化10	215	18130317	洪水	因府年表 (化政叢秘録)	袋河出水。於吉方流船を止んとして溺死せる者あり。	906	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
505	文化10	413	18130513	大風	因府年表 (化政叢秘録)	午時、南風大に吹起り、及二更漸く止む。	907	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
506	文化10	503	18130601	地震	因府年表 (化政叢秘録)	深更地震。	908	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
507	文化10	512	18130610	大火	因府年表 (化政叢秘録)	浦富大火。農家・商屋七拾軒余燻滅せると云。	908	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
508	文化10	513	18130611	大火	因府年表 (化政叢秘録)	長田山の上に当て焰気空を焦せり。滝山村の出火にて村中大半焼亡し、残る所僅に十四宇なりしと云。	908	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
509	文化10	711	18130806	大雨	因府年表 (化政叢秘録)	早朝雷鳴大雨如沃。今日大勘定聞笠井小左衛門蠅座奉行に、在御吟味役小山伊右衛門大勘定聞に、蠅座奉行田淵五郎一在御吟味役に転役を命ぜらる。	908	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
510	文化10	1008	18131031	大風	因府年表 (化政叢秘録)	雨、湿風烈。亥半尅、大工町平野屋が普請廠出火。但他に不移。	910	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
511	文化10	1009	18131101	大風	因府年表 (化政叢秘録)	烈風甚雨。所々破損多し。	910	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
512	文化10	-1104	18131226	大風	因府年表 (化政叢秘録)	南風大吹、及晩景は風不定、或は西より或は北よりす。夜に入益熾に相成り、所処破損少からず。	910	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
513	文化11	129	18140320	大風	因府年表 (化政叢秘録)	昼、南風大に吹、障子を飛し垣牆を倒す。及暮漸く止む。頓て行徳に出火あり。早くに鎮火せり。時尅宜しく近辺余災を不蒙りしは大なる幸也。	912	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
514	文化11	606	18140722	大雨	因府年表 (化政叢秘録)	入梅中連日天気つきにて、川々大に湯水す。然処今日霹靂大雨沃き、民間の歡喜最も甚し。	914	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
515	文化11	1125	18150105	大風	因府年表 (化政叢秘録)	新藤庄六門人浦留に遠馬に行く。山住長兵衛養子平之丞は他弟子なれ共、其日の同道也。掃路風烈しく吹て、中道にかゝる種ヶ池辺を過る時、平之丞が乗たる月毛馬水に入、人馬共没溺して死す。稀代の珍事也。	917	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
516	文化12	103	18150211	大風	因府年表 (化政叢秘録)	早旦御社参。御帰城の後取次替並町人御礼。晩景烈風起、及翌朝止む。	918	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
517	文化12	121	18150301	地震	因府年表 (化政叢秘録)	亥尅、地震強く揺く。	918	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
518	文化12	1024	18151124	大火	在方諸事控	一河村郡泊村、去月廿四日之夜出火焼致失し候処、宿場之儀二付、類焼人え竹木藁繩、御定之割合を以被遣候様相同、御聞届相済候付、御郡え申渡ス。配木等左之通。【後略】	852	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
519	文化12	1124	18151224	大火	因府年表 (化政叢秘録)	田後浦の漁家大半焼亡す。	922	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
520	文化12	1210	18160108	大火	在方諸事控	一岩井郡田後村幸三郎と申もの居宅より、去亥十二月十日昼八ツ時出火、同夜五ツ時半鎮火、類焼百拾三軒有之、尤百軒以上は公義え御達被成候二付、右御達書享和元西二月、気多郡潮津村出火御達書見合相認、御月番近江殿え御郡代加藤主馬今日差出ス。軒別分委細諸事達控有之。【後略】	873	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。「因府年表」が載せる、文化12年11月の田後浦での大火と同一の出来事の可能性もあるが、確定できないため、とりあえず別の火災として扱った。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
521	文化 12	1299	99999999	大雪	因府年表 (化政蔵秘録)	大雪、地に積事可四尺。	922	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では十二月の項の頭記事にもかかわらず、日付の部分が「同」となっている。このため、陰暦の日付については、「1299」、グレゴリオ暦の日付は「99999999」とそれぞれ記載した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
522	文化 13	104	18160201	地震	因府年表 (化政蔵秘録)	黎明地震。	923	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
523	文化 13	507	18160602	大雨	因府年表 (化政蔵秘録)	迅雷大雨。今町の商家に落つ。老夫片体火毒に触れ、数日を歴て後死すと云。	924	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
524	文化 13	708	18160801	大雨	因府年表 (化政蔵秘録)	昨夜の大雨にて河水漲り出、取次替高田源兵衛が倅源三郎、吉方柿の木之辺にて船より落ち溺死せり。	925	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
525	文化 13	804	18160925	洪水	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		658	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
在方諸事控						951-955	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。「当月四月洪水御郡々破損先達写子閏八月」ほか。	鳥取県立博物館	
因府年表 (化政蔵秘録)					大風甚雨、翌五日洪水。府下所処床を浸す。知頭橋通行ならず、三田家より瓦町下屋敷へ働に参候御小人の乗たる船沈、八人之内四人水没す。午時吉方門所の奥戸田惣馬同居某事、水中二階より失火起り焼亡す。尤、家内は無恙、幸に他に不替。此日町火消共早速駆付候へ共、どんより上は水深くして行事ならず。空しく去年限り止れり。又、於江府今日大風瓦を吹飛す事恰も乱葉の如くありしと云。近代には稀有の烈風なりしと云々。	926	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館	
528	文化 13	1124	18170111	大風	因府年表 (化政蔵秘録)	大風雪降。当夜柳蔵の御番人警守の為御構内を巡察せるに、果して賊ありて御米武儀を盗去ぬるを、門外に於て是を組留む。其内近隣の人々も出合、助勢を加え、遂に賊を押搦む。彼は取次替安田喜作が長屋へ居ける中背助七と云者にて、元但州の産なり。頓て獄舎へ牽る。又御番人は後御賞美に預り鳥目若干を賜はる。	928	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
529	文化 14	601	18170714	大火	因府年表 (化政蔵秘録)	丑尅、岩井郡湯村なる嶋屋より失火起り、大火と成る。一邑の内此災を免るゝ者僅に拾余家、及辰尅鎮火に属す。	932	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
530					在方諸事控	【前略】因幡国岩井郡湯村百姓弥兵衛宅より、当丑六月二日之暁七時出火、類焼多同日五時鎮火。【後略】	1036, 1037	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。なお、本史料では2日暁のこととされているが、内容・地域から見て同一の火災と見做した。	鳥取県立博物館
531	文化 14	905	18171015	大火	因府年表 (化政蔵秘録)	戌尅、立河霊光院の前櫛屋より出火、山手の方三十軒ばかり焼亡す。又火元の老夫焼死たりしと云。	933	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
532	文化 14	910	18171020	大風	因府年表 (化政蔵秘録)	南風大吹、細雨数沃、及翌十一日晚景止む。所処破損あり。	933	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
533	文化 14	1003	18171111	大火	因府年表 (化政蔵秘録)	戌刻薬師町石川屋敷之内広瀬泰輔より出火。長屋十三戸焼亡す。	933	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
534	文化 14	1204	18180110	大雪	因府年表 (化政蔵秘録)	自今日連日雪降り、地に積む事三尺余。月迫に及んでいよゝ降増。	934	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
535	文化 14	1228	18180203	大雪	因府年表 (化政蔵秘録)	雪積屋宇を搔下す。	935	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
536	文化 14	1229	18180204	大雪	因府年表 (化政蔵秘録)	立春、大雪積候間、往来互に無礼無之様可相慎旨、就右は来年頭の礼漸時可及遅延旨、申通を以て被仰出之。	935	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
537	文化 15	229	18180404	大風	因府年表 (化政蔵秘録)	南風強吹雷鳴す。風忽北に転して雨に属す。未尅地震。	936	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
538	文化 15	229	18180404	地震	因府年表 (化政蔵秘録)	南風強吹雷鳴す。風忽北に転して雨に属す。未尅地震。	936	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
539	文化 15	301	18180406	大風	因府年表 (化政蔵秘録)	北風強吹霰降。此日大萱谷の奥へは霏ると云、誠なりや。	936	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
540	文化 15	401	18180505	大雨	因府年表 (化政蔵秘録)	暁更霹靂大雨如沃。今日古海の乗馬なし。翌二日午時過雷降る。	937	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
541	文政元	806	18180906	大雨	因府年表 (化政蔵秘録)	当夏大に旱魃し、今日に至て午後大雨沃き、明七日黎明快晴す。同九日晚甚雨常に降り、十三日に及んで晴に属す。夫より後は平日に復せり。	939	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
542	文政元	1229	18190124	大雪	因府年表 (化政蔵秘録)	雪天委地可巻尺。昏暮古海の渡船沈み大に騒動。	942	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
543	文政2	108	18190202	大風	因府年表 (化政蔵秘録)	大風、吹雪中穂を転ずが如し。	942	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
544	文政2	215	18190310	地震	因府年表 (化政蔵秘録)	子尅、地震。	944	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
545	文政2	401	18190524	大火 (大路屋火事)	在方諸事控	一今暁八半時頃、若桜町筋大路屋半三郎と申もの方より出火致し、御役人人夫召連罷出相防、左之通焼失致し、屋四時頃鎮火之事。【後略】	1208, 1209	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
546					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		636	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
547					因府歴年大雑集	此時大路屋半三郎ト香具屋ト云業店ノ間ヨリ火起り、火元ノ争論アリ【底本ではここで改行】後大路屋カ方火元ニ定ル【底本ではここで改行】サレトモ、此大火ヲ香具屋火事トモ称スルモノアリ	488	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。なお、底本に掲載されている図は略した。	鳥取県立博物館
548	文政2	401	18190524	大火 (大路屋火事)	因府年表 (化政蔵秘録)	当春世評に今年は石黒焼の百年忌なれば、火事を可慎と申けるが、去月朔日無事なりし故みな安堵して居たりし処に、閏月なれ共月も日も不違、今暁真教寺の前なる香具屋と云業店より火起り、頗る大火と相成る。此日風は有共、甚穏なりしに、存外なりしかば人皆怪異とせり。及黎明鎮火に属す。東北は若桜町より風呂屋町・二階町に至り、南西は河端町目より三丁目に至まで、尤上の方は片側なりしが、下は両側となり、鹿野海道の後ろ通りに至るまで、其中間家数凡千二百五拾二軒、並土蔵二十八戸悉く燔滅す。又異国人の旅館火に近き故、是を立川の法泉寺に避む。事急にして駆付の人不來は悉く轡に乗する事を不得、過半は歩行にて馳行しめしと云。又魚町大谷が宅は、土蔵造りなりしが、四辺火に包まれて遂に此災を免れたり。是より後此當み多く成たり。	945	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
549	文政2	612	18190802	地震	因府年表 (化政蔵秘録)	未尅、地震強く動揺す。	946	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
550	文政2	1222	18200206	大風	因府年表 (化政蔵秘録)	昨夜より南風大に吹、翌晩には雷電し雪を降らす。	949	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
551	文政3	318	18200430	洪水	因府年表 (化政蔵秘録)	自去比霖雨にて出水、麦田を浸す。春の洪水は稀代の事也。	950	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
552	文政3	401	18200512	大雨	因府年表 (化政蔵秘録)	松上祭り。辰飯後大雨如沃、及午時快霽し、藩中乗馬の少年等大に雀躍して古海へ出つ。	950	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
553	文政3	401	18200512	地面変動	因府年表 (化政敵秘録)	大萱谷中河原の山の頂に大なる割目出来、深さ難計と云。	951	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
554	文政3	1127	18210101	大風	因府年表 (化政敵秘録)	昼行徳村田惣兵衛長屋より出火。此日、居住の者嬰兒を留守に臥させおき畑へ出居候処、失火に焼死たり。又鎮火の後、頓て暴風起り樹を折屋を剝く。近隣危難に不達しは幸也。	954	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
555	文政3	1230	18210202	大風	因府年表 (化政敵秘録)	自昨夜やませ風吹微雨班々。此程世上の人情安靜ならず。吉成村の百姓某鎌にて自害。又同夜橋津の神主は山伏を殺戮せりと聞ゆ。	955	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
556	文政4	230	18210402	大火	在方諸事控	【前略】伯耆国河村郡漁師宇兵衛宅より、当巳二月晦日之夕四時出火、同村類焼、同夜七時鎮火。【後略】	1294, 1295	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
557	文政4	301	18210403	地震	因府年表 (化政敵秘録)	早朝、地震強く動揺す。	956	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
558	文政4	305	18210407	大風	因府年表 (化政敵秘録)	曇天南風強吹。御発駕。御用人大竹万録御供に候す。今度の御旅粧前代未聞の御省略也。御挾箱都合四つ、御馬一疋、御台傘立傘なし、御先供の御徒唯五人なり。拝見の人人皆愁緒を不含者なし。今度は木曾海道御通行也。	956, 957	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では「御発駕」の後に「御乗輿也」と傍注が振られている。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
559	文政4	815	18210911	大風	因府年表 (化政敵秘録)	南風大吹禾稼を損害す。日没の比尤熾なり。倒たる稲には悉く芽を生ず。	958	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
560	文政4	1004	18211029	大火	在方諸事控	一昨夜五ツ時頃鑄物師町長栄寺より出火致し、人夫召連罷出相防、左之通致焼失。同九ツ時頃鎮火之事。【後略】	1330	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。なお、「因府年表」が載せる、同年11月4日の火災と同一の出来事である可能性が高いが、確定できないため、別の火災として扱った。	鳥取県立博物館
561	文政4	1104	18211128	大火	因府年表 (化政敵秘録)	戌尅、長栄寺本堂の床下より火起り、景福寺の塔頭龍華院又学成寺並商家廿八宇蒙余災れり。	959	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
562	文政5	423	18220612	洪水	在方諸事控	【前略】一昨廿三日洪水二付、左之面々邑美郡吉方村沓本橋え出張之事。【後略】	1388	鳥取県編『鳥取県史 第10巻 近世資料』(1980年)。	鳥取県立博物館
因府年表 (化政敵秘録)					夜、大雨頻りに沃き翌朝に及んで暴水漲り出、河辺へ積置たる麦悉く流失す。其甚しき者に至ては、一粒も不得し者ありと云。稀有の珍事なり。又河筋破損多し。	962	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館	
564	文政5	523	18220711	洪水	因府歴年大雑集	五月廿三日、大雨頻りに沃き、洪水漲り出、川筋之村々大ニ麦を流したり、須更の間は川水の見へさる程なりしと云、八上郡釜ノロ村の後に古川残り、本川との間ニ大なる中河原あり、此所は、式村の稲麦を干す場なり、此日も夥敷取ひろけてありけるに、暴水出ければ、村民船にて渡り、是を取入候内、水嵩いよゝゝ増て、掌の力のミにては無覚束相見へ申候へ共、沓艘ニハ、角力を取候強力の者乗組居候て、金剛力を出して、やうゝと涯までさし着たり、今一艘ハ、四人乗なりしが、激水に押流され、射る箭の如く二川下へ流出、中ニ水練達者なるものありて、一ツ木の渡の下にて逆巻浪ニ飛入て、辛ふして一人ハ命を助りしか共、頓而船砕て、残三人ハ水没せり、死骸ハ後日、国安或ハ古市にて引上候也、又、大路村の富民某か家には、己か畠ニ町置たる麦眼前に浮ミ出たれ共、既に橋落、河水の為に隔られ、悉く流失せしよし、又、知頭・八東の川筋、夥敷材木を流したり、此日、河下の村々にては、拾ひものにて、得のつきたるもの不少と聞へたり、稀代の珍事なり、彼立願とて、ずみきの如き磨點を捕んか為、秋の比、若輩共は、水の出ばなを好んで河辺ニ臨事あり、右等暴水の出る事もあれハ、心得ありたき事歟。	491, 492	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
565	文政6	320	18230430	大風	因府年表 (化政敵秘録)	昼南風強く吹。	968	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
566	文政6	329	18230509	大風	因府年表 (化政敵秘録)	南風強吹。春の比此風数吹、田土能乾き土を打砕けは煙の如散たり。夏に踰ても連日天気なり。	969	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
567	文政6	401	18230511	地震	因府年表 (化政敵秘録)	巳尅地震。	969	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
568	文政6	405	18230515	大風	因府年表 (化政敵秘録)	辰飯後南風強吹、未尅細雨班々として地震強く揺、風復吹募りて及暁更止み、翌六日午時大雨如沃。	969	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
569	文政6	405	18230515	地震	因府年表 (化政敵秘録)	辰飯後南風強吹、未尅細雨班々として地震強く揺、風復吹募りて及暁更止み、翌六日午時大雨如沃。	969	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
570	文政6	406	18230516	大雨	因府年表 (化政敵秘録)	辰飯後南風強吹、未尅細雨班々として地震強く揺、風復吹募りて及暁更止み、翌六日午時大雨如沃。	969	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
571	文政6	426	18230605	地震	因府年表 (化政敵秘録)	戌尅、大地震良久し。夜中に四度動揺す。	969	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
572	文政6	607	18230714	大雨	因府年表 (化政敵秘録)	晩景細雨瀟、終夜陰雲結れ晨明に及んで大雨降る。頃刻にして休む。兩三日の間小雨連々沃きぬれ共地を潤すに不足。先月以來南風吹つゞき炎旱なる故草木の葉みな色を失へり。然処今日に至て潤色見はる。	970, 971	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
573	文政6	619	18230726	大雨	因府年表 (化政敵秘録)	八專に入る。晨明陰雲一天に覆ひ恰も梅雨の如し。午時に及んで霽に属す。夜に入西の方海鳴移し。翌朝大雨沃き及昏暮止む。	971	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
574	文政6	621	18230728	大風雨	因府年表 (化政敵秘録)	快晴。□尅暴風起り、大雨篠を乱すが如くに沃く。然処、氣多郡へは夏の間一滴の雨なしと聞ゆ。其後諸郡湯水し以前よりも甚し。高草郡の村老が評には、三拾年以前の大旱魃よりも今年の方甚し。其節には松上川野坂迄は流不涸。然に当夏は上原より下は河水濁たりと云々。予案以前の早は寛政六年也。此年袋川湯水して盆の燈籠を千代川へ流し候様にとの御下知ありて、今に恒例となれり。其年耆老の説に七拾五年以来の炎旱なりと伝へたりと云々。今年表を推に享保五歳にて石黒大火の年なりと見ゆ。但その精証を得ず他日猶可考。	971	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では「寛政六年」の後に、「甲寅」と、「享保五」の後に「庚子」と、それぞれ傍注が附されている。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
575	文政6	807	18230911	地震	因府年表 (化政敵秘録)	夜半、地震良久しく動揺す。	972	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
576	文政6	1207	18240107	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	自午時雪降る。及翌朝積地凡三尺余。沍寒近年に無比類厚く氷閉つ。文化壬申より以来如斯事なし。	974	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
577	文政7	121	18240220	大風雨	因府年表 (化政敵秘録)	沍寒大風雨、雪交降る。午時柳原東側の民屋四宇焼亡す。	975, 976	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
578	文政7	201	18240301	地震	因府年表 (化政敵秘録)	未尅、地震。	976	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
579	文政7	815	18240907	洪水	在方諸事控	【前略】一去ル十五日洪水二付、御郡々破損場所左之通相認メ、宮城善兵衛登城致し候処、御月番出勤不被致、御根取豊前殿出勤、御月番請被申候二付、右書付差出し、口達にて此段御月番 前殿え別段御達不仕段、申達置候事。【後略】	29, 30, 45, 46	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。ほかに「当八月十六日閏八月十五日両度洪水御郡々破損所達し写し」なども。	鳥取県立博物館
580	文政7	-815	18241007	洪水	在方諸事控		45, 46	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。「当八月十六日閏八月十五日両度洪水御郡々破損所達し写し」ほか。	鳥取県立博物館
581	文政8	718	18250831	洪水	在方諸事控	【前略】私領分因幡国・伯耆国当七月十八日大風雨大雷にて致出水、其後霖雨打続、猶又八月十三日夜より十四日迄大風雨強出水田地所々損毛有之趣申越し候。委細之儀は与得取調之上、追て可申上候得共、先此段御届申達候。以上。【後略】	107, 108	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。「当西七月十八日・八月十四日両度之洪水井風当り之損破損」ほか。	鳥取県立博物館
582	文政8	814	18250926	洪水	在方諸事控	【前略】私領分因幡国・伯耆国当七月十八日大風雨大雷にて致出水、其後霖雨打続、猶又八月十三日夜より十四日迄大風雨強出水田地所々損毛有之趣申越し候。委細之儀は与得取調之上、追て可申上候得共、先此段御届申達候。以上。【後略】	107, 108	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。「当西七月十八日・八月十四日両度之洪水井風当り之損破損」ほか。	鳥取県立博物館
鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志						659	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館	

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
584	文政 9	702	18260805	強風雨	因府歴年大雑集	七月二日昼、【中略】同日申刻前、西の方江黒雲たなびき、しばし、雷鳴し、疾風忽起りて、大雨盆を覆が如く、雨戸をはずし、障子を折、甚き二至てハ、板屋を剥ぎ、石を飛ばし、何れの家々も、屋根のしたより、逆風二障へられて漏込候事滝の如く、ミな人は是を防ぐの術を失へり、加之、狂雷強く響きて、氷を降ス事、小石を蒔が如し、その大なるものは、母指の頭の如くなりし也、重サ三勺余ありしとかや、柳蔵の樹下蟬の死したる事、黒豆を散せしに異ならずと云、無程止て、臍二属せり、此日、大杭村二雷落候ト云、土用の明の前々日の事也。	496	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られているルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
585	文政 9	1005	18261104	大風	因府年表 (化政敵秘録)	薄暮、暴風起。今日網代の獵船覆没し漁夫八人海死。	984	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
586	文政 9	1207	18270104	大風	因府年表 (化政敵秘録)	雷電。山瀬風烈。翌八日天気にて平穏。冬雷鳴せるをば邦俗雪起と称して大方は天気損じぬるに、右等なるは稀有と謂つ可し。	985	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
587	文政 10	203	18270228	大風雨	因府年表 (化政敵秘録)	大風雨。往来の人傘を砕く。	987	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
588	文政 10	222	18270319	大風雨	因府年表 (化政敵秘録)	暁更。疾風大雨如沃。種々の種物を降す奇異の事也。其比俗間挙て麦大豆小豆など評せしもの、或人これを蒔置て試みけるに、柞子・ふり・鶯・むくなど発生せしと云。又但馬国尤夥しと聞えたり。此日彼岸也。又或算術家御両国に降る処の高を計るに、方一丁に巻合降りたる割にて、凡可二千石云々。	987	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
589	文政 10	619	18270712	洪水	因府年表 (化政敵秘録)	千代川出水。安長の自分渡水に入り百姓一人水没す。同船の者は危して命を全せり。	989	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
590	文政 10	699	18270799	山崩れ	因府年表 (化政敵秘録)	河村郡橋津の山崩れ、人屋一字を圧損し家内三人死亡。	989	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では、この項目の日付について、「同下旬」としている前項に対し、「同」とされている。このため、便宜的に陰暦については、「699」、グレゴリオ暦については「18270799」とそれぞれ記載した。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
591	文政 10	-612	18270804	地震	因府年表 (化政敵秘録)	未冠地震。薄暮午の方に紅雲たなびき大に撃電す。同夜月暈あり南方欠たり。翌晩彩雲見はる。是より炎早三旬を亘れり。仍て漸く青稻滋殖し民間大に開眉す。及七月七日雨降満溢水不乏。是迄の間白雨なきに非ども地を潤するに足らず。	990	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
592	文政 10	-628	18270820	大火	因府年表 (化政敵秘録)	丑尅、権現堂伴作平外長屋より出火、本宅焼亡す。足立徳之丞並町屋十軒余延焼す。此程の炎早なれども風無しし故、幸に鎮りたり。	990	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
593	文政 10	712	18270902	大火	因府年表 (化政敵秘録)	雨天黎明、田ノ嶋村の民屋一字焼亡。同夜鹿奴賊火の為に三十余宇燔滅せしと聞えたり。	990	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
594	文政 10	713	18270903	大風雨	因府年表 (化政敵秘録)	暁大風甚雨。二百十日也。盆中冷氣強し。	990	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
595	文政 10	716	18270906	大風雨	因府年表 (化政敵秘録)	申尅疾風甚雨、覆盆の如し。去共此比御堀凌へにて、外廓廻りの御堀水を落たり。依之出水立処に減ず。又今日の霹靂妙円寺の大工廠に震し、屋宇を砕き門前の見通しの商家の戸袋を破り、雨戸を数十間の間に散乱し、さて其合壁なる処医永原秀駒宅の格子並駒除を損ず。又吉方御別業御庭の樹又瓦町御別業の向に在御馬立、又太田土肥之助宅地、大工町頭佐久間基左衛門居宅、田中村にて取次替某がやしき古海松番廠の側に落つ。其外諸所に落たりしと云風聞あれ共、証なきものは泄せり。其内にも妙円寺に落たるもの怪異也。佐久間に震せし雷の響ならん歟と評する者もあり、又学館御座敷の柱無故五寸斗り曲みたり。是は太田の雷の徹せし歟と云。尤此雷は甚微にして主も初は不知し由、此日摩尼山参詣せし人府下の変を不知。風雨にも逢不申と云稀有の事也。一昨乙酉の年七月十八日の雷雨とは甲乙無きが如し。又不思議なりし事は、今日の雷強く響きたるは、三四声に不遇候処如此所処に震せり。	990, 991	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
596	文政 10	922	18271111	土砂堆積	因府年表 (化政敵秘録)	自去比加路の海門沙漠にて塞り、数日の間西より東へ人その上を往来す。依之湖山池の水満溢して池辺の田地を浸すと云。	992	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
597	文政 10	1008	18271126	大風	因府年表 (化政敵秘録)	暁更、地鳴。西北之間撃電す。寒風烈しく吹塵上雪白し。	992	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
598	文政 10	1206	18280122	地震	因府年表 (化政敵秘録)	亥尅、地震。翌七日同刻又動揺す。	994	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
599	文政 11	125	18280310	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	雪積地可巻尺自去冬の大雪也。春寒烈しく連日雪降る。仍て萌芽悉く殺たり。	995	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
600	文政 11	506	18280617	大火	因府年表 (化政敵秘録)	夜、勝見一邑大半焼亡。尤御茶屋は無恙。	998	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
601					在方諸事控	【前略】一当子五月廿五日洪水之節、破損并当毛虫附、且八月九日・十日両日之大風損亡、此度左之通り堅紙二相認メ、公辺御達し二相成候二付、今日御月番え御吟味役より差出候事。【後略】	328-330、351, 352。	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。「当子五月廿五日之洪水并当毛虫付八月九日・十日之大風損亡破損」ほか。	鳥取県立博物館
602	文政 11	525	18280706	洪水	因府年表 (化政敵秘録)	藩君今日被遊御帰城候旨、先に御触出しに相成居候処、一昨日より温風雷電し大雨数沃て不止。依之千代川大に出水。但し辰飯後より快晴し、例の通御家中の面々為御迎罷出居候処、已に夜に入候ても御旅泊の消息聞えず、及亥尅執政衆よりの指図有之に依て各引取畢ぬ。	998	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では5月26日条に掲載されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
603					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		659	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
604	文政 11	702	18280812	大風	因府年表 (化政敵秘録)	夜、異風強吹、夜半過より風雨に属す。	1000	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
605	文政 11	722	18280901	洪水	因府年表 (化政敵秘録)	府下へは白雨班々。然るに夜に入俄に出水。安長辺にて帯刀の網打流死。其死骸は弁財嶋の辺より上り候由。又湊口にて投網船覆り、内一人は幸して命を助り、又一人は海へ流出。其死骸三、四日を歴て伏野浜へ打上げ候由。	1000	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
606	文政 11	810	18280918	大風	因府年表 (化政敵秘録)	暁更、大風起り、東方赤き事燃るが如し。辰飯後に至りいよゝ強く垣を損じ屋を剥く。	1001	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
607					在方諸事控	【前略】一当子五月廿五日洪水之節、破損并当毛虫附、且八月九日・十日両日之大風損亡、此度左之通り堅紙二相認メ、公辺御達し二相成候二付、今日御月番え御吟味役より差出候事。【後略】	351, 352	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。「当子五月廿五日之洪水并当毛虫付八月九日・十日之大風損亡破損」ほか。	鳥取県立博物館
608	文政 11	1216	18290121	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	大に雪積み庇を搔下す。	1005	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
609	文政 11	1229	18290203	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	大雪降る。	1006	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
610	文政 12	103	18290206	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	大雪軒を埋め、御家中相互の年礼可及遅延旨御下知あり。夜半新蔵の辺岩越次郎兵衛屋敷の僕廠より出火、一棟焼亡す。本宅に迫ると雖、深雪に隔られ幸に無恙。又火輝泄さる故近隣の家々不知者多し。依之御輪内火事なれ共大手へ着到帳も不出。眠近衆の内にも、両三輩の外には登城せる者無し。又火事へ可出肝心の御役人中も、鎮火の後に出馬ありし由稀有の珍事也。	1006	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
611	文政 12	105	18290208	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	又雪増。三日の記に来七日より十一日まで御除日の外当番の面々熨斗目麻上下着用とあり。	1007	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
612	文政 12	106	18290209	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	旧臘自廿八日連日雪降、今日適晴を迎へ、軒口より零垂る。然処当夜又雪降積みに地に委する事可六尺と云。	1007	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
613	文政 12	115	18290218	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	此程駅駄通行の為、江戸往来は勿論伯州赤崎まで、分領の村々より人夫を出して深雪を掘しむ。凡拾余里の間道の左右恰も屏風を建たるが如し。尤用ヶ瀬より先は次第に雪少しと聞ゆ。又浦留迄の通路は、浜坂村甚煩多く、依之村々相顧人歩を以て馬役を相動可申旨歎訴を捧ぐるに依て、御許容に相なると云。	1007	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
614	文政 12	123	18290226	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	暁更より又々以前の如き大雪積み、屋宇を搔下す。所処破損不少。	1008	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
615	文政 12	129	18290304	地震	因府年表 (化政敵秘録)	暁更地震。辰尅両度地鳴。此日暴風起り海上難船多し。	1008	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
616	文政 12	129	18290304	大風	因府年表 (化政敵秘録)	暁更地震。辰尅両度地鳴。此日暴風起り海上難船多し。	1008	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
617	文政 12	209	18290313	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	温風吹雨降り雪減ずと雖、未地上に残れる処可二尺。然処此比罅多く来り候へ共干事ならず。依之大半は府下に漕輸せり。其価甚賤しく壱升二匁より壱匁五分の間也。近来には稀有の事也。	1008, 1009	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
618	文政 12	214	18290318	地震	因府年表 (化政敵秘録)	天気伏霽、温和。今日彼岸に入る。去共残雪多く寺々の墓地人蹟稀なり。耆老も今年の如き事を聞ずと云々。同夜半更地震。	1009	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
619	文政 12	313	18290416	大風	因府年表 (化政敵秘録)	夜南風強吹。府下擲木を撃て夜を戒む。	1009	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
620	文政 12	523	18290624	大風雨	因府年表 (化政敵秘録)	夜大雨降、及翌朝大に風吹。	1011	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
621	文政 12	613	18290713	洪水	因府年表 (化政敵秘録)	暁更、迅雷暴雨恰も篠を衝くが如し。千代川洪水近年に比類なし。雷、知頭海道升形の上なる土手に震す。其外にも落候由風聞せり。又袋川筋は去年五月廿六日の出水よりも稍少しと云。	1011	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
622	文政 12	711	18290810	大風雨	因府年表 (化政敵秘録)	自夜前細雨灑く。今朝に至て是迄の気色とは少し変したり。午尅に及て大風甚雨と成れり。	1012	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
623	文政 12	716	18290815	大雨	因府年表 (化政敵秘録)	夜大雨車軸を流すが如し。翌日も亦雨不止。	1012	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
624	文政 12	718	18290817	洪水	因府年表 (化政敵秘録)	洪水。先月十三日より炎旱三旬を亘り、其間白雨しばしば下ると雖、恰も焼石に水を沃ぐが如く忽に地を白せり。去程に一昨夕より雨常に降りて、今朝に及んで大風雨と成れり。初には良の方より吹起り騰雲煙を涌すに似たり。午時に至て、子の方に吹かはし風勢益熾にして、屋を巻き垣を倒し樹を折り葉を吹揚る事飛花に異ならず。未の尅に及て袋川に水出、暮夜千代川も水勢強めさしも大磐石を以て畳上たる円通寺の大樋戸を衝破き、然上は頓て国安村・叶村の往還の土手を壊り、袋川の水と一所に相成り田土忽湖水と変し、村落は則嶋嶼に似たり。然上は河外の連屋は早速に戸口を没し軒口を浸す。依之総構の土手筋今は危く相見え候へば、兼ての制令の如く急き町々より土俵を担き出し、夫々持場々々を防ぎけれ共、水はいよいよ満々として已に危急に臨みしかば、近辺の家々より古量を運寄て是を堰留候に依て、河外に居をしむる人屋は猶更水嵩増て、婦女幼児は魂魄を失ふ。哀れなりける有様也。され行徳辺は水激流して押流さるゝ家もあり。或は其儘漬るゝもあり。目も当られぬ形勢なり。其内には惣構の土手筋卑き所よりは既に滝鳴て水漸く越込ければ、内町の民人共も角ては叶はじとて胆を冷し、あはたゞ敷資財雜具を取片付、老幼を携へて向寄の寺々へ避しむるもあり、其騒動云ん方無し。懸りし処に千代川の堤高草郡の方へ所処切込候故、府下土手外の水は漸々に減し幸に土商家は此水難を免れる。尤寺町・湯所などの如き卑湿の地は、悉く床を浸したり。但河外にては遂に土手筋無恙りし故、寛政乙卯の洪水よりも却て其害多かりしと云へり。初には溺死の巷説も有りしか共左のみ多き様にも聞えず。又伯耆国にては、日野川切こみ会見郡損害多しと聞ゆ。総て御領内の損亡は難勝計云々。	1012, 1013	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
625					在方諸事控		460-471	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。	鳥取県立博物館
626					鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		659-661	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
627	文政 12	1204	18291229	大風	因府年表 (化政敵秘録)	稀代の大風吹く。昨晚の余暉恰も燃るが如し。暮夜に及べ共更に消滅せず、半更大風起無程止たり。今朝に至りて日出の前東天赤き事如紅。須臾にして密雲これを掩へり。さて西天に姫装見る、辰飯後塙然として北あなち吹起り、瓦を飛せ茅舎を穿ち板屋を吹鬨る事霜葉に異ならず。或は建具を吹折壁を落し危哉所処家屋を吹倒して既に祝融の災あらんとす。去共幸に其事の無りし也。明暦年間江府回祿せし時の大風たりとも争て是に勝るべき。此変もし起りなんときは府下は残り無く焼土となる可し。此日古海御旅所の巨松を吹折候事夥し。又奥谷清源寺の入口なる並松、北側は大方吹倒して其残れるもの幾と稀なり。此余の損壊不可勝計して筆緒に竭し難し。耆老みな未聞不見の大変也と云。然処質山以東三本松以南には、此風を不知と云稀有の事也。	1014, 1015	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
628					在方諸事控	一去ル四日大風二付、因伯破損左之通書付ニシテ、御家老中え申達し候事。【後略】	524	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。「当丑十二月四日之大風破損」ほか。	鳥取県立博物館
629	文政 13	206	18300228	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	雪降。旧臘以来の大雪也。町家には庇の雪を下す。稀有之事なり。	1016	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
630	文政 13	213	18300307	大風	因府年表 (化政敵秘録)	儲君初御出、先学館へ被為入御講釈御聴聞。夫より瓦町の御別業へ御出、当夜南風強吹。	1016	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
631	文政 13	228	18300322	山崩れ	因府年表 (化政敵秘録)	此程の霖雨に依て、椿谷の山崩れ山足の菴室を敷埋む。近辺その音を聞て早速に馳集り、是を掘出し候処厄は無恙しか共、同宿の僧は所処に傷き、辛して助命せりと聞えたり。	1017	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
632	文政 13	509	18300629	洪水	因府年表 (化政敵秘録)	千代川大に水出。古海村の百姓の娘土手へ出て妻を取入んとせる内、其所の土手忽ち崩れて流亡せり。	1019	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
633	文政 13	702	18300819	地震	因府年表 (化政敵秘録)	申尅、大地震又子尅少動揺す。此日伊勢国尤甚しく、怪我人も有し由巷説す。	1021	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
634	文政 13	709	18300826	大風	因府年表 (化政敵秘録)	南風揚塵砂、午後に至大に吹。夜に入り小兩班々風いよいよ強く、府下の家々警守せざるは無し、及三更止む。	1022	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
635	文政 13	801	18300917	洪水・山崩れ	因府年表 (化政敵秘録)	山々より大に水出、谷隘に居を占る家々破損多し。又卑き家は床を浸す稀有の珍事也。此日袋川は八合程の水なり。後年これを山水と称す。当夜二更の比より大雨滝の如くに沃き、暴水漲出栗谷筋尤甚し。興禪寺より奥河へは多く砂を持ち出し、却て往来水流る。天王の下野崎新右衛門宅を砕く。又丸の内松の丸の山足箕嶋分太夫宅を押崩す。但家内は危して無恙。如此類所処に聞ゆ。	1022	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
636	文政 13	1106	18301220	地震	因府年表 (化政敵秘録)	亥尅、地震両度動揺す、尤甚微也。	1024	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
637	文政 13	1126	18310109	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	北方少鳴、雪頻降。及月末大雪となり、地に積事可六七尺。想に三四十年来大雪と申は、文化大火の冬、文政十口当冬と都合三度も。尤一旦の事にて下雪も無く、年内に過半は消たり。此時の日履代三十匁也。	1025	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。引用文中の「口」は底本で欠字・脱文等のために長方形の口で示されている箇所。	鳥取県立博物館
638	文政 13	1128	18310111	大雪	因府年表 (化政敵秘録)	大雪降。行徳佐分利九允足軽やしき出火、一棟焼亡す。辺鄙なる故これを知人稀なり。或は雪漬なりとも云。その実否未詳之。	1025	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
639	天保 2	107	18310219	雪崩	因府年表 (天保敵秘録)	夜八東郡神谷村の後なる山より雪類して、民家六宇を潰し、男女拾九人・牛六頭敷埋らる。依之郡中より四百人の人夫出て、是を掘たれとも、雪解て後出る者も有しとなん。又手足地を異にするもの有と云。一説に曰、此山に旧樹茂れり、而るを去秋悉く剪断したる故、此害を生せしと也。	1027	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
640	天保 2	422	18310602	大雨	因府年表 (天保敵秘録)	未刻暴雨迅雷し、水降る。大き如指頭。海上龍昇天す。須臾にして厲晴。【後略】	1028	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
641	天保 2	515	18310624	地震	因府年表 (天保敵秘録)	幟練。昼比雨降り、須臾にして止む。巳尅地震、尤微なり。	1028	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
642	天保 2	824	18310929	大風	因府年表 (天保敵秘録)	未刻前、少く雷鳴し、忽大風と相成、塵芥を虚空に巻昇げ、人屋の四面不濡処なし。諸所破損不少。	1030	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
643	天保3	309	18320409	大雪	因府年表(天保厳秘録)	大に雪降り、寒冷如厳冬。	1032	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
644	天保3	329	18320429	大風	因府年表(天保厳秘録)	夜七つ時比より大風吹起り、翌日に及んで不止。御役人の火の廻りあり。	1033	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
645	天保3	614	18320711	大雨	因府年表(天保厳秘録)	御乗船加路へ御出。今日御帰座の後、強雷轟き甚雨沃く。	1034	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
646	天保3	727	18320822	大雨	因府年表(天保厳秘録)	初更の比、夕立沃くか如し。府下の人先月中比より今日雨ある事を云へり。奇中せりと可謂。但、其れより後雨降ときは地潤ひ、空晴るゝや否忽に白地。八月四日に至り大雨降りしより、其後晴雨常に復す。	1035	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
647	天保3	808	18320902	大風	因府年表(天保厳秘録)	二百十日、昨日は余程風吹。	1036	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
648	天保3	-1116	18330106	大雪	因府年表(天保厳秘録)	寒に入る。天気先日内より穏に相成り、数雨降、下地に三尺余降積たる雪消る。	1037	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
649	天保4	207	18330327	大風	因府年表(天保厳秘録)	夜南風強く吹、翌日に至て不止。但冷なり。	1040	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
650	天保4	409	18330527	地震	因府年表(天保厳秘録)	午刻地震、余程動揺す。其後兩三度揺く。但甚微なり。昼栗谷の奥煙立、遠方少々騒く、但無程静る。	1041	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
651	天保4	827	18331010	地震	因府年表(天保厳秘録)	丑尅地震、動揺。翌昼地震甚微なり。【後略】	1041, 1042	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
652	天保4	901	18331013	地震	因府年表(天保厳秘録)	申尅地震、少揺。	1042	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
653	天保4	1025	18331206	地震	因府年表(天保厳秘録)	暁地震。二度揺く。甚微なり。	1042	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
654	天保4	1208	18340117	大風	因府年表(天保厳秘録)	無雪、南風大に吹く。	1043	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
655	天保5	102	18340210	大雪	因府年表(天保厳秘録)	大風雪、白地。壱尺斗積る。沍寒酷し。	1043	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
656	天保5	227	18340405	大風	因府年表(天保厳秘録)	自昨夜南風烈しく吹。御役人等火の廻りに出。及晩止む。	1044	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
657	天保5	612	18340718	土砂堆積	因府年表(天保厳秘録)	【前略】近年に至り、袋川脉諸所、砂漸々に停滞し、船往来自由ならず。仍当月より河浚始る。先出合橋より下、御乗場迄の間なり。此時砂中より四人の白骨出たりと云。時評区なり。【後略】	1045, 1046	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
658	天保5	629	18340804	大火	因府年表(天保厳秘録)	晩、高草郡岩坪村大焼。百軒余の家数、僅忒拾軒斗残る。【後略】	1046	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
659	天保5	711	18340815	大風	因府年表(天保厳秘録)	夜南風強吹。夜半比風北に転し雨に属す。此時海鳴事、万牛の吼るか如し。洪濤高き事三丈斗り、御手船三艘岩戸灘にて破損。翌日より又旱魃。	1046	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
660	天保5	711	18340815	高波	因府年表(天保厳秘録)	夜南風強吹。夜半比風北に転し雨に属す。此時海鳴事、万牛の吼るか如し。洪濤高き事三丈斗り、御手船三艘岩戸灘にて破損。翌日より又旱魃。	1046	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
661	天保5	806	18340908	大風	因府年表(天保厳秘録)	早朝より微雨班々として夜大風吹募り、但須臾にして止む。此夜の風、備前美作の方は甚強く、禾稼を損すると云。自去比秋里村口寺の釣鐘へ、先年自然に現れたる地藏尊、近年は隠れ居給ひける処、又此度露見せる由流伝し、参詣の人夥し。	1047	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。引用文中の「口」は底本で欠字・脱文等のために長方形の口で示されている箇所。	鳥取県立博物館
662	天保5	909	18341011	大風雨	因府年表(天保厳秘録)	自昨夜大風。当夏より旱魃数月を歴ると雖、潤土の雨無し。及今夕大雨長に沃きて土地潤沢す。	1048	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
663	天保5	918	18341020	大風	因府年表(天保厳秘録)	暁更より大風起り、終日吹続き、夜半前止む。雨少し降る。晩稲の刈吹落せし巷説にて、米直段少々競ふ。	1048	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
664	天保5	1008	18341108	洪水	因府年表(天保厳秘録)	大風雨。夜間斷無し。大水出。時節不相応なる故、川辺の百姓とも多く稲を流す。大路一と村にて一万七千束流失せし由、訴出と云。	1048	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
665	天保6	114	18350211	大風	因府年表(天保厳秘録)	午時前初て雷鳴、其後風強く吹。	1049	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
666	天保6	212	18350310	大雪	因府年表(天保厳秘録)	又今日より雪降り、地に委する事尺余、恰も如厳寒数日の間消ず。	1050	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
667	天保6	421	18350518	地震	因府年表(天保厳秘録)	暁更、地震。	1050	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
668	天保6	514	18350609	大風雨	因府年表(天保厳秘録)	入梅。当夜大風雨。涼氣復以前。	1051	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
669	天保6	522	18350617	洪水	因府年表(天保厳秘録)	昨夜大風雨。出水、川外所々床を浸す。千代川脉水勢強く、諸所土手切る。古海の乗越甚危しと云。国安の土手、今は切なんとせしとき、向郡に切込、袋河向の人屋幸にして水害を免る。又河辺の百姓夥しく妻を流失す。又諸所油脉、鯉を捕事夥し。百本或四五拾尾、其以下至ては不可勝計。耆老も如此事未聞之と云。	1051	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
670					在方諸事控	【前略】一今日洪水に付吉方一本橋え、左之面々下奉行召連出張居申、進注之上、御普請御吟味役森本平蔵罷出、防方承届無間も引取。在御目付以下は、水落候様子見届ヶ之上追々引取、其段申達し候事。【後略】	1009	鳥取県編『鳥取県史 第11巻 近世資料』(1981年)。	鳥取県立博物館
671	天保6	-706	18350829	洪水	因府年表(天保厳秘録)	午飯後より風吹、夜に入大風雨。竹嶋芝居の棧敷を吹倒され、大に日延に相成る。出水。及暁更止む。此日、加路明神下大船三艘綱切れ、湊口を出、破損。	1052	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
672	天保7	203	18360319	大風雨	因府年表(天保厳秘録)	夜雷鳴、電光数遠く聞ゆ。翌四日終夜大風雨。	1054	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
673	天保7	818	18360928	大風	因府年表(天保厳秘録)	杖衝へ御遠馬。此日浜風烈しく伏野より御帰り。	1057	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
674	天保7	928	18361106	地震	因府年表(天保厳秘録)	夜七つ時比、地震。但揺戻し無し。	1058	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
675	天保7	1205	18370111	大風	因府年表(天保厳秘録)	朝強雷五六声轟く。晩にも亦鳴。其後風荒吹。雪はさのみ不降。	1059	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
676	天保8	205	18370311	大風	因府年表(天保厳秘録)	辰刻地鳴、後風荒吹。	1062	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
677	天保8	206	18370312	大風	因府年表(天保厳秘録)	南風強吹く。夜母木の駅大焼。放火也と云。	1062	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
678	天保8	206	18370312	大火	因府年表(天保厳秘録)	南風強吹く。夜母木の駅大焼。放火也と云。	1062	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
679	天保8	303	18370407	大火	因府年表(天保厳秘録)	上巳の御礼被為請之。今夜亥尅、青谷大火。往還筋五十八軒焼亡。尤失火也。	1063	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の{}内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の)所蔵館
680	天保 8	603	18370705	地震	因府年表 (天保厳秘録)	巳尅地震。	1064	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
681	天保 8	911	18371010	大風雨	因府年表 (天保厳秘録)	大風雨。傘を折る者多し。	1065	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
682	天保 9	110	18380204	大雪	因府年表 (天保厳秘録)	節分。深雪積、沍寒。屋宇を揺家あり。	1066	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
683	天保 9	418	18380511	大風	因府年表 (天保厳秘録)	大風吹、雨少し降る。	1068	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
684	天保 9	506	18380627	大風	因府年表 (天保厳秘録)	午時過、大雲院の大師堂より失火起、衆徒熟睡してこれを不知、俄に狼狽甚し。折節南風強く吹、不残焼亡。但、本坊は無恙。	1069	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
685	天保 9	627	18380816	洪水	因府年表 (天保厳秘録)	晩景より大風雨。千代川出水、所々破損あり。	1069	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
686	天保 9	720	18380908	洪水	因府年表 (天保厳秘録)	屋比僅に雨降り、千代川俄に出水。奥の方より板橋など流出。稀有の事也。今朝炎熱にて此程日和つゞき也。奥に子細有之事にやと、人々評しめ。晩袋川も水出、往來に乗る処あり。雨沃無風。翌晩乗越の堤、今は二尺程の処迄浸す。連日悪風にて、温暖陰雨。至廿五日、青天を視る。此雨にて糠虫を流す。されとも稲には害あり。	1069, 1070	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
687	天保 9	804	18380922	大雨	因府年表 (天保厳秘録)	浜坂御茶屋へ御出。其れより岩戸へ御遠馬。掃路二つ山の辺、俄に大雨降出し篠をつつか如し。而るに、雨具の設なし。されとも聊の御厭ひもあらせ不給、ちよと御茶屋へ御入、其まゝ直に御帰城あり。	1070	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
688	天保 9	1007	18381123	大風雨	因府年表 (天保厳秘録)	半天、霰降る。数雷鳴。夜強雷電光。大風雨。	1071	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
689	天保 9	1208	18390122	地面変動	因府年表 (天保厳秘録)	未尅比、海士村の分領の森より二丁程東の往來端の田地、長さ壹丁半・幅廿間程の間、蛇持して土手の如く成る。最高き処は初は一丈八尺程ありしと也。白屋の事なれば、往來の人現に是を見たる人あり。	1072, 1073	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
690	天保 9	1208	18390122	地面変動	因府歴年大雑集	一当戊十二月八日、岩井郡海士村の分領に、蛇持と云もの出来たり、此日は、例年摩尼山へ參詣する人多きゆへ、其時通りかゝりて、側にて一見せし者も有之候様二聞へたり、委敷その由を承り候二、時刻ハ屋ハツ時なりしか、俄に地動き出し、往來へは婦人もありけるか、大に恐怖して走り過候と云、此変、数丁を隔てし高江の繩手を行人の眼にもあらハに相見へ候程の事なりしと聞へたり、予か一見せしハ、翌亥の三月十一日なり、長サ壹町半に幅廿間程の間、むつゝらと持上たり、其形、恰も琴の甲に相似たり、その上ニ登りてあちこちと經過し、近郷の民人ニ尋けるに、最初今より嵩高ふして、往來より海士の池を隔てし高江の村を望に、是二さゝえられて見へ不申候ひしか、其後漸々に減して、当時の如くに相成候と語り、當時も高サ壹丈斗ハ有べし、但、上下の長サハ稍延ひ候様に相見へ候由、又、蛇持の中程廿間あまりが間ハ、横二幾つともなく割目つきたり、想に、平坦の地を高く持上候ゆへ。ヶ様ニ破候もの歟、土は黒ミある堅き真土なり、右のわれ目の間、広き所ニても、勢を起せば飛越るゝ程なり、深サハ壹間程ある所もあり、田土に又田地に横油のありたる所ハ、コウバヅつきて、琴の背に樋をつきたる如くにて、小土手ハリウカクに髣髴たり、忽体あぜ稲株なども其俣ニ持上て居けるなり、何様地中の気砂山の方より発動して、池辺の方江泄散ぜしものと見へたり、其故ハ、往來の方ハ次第上りに成て、池の方へは破目つきたり、尤、其地堅実にして、直に下ハ空虚なる様ニハ見へさるなり、又、此地の字を昔より蛇ばみト称ふ、明和五子三月にも蛇持出来たり、此時は、長サ四拾間、幅廿間斗持上けると云、又、寛文絵図を見るに、此所を蛇持と記ス、されハ、此地は前代より此変を生ずる地と知られ候也、不思議なる事なり、大概ハ図見て知るべし。	522, 523	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。また、底本に掲載されている図も略した。	鳥取県立博物館
691	天保 10	307	18390420	大風	因府年表 (天保厳秘録)	晩更より巽の風大に起り、辰飯後、いよいよ募り、茅舎を巻き畑物を損す。又妻は旧冬より雪少く殊に冷氣強して生長せず。且この風に逢たれとも、未折よろしく穂不出内にて、さまで害と不相成、後に至て相應の出来と成る。	1074	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
692	天保 10	320	18390503	大風	因府年表 (天保厳秘録)	南風大吹、屋を剥く、其中、知頭街道玉屋か二階より失火起、幸に打消之。	1074	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
693	天保 10	511	18390621	大雨	因府年表 (天保厳秘録)	晩更より南風と相成、俄に暑気酷し。是迄は夜具の設冬のまゝ成し処、翌夕よりは臥具を用ゆるに不及。屋過大雨沃、無程止む。蒸暑益熾なり。十二日も少し雨降、須臾にして止む。此程氣候不順にて、持病動き難儀せる者不少。	1075	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
694	天保 10	809	18390916	大風雨	因府年表 (天保厳秘録)	夜半過より大風雨。暴水漲る。其後連日陰り、数小雨降る。	1076	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
695	天保 10	1103	18391208	地震	因府年表 (天保厳秘録)	屋前地震。甚微也。	1077	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
696	天保 10	1207	18400111	大雪	因府年表 (天保厳秘録)	雪地に積む事二尺余。	1077	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
697	天保 11	121	18400223	地震	因府年表 (天保厳秘録)	巳半尅地震、但揺戻し無し。【後略】	1078	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
698	天保 11	605	18400703	大雨	因府年表 (天保厳秘録)	晩強雷大雨。百谷村の農家に落ち、家内三人死候由巷説す。	1080	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
699	天保 11	623	18400721	大風雨	因府年表 (天保厳秘録)	一昨日土用に入る。夜前半更の比より雨下り、晩に至て大風雨と相成り、袋川端の往來を浸す。午後霽に属す。但風合あしくして蝗多く生し、禾稼を損害すと云。	1081	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
700	天保 11	717	18400814	大風	因府年表 (天保厳秘録)	晩、風大吹。気多郡姫路村大火。火元の家、飼牛を焼殺す。其吼る声、船碇まで聞ゆ。	1082	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
701	天保 11	717	18400814	大火	因府年表 (天保厳秘録)	晩、風大吹。気多郡姫路村大火。火元の家、飼牛を焼殺す。其吼る声、船碇まで聞ゆ。	1082	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
702	天保 11	720	18400817	大雨	因府年表 (天保厳秘録)	大雨。	1082	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
703	天保 11	804	18400830	大風	因府年表 (天保厳秘録)	大風、夜岩坪村大焼、百軒余燼滅すと云。	1083	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。底本では8月7日条の後に「四日」条が置かれ、その「同日」として本項目が記載されている。底本の誤植か、原文段階での表記か不明だが、今は取り敢えず8月4日のことと見做した。	鳥取県立博物館
704	天保 11	804	18400830	大火	因府年表 (天保厳秘録)	大風、夜岩坪村大焼、百軒余燼滅すと云。	1083	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。底本では8月7日条の後に「四日」条が置かれ、その「同日」として本項目が記載されている。底本の誤植か、原文段階での表記か不明だが、今は取り敢えず8月4日のことと見做した。	鳥取県立博物館
705	天保 11	814	18400909	地震	因府年表 (天保厳秘録)	辰尅地震、但甚微なり。午飯後夕立す。	1083	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
706	天保 11	929	18401024	大風	因府年表 (天保厳秘録)	大風吹。俄に寒冷を兆す。初霰降る。昏黒に降たるは、恐くは水ならんと云。	1084	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
707	天保 11	1211	18410103	大風雨	因府年表 (天保厳秘録)	午後大風雨。此程薪の価、割木五貫・おとろ六貫、前代未聞の高直也。木綿は掛目百目に付式弍分五厘。	1085	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリオス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
708	天保 12	105	18410127	大風・大雪	因府年表 (天保叢秘録)	雪積、風烈し。依之、百姓の不来家多し。此程酷寒にて水瓶を破り、仏器を損す。稀代の氷寒なり。	1086	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。底本では引用箇所が続いて、「当春の雪は降のみにて、消る日は絶て無之。屋宇の雪ずりも快はせず。仍て無幾程五六尺に及ぶ。家々毎度雪をは搔下しぬれとも、所々破損不少。又湖山地の氷十三年以前よりも甚し。其年には一面に張閉候へとも、其上を快は往来し難し。今春は福井村の人民障り無く布施の方へ経過せし也。又東郷池も同様にして、松崎の人、氷を踏で浅津村の方へ往来せしと也。又御城下外堀の魚凍死たり。在々にても、所に寄りては、池堤などの魚類夥しく死して、これを取上げ糞しに用し処もありしと聞えたり。前代未曾有の氷寒也」と注記されている。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
709	天保 12	304	18410424	大風	因府年表 (天保叢秘録)	夜、南風強く吹。	1088	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
710	天保 12	416	18410605	大雨	因府年表 (天保叢秘録)	南もやうにて温暖なり。午時過、強雷轟き、大雨沃く。但風は穩にして黒雲も不蔽。雨に交り氷降る。例の如く降られるとき冷しき音も聞えず。大さ指頭の如し。上町の辺にて最大なるもの重さ壹匁七八分ありたると云。大方は壹匁の上下なる可し。又湯所の辺には此変を不知。	1088	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
711	天保 12	416	18410605	大風	因府年表 (天保叢秘録)	未刻、復雷雨す。風は下に転して余程吹。以前の如く氷降る。前よりは小さく候へとも、多く降りたり。地上に陳く事、小紋の如し。温暖なるゆへ早速に消滅す。此日岩井郡の内へは二寸余りも溜候所も有之由。院内村へは大に麻苗を損し、直に抜て田の糞しに入候ゆへ、当年名物の芋は皆無也と聞えける。又知頭郡馬橋へ降候は、大さ如梅子と云。又雷も府下近郷諸所へ落候由。巷説区に候へとも定かならず。其内古市なる土手の松へは其痕の残りたる処ありと云。又八頭郡志谷村へは雷死の者あり。此等はたしかなる事也。	1088	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
712	天保 12	420	18410609	大風	因府年表 (天保叢秘録)	半天。未尅西風にて雷雨す。氷少々交り降る。但不見之人多し。此日氣多郡鷲峯の辺甚し。烈風民屋を吹倒し、大木を折る。又、板橋を虚空に旋上げけるとなん。氷は、大さ拳の如し。小別所村にては十七才の娘と居風呂桶紛失すと云。又吉岡近在も亦甚し。大さ火打石の如し。地に積事一寸余り、木々の若枝を払ひ、熟菜みな尽たり。大に麦と油種とを損害す。地より拾採もの三步或は四歩一位なり。農夫みな口。又野坂に降る物大さ藁の如くにして少し田畑を害するに至。世説云、往来の菅笠を打碎かれ、或は牛馬に傷け、家雞を損し、蛙を殺すと云。大なる物は蟻殻の如く、或は屋根石の如く、その甚しきに至ては土瓶に廉の立たるか如もの降たり。量目も百目或三百目も有しなど、取沙汰いたし候へとも、しかと聞ゆるものは、三四拾目に不過。又其所は忘れたれとも、氷三つを掌に入れて手を合けるに、其間余程明きたりと。是も無相違事也。一説には、大山より龍昇天して此変を発しけるとも云へり。実に稀有の奇変なり。【後略】	1088, 1089	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。引用文中の「口」は底本で欠字・脱文等のために長方形の口で示されている箇所。	鳥取県立博物館
713	天保 12	622	18410808	大雨	因府年表 (天保叢秘録)	大雨如沃。	1090	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
714	天保 12	919	18411102	地震	因府年表 (天保叢秘録)	七つ時地震。	1094	鳥取県編『鳥取県史 第7巻 近世資料』(1976年)。なお、引用文中の {} 内は底本で割注。また、底本に振られているルビ・返り点等は略した。	鳥取県立博物館
715	天保 14	1212	18440131	火災 (二の丸出火)	鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志		636	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館
716	弘化 3	228	18460325	山崩れ	在方諸事控	【前略】一八上都門尾村傍示中山と申所、去月廿八日山破谷筋往來え抜出、大木大石等押出し、人家危キ場所之、居宅三軒迄取崩候得共先六日限にて崩相止、尤御田畑えも大木土等崩込々々雨天之砌水透、村中一統心配致し候付、水抜被仰付候様願書絵図面等差出候二付、其段去ル十一日御家老中え申達ス。并法美郡禰宜谷村にても同村傍示土居奥滝谷と申所右門尾山引続にて、追々抜出候躰二相見え、甚心配致し候旨、是又歎書絵図面等差出候二付、御普請目付鳥谷八郎に出見分致し候処。追々摺出候趣二相見へ、谷狭之場此余摺出候ては、村方不残人家危キ様子二被相考、村方よりも当分仮小屋之儀相願候二付、談合之上同村傍示之内見計仮成之小屋懸出来、当分爲立退置申度段、去ル十四日御家老中え申達し置、右場所見分今日左之通在出、即日罷帰候事。【後略】	247, 248	鳥取県編『鳥取県史 第12巻 近世資料』(1979年)。	鳥取県立博物館
717	弘化 4	815	18470924	降雹	因府歴年大雑集	一八月十五日、今日ハ彼岸の中日の翌日なりしか、初日より雨ありて、今朝飯後ハ能天気模様にて、寺参りも多く候所、九ツ半比俄雷雨二相成り、余程強く鳴候得共、其内止て、空の晴候所もありて、いと静なりけるに、しらくありて、ほと／＼と大粒なる雨の落ける音しけるか、頓而大雹降りたり、屋根を飛斗にて、下二落ては滅けるゆへ、形ハ定かならず、氷なりとも云、無程止て始の如し、夜二入、月朗なり、当夜月触あり、是迄氷の降候とハ替り、何の音もなし、さまで冷氣も強ならず、前の雷雨は北風也、後の氷の降たるハ南ノ方也、さまで風も強吹不申候。	549	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
718	嘉永 2	999	18491199	地震	因府歴年大雑集	一九月【空白】地震、其後度々震て不止、長田ノ社二而、一七日之御祈禱あり、十月十日円満也、先月、丸山ノ善久寺ニ、此比信州善光寺之如來ノ【空白】護来て開帳ス、愚俗其故ならんト評判スト云。	553, 554	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。日付が明記されていないため、陰暦の月日欄は「999」と表記した。また、グレゴリオ暦の部分については、引用文中に「長田ノ社」で「十七日之御祈禱」を行い、「十月十日円満也」とあるため、そこから逆算して陰暦9月のことと逆算し、グレゴリオ暦11月(日付不明)として、「18491199」と記載した	鳥取県立博物館
719	嘉永 2	1026	18491210	大地震	因府歴年大雑集	一十月廿六日、風寒く、雨しハ／＼沃く、七ツ時比大地震、婦女幼児は魂魄を飛す、寛政卯年以來斯る事なし、其後連々動揺す、又、暮過震しも余程大也、以前よりハ少し小ト云。	554	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
720	嘉永 2	1114	18491228	地震、津波	因府歴年大雑集	一十一月十四日、余程之地震、此日加路へ洪波打寄、御番所の燈籠台之下迄來ル、此比湊大ニ広まる、猫溜り迄も白波立候由、鳥ヶ嶋を踰候事相違なし、一旦ハ嶋も見へさりし様ニ申者ありしか共、高浪ニ而出没せし事之様ニも聞ゆ、其日の昼比より翌十五日之屋頃迄ハ、湊口洪波ニ塞れ、水嵩大ニ増候と云、其後江津村ノ者ニ尋るに、加路ハ高浪の咄し承り候へ共、式村の前二而は、左而已常と替り候様ニも覺へ不申候由ニ答ふ。	554	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
721	嘉永 2	1299	18500199	大雪	因府歴年大雑集	一当冬、余程雪降、近年ニハ無比類、屋根を搔下ス、彼是怪我人も有之候由、湯所上ノ丁宮城之長や潰れ、日履之者ノ女房死ス、又、近所津田某乳房雪すりて死ス、但し、背負居たる幼女ハ無り恙し由。	554	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。また、底本では「乳」の部分に「(女カ)」と傍注が記載されている。なお、月日が記されていないので、便宜的に(陰暦)「1299」と記載し、グレゴリオ暦についても、便宜的に「18500199」と記載した。	鳥取県立博物館
722	嘉永 3	807	18500912	洪水	因府歴年大雑集	一八月七日夜、府下大雨降候へ共、一頻りニ而無程止、依之、袋川・私市河へも左迄水増す、然る所、八東川大水ニ而、ヤウロウ村へハ数丁田地流れ候由、知頭川も出水強く、翌日千代川大水ニ相成り、乗越土手一杯ありしト云、袋川へ下より水送込、外市円城院之門前杯も人の腰限り有之候由、尤、水ハ左而溜り不申、常之出水とは色替り候由、下より送込候勢強く、川水をせき上候ゆへと相見へ申候。	559	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』(2019年)。底本に振られていたルビや返り点、傍注は略した。	鳥取県立博物館
723	嘉永 3	902	18501007	洪水 (庚戌水)	家老日記			鳥取藩政資料。「とっとりデジタルコレクション」の博物館、「日記」の詳細検索画面にて、フリーワードを「洪水」、日記分類は「家老日記」、年は「1850」～「1851」を選択して表示された一連のもの(令和6年10月28日時点)。なお、この内には一部この時の洪水とは異なる洪水の記事も含まれているので注意。	鳥取県立博物館
鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志						661, 662	鳥取県編『鳥取藩史 第6巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971年)。	鳥取県立博物館	
堀潔明(敦齋)日記							鳥取県立博物館所蔵、「堀潔明(敦齋)日記 嘉永二・一～文久四・九」(堀文庫・H1/5-2/1)の内、嘉永3年分の日記。原題は「日記 三 嘉永三年庚戌正月元日」。	鳥取県立博物館	

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
726	嘉永 3	902	18501007	洪水 (庚戌水)	五水記			鳥取県立図書館所蔵の写本。資料コードは 117456917、書誌番号は 1101600758。末尾に嘉永 3 年と慶応 2 年の洪水についての記事が追加されている。なお、翻刻本の建設省鳥取工事事務所編『五水記』(社団法人中国建設弘済会、1974 年)は底本が異なるため、幕末の洪水についての記事は無く、従って翻刻もされていないことに注意。	鳥取県立図書館
727					林甚三郎一代水難之図		8-10	底本は建設省鳥取工事事務所編『林甚三郎一代水難之図』(1974 年)。なお、同書では「九月三日洪水」とされている。	鳥取県立図書館
728	嘉永 5	702	18520816	大風	贈従一位池田慶徳公御伝記一		398-401	鳥取県立博物館編『贈従一位池田慶徳公御伝記 一』(1987 年)。	鳥取県立博物館
729					鳥取藩史 第 6 巻 殖産商工志・事変志		662-664	鳥取県編『鳥取藩史 第 6 巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971 年)。	鳥取県立博物館
730	嘉永 5	722	18520905	洪水	在方諸事控	【前略】一昨廿一日夕より風雨烈敷、今朝明ヶ方より別て大雨にて、川々満水追々洪水と相成、且又御両国共同様洪水にて、田畑欠流石砂入等夥敷、追々達出候事。委細御新田部屋・御普請部屋え付留有之二付略ス。	651	鳥取県編『鳥取県史 第 12 巻 近世資料』(1979 年)。	鳥取県立博物館
731					贈従一位池田慶徳公御伝記一		398-401	鳥取県立博物館編『贈従一位池田慶徳公御伝記 一』(1987 年)。	鳥取県立博物館
732					鳥取藩史 第 6 巻 殖産商工志・事変志		662-664	鳥取県編『鳥取藩史 第 6 巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971 年)。	鳥取県立博物館
733	嘉永 5	822	18521005	洪水	贈従一位池田慶徳公御伝記一		398-401	鳥取県立博物館編『贈従一位池田慶徳公御伝記 一』(1987 年)。	鳥取県立博物館
734					鳥取藩史 第 6 巻 殖産商工志・事変志		662-664	鳥取県編『鳥取藩史 第 6 巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971 年)。	鳥取県立博物館
735	嘉永 6	819	18530921	大火	在方諸事控	【前略】一智頭郡駒帰村一昨十九日之夜出火、村中不残焼失致し候処、兼て極難洪、当日飯米差支候程之村柄にて、小屋懸ヶ等自力二致し候儀難相成、其上駅場の儀差支候段、大庄屋より申達し候処、右等駅場の儀小屋懸ヶ致し不遣ては、宿次之儀忽差支二相成候儀二付、一座申談之上先問屋老軒取建、外二極難洪十六人之ものえ、当座仮成之小屋懸ヶ致し遣し度段、今日御家老中え申達し候処、直二御聞届相済候二付、右小屋取建為御用、今日在下奉行兩人、御郡へ差出し候事。并右難洪人共えは御救米等被遣候儀も有之、委細ハ御新田部屋并御普請部屋へ付留有之事。【後略】	795	鳥取県編『鳥取県史 第 12 巻 近世資料』(1979 年)。	鳥取県立博物館
736	嘉永 7	1104	18541223	地震	在方諸事控	一去ル五日晚七ツ時より度々大地震致し、村々破損所并二崩家等有之趣相聞候二付、取調書付ニシテ申達し候様、因伯御郡々并町庄屋迄申達し置候処、夫々申達し候二付、今日帳面ニシテ長役より御家老中え御達し二相成候事。【後略】	960、976	鳥取県編『鳥取県史 第 12 巻 近世資料』(1979 年)。ほかに「当寅十一月四日・同五日大地震二付品々破損」など。	鳥取県立博物館
737					家老日記			鳥取藩政資料。「とっとりデジタルコレクション」の博物館、「日記」の詳細検索画面にて、フリーワードを「地震」、日記分類は「家老日記」、年は「1854」～「1854」を選択して表示されたもの(令和 6 年 10 月 28 日時点)の内、11 月 4 日条。なお、翌 5 日にも地震が起きており、こちらにも記述がみられる(内容の質は 4 日と大差ない)。	鳥取県立博物館
738					町年寄御用日記			鳥取藩政資料。鳥取県立博物館蔵「町年寄御用日記 嘉永 7 年 7 月-12 月」(6006)。	鳥取県立博物館
739					鳥取地震の事 全 (嘉永七年)			鳥取県立博物館所蔵、岡嶋家資料、岡嶋家 2-55。	鳥取県立博物館
740					日記抜書 養拙軒荘			鳥取県立博物館所蔵、「日記抜書 養拙軒荘(山田頼実) 嘉永五年—七年」(旧鳥取藩士山田家資料・山田家Ⅲ-82)。なお、史料の原題は「嘉永五年同六丑ノ年同七寅ノ年 日記抜書」。	鳥取県立博物館
741					堀照明(敦齋)日記			鳥取県立博物館所蔵、「堀照明(敦齋)日記 嘉永二・一～文久四・九」(堀文庫・H1/5-2/1)の内、嘉永 6 年から 7 年にかけての日記。なお、原題は「嘉永六年 始九月八日至七年 日録 六 堀氏 癸丑九月 至甲寅盡 此年改号安政元年」。	鳥取県立博物館
742					堀照明公事心覚			鳥取県立博物館所蔵、「堀照明公事心覚 嘉永五・一～文久三・一」(堀文庫・H1/5-2/2)のうち、嘉永 6 年から 7 年にかけてのもの。原題は「嘉永六年 公事心覚 二 堀氏 丑九月日より安政元年寅十二月迄」。	鳥取県立博物館
743					堀庄次郎書状			鳥取県立博物館所蔵、11 月 21 日付、宛所不明堀庄次郎書状(堀文庫・I / 五 -6/ 一-18)	鳥取県立博物館
744	嘉永 7	1116	18550104	大風	在方諸事控	一去月四日・同五日両日廿数度大地震、并同月十六日之夜は古来稀成大風にて、御郡々破損所・崩家等夥敷有之趣相聞候二付、破損之次第具サ書付ニして申達し候様、因伯御郡々え申達し置候処、夫々申達し候二付左之通堅紙二相認メ、今日御家老中え申達し候事。【後略】	976	鳥取県編『鳥取県史 第 12 巻 近世資料』(1979 年)。「当寅十一月十六日夜大風にて品々破損」。	鳥取県立博物館
745	万延元	1106	18601217	山崩れ	在方諸事控	【前略】一高草郡上砂見村傍示字谷平おん谷と申処、去ル六日朝五時頃俄二峯より平迄崩出、田畑并氏神社其外建物不残破損致し、且人家も危く相見え候二付、当時四軒立除居申段達し書・絵図面等差出し候二付、左之小書相添、右達し書其儘小仕置え申達候事。【後略】	45、46	鳥取県編『鳥取県史 第 13 巻 近世資料』(1978 年)。	鳥取県立博物館
746	元治元	313	18640418	大火	在方諸事控	【前略】一去ル十三日汗入郡下市村出火、大数焼失致し候処、同村宿継御用差支候旨、御郡役人より在御目付迄伺越し候付、一座申談之上、当分御来屋村より持出し候荷物は、八橋郡赤崎村え継通し、内村より持出し候分は、直御来屋村え継通し候様、右両郡え申遣ス。	701	鳥取県編『鳥取県史 第 13 巻 近世資料』(1978 年)。	鳥取県立博物館
747	元治元	1105	18641203	大火	在方諸事控	一去ル五日夜四ツ時頃、邑美郡吉方村源八と申者居宅より出火無間も隣家并東側えも火移り、御家中屋敷農家共都合三拾六軒焼失、右二付、火消御人数貳番手迄御差出し相成、翌暁七ツ時過鎮火、右源八儀在方根帳之者二付、御目付立会焼場見改之上、在方御吟味之儀御郡代談達之上、伺扣二有之通、構御郡奉行中野和平儀、御月番へ相伺御聞届相済候二付、左之面々儀居残り逐御吟味、今明ヶ六ツ時引取候段、委細口書を以申達候二付、前同様御月番え申遣ス。【後略】	794、795	鳥取県編『鳥取県史 第 13 巻 近世資料』(1978 年)。	鳥取県立博物館
748	慶応 2	804	18660912	洪水 (丙寅水)	鳥取藩史 第 6 巻 殖産商工志・事変志		664、665	鳥取県編『鳥取藩史 第 6 巻 殖産商工志・事変志』(鳥取県立鳥取図書館、1971 年)。	鳥取県立博物館
749					五水記			鳥取県立図書館所蔵の写本。資料コードは 117456917、書誌番号は 1101600758。末尾に嘉永 3 年と慶応 2 年の洪水についての記事が追加されている。なお、翻刻本の建設省鳥取工事事務所編『五水記』(社団法人中国建設弘済会、1974 年)は底本が異なるため、幕末の洪水についての記事は無く、従って翻刻もされていないことに注意。	鳥取県立図書館
750					来訪賓客簿		288、289	田中仁・岸本覚編『原田家「来訪賓客簿」(下) 幕末期鳥取城下を訪れた人々』(鳥取大学地域学部、2019 年、非売品)	個人蔵
751					林甚三郎一代水難之図		11	底本は建設省鳥取工事事務所編『林甚三郎一代水難之図』(1974 年)。	鳥取県立図書館
752	明治 3	919	18701013	洪水	在方諸事控	【前略】昨日之洪水二付、下流低地住居之内窮民難洪二陥候ものも可有之、此輩救助之儀心付候様、杉浦権大参事より被申聞候間、御廻村候て御見込も可有之と此段申入候也。【後略】	1383、1384	鳥取県編『鳥取県史 第 13 巻 近世資料』(1978 年)。	鳥取県立博物館
753					鳥取県史料	一明治三年庚午九月十八日、大雨、因幡国各郡河水暴漲、堤ヲ決シ、田ヲ没ス。定額ノ外、土木費若干金ヲ支給ス。	137	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 I 鳥取県史料 1』(2010 年)。	国立公文書館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
754	明治 4	518	18710705	洪水	鳥取県史料	一明治四年辛未五月中旬ヨリ因幡国霖雨、十七日ニ至テ弥甚シク、十八日夜ニ及テ西北風大ニ起リ、各川ノ水暴漲シ、沿川堤塘ヲ決ス。忽チ、滔天ノ水トナル。廿日ニ至テ水勢衰ヘ、漸ク故ニ復ス。此洪水ノ為ニ、崩山・没田・漂流家等、左ニ表出スル如シ。抑、因幡ノ地形タルヤ、水源ヲ東南ニ取リ、迂回西北ニ流レテ海ニ入ル。海口ヲ賀露ト云。港内ハ中等船数十ヲ泊スヘケレトモ、兩岸ノ沙漠数里ニ経リ、港外酷タ浅シテ、西北ノ風甚キトキハ沙ヲ簾シテ海口ヲ壅塞ス。故ニ、時アリテ港口ヲ変換シ定位ナシ。【中略】伯耆国ノ降水、因幡国ト時日同シケレトモ、因幡国ノ甚シキカ如クナラス。漂屋・溺死ナシ。【後略】	137	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。他に同書 515, 516 頁にこの水害による「損亡表」もあり。	国立公文書館
755					林甚三郎一代水難之図		12-23	底本は建設省鳥取工事事務所編『林甚三郎一代水難之図』(1974年)。	鳥取県立図書館
756	明治 5		18720218	大火	鳥取県史料	一明治五年壬申二月十八日、伯耆国久米郡第六十一区倉吉宿ヨリ失火。数十軒焼失セリ。其内四十六戸最貧困者ナルヲ以テ、救恤米・拝借金等正規ニ照準シ相渡ス。如左。【後略】	444, 445	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
757	明治 5		18720409	大火	鳥取県史料	一四月九日、夜、因幡国高草郡第三十八区竹生村ヨリ出火シ上味野村迄延焼シ。其内火災ニ罹リシ最モ貧困ナル者ヘ救恤米・拝借金等正規ニ照準シ相渡ス。左ノ如シ。【後略】	445	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
758	明治 5		18720623	大火	鳥取県史料	一同月二十三日夜、伯耆国久米郡第五十八区今西村ヨリ失火類焼。十戸何レモ極貧困者ナルヲ以テ、救恤米・拝借金等正規ニ照準シ、相渡ス。	445	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
759	明治 5		18720806	大火	鳥取県史料	一八月六日夜、因幡国邑美郡第七区国安村ヨリ失火。類焼四十六戸。同上ナルヲ以テ同断相渡ス。	445	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
760	明治 6		18730221	大火	鳥取県史料	一明治六年癸酉二月二十一日午前五時過、因幡国法美郡第二十一区国分寺村ヨリ失火。類焼十一戸。同上ナルヲ以テ同断相渡ス。	446	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
761	明治 6		18730404	大火	鳥取県史料	一四月四日午前十時頃、因幡国岩井郡第十八区白地村ヨリ失火。類焼二十戸。同上ナルヲ以テ同断相渡ス。	446	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
762	明治 6		18730428	大火	鳥取県史料	一同月二十八日正午十二時、因幡国八東郡第二十二区野町村ヨリ失火。類焼十六戸。同上ナルヲ以テ同断相渡ス。	446	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
763	明治 6		18730520	大火	鳥取県史料	一同月二十日午前十時頃、因幡国岩井郡第十七区陸上村ヨリ失火。類焼五十六戸ノ内四十三戸同上ナルヲ以テ同断相渡ス。	447	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
764	明治 6		18730829	洪水	鳥取県史料	一明治六年〔癸酉〕七月下旬ヨリ霖雨シ、八月廿九日午前一時頃ヨリ暴風大雨。因幡・伯耆各郡河水暴漲、堤防ヲ決シ、田畑ヲ没ス。最モ会見・汗入・八橋ノ三郡ハ、崩山七、八ヶ所ニ至ル。同三十日ニ至リ、水勢減シ、旧ニ復ス。其後、天気快晴ナリシカ、又、九月下旬ヨリ淫雨数日ヲ度ル。十月二日午前六時頃ヨリ風雨烈シク、同三日ニ至リ各川満溢シ、堤塘ヲ決シ、橋梁ヲ流シ、卑低ノ地ハ人家床上ヲ浸ス事、武、三尺ニ及ヒ、殆ント滔天ノ勢トナル。同午後七時頃ヨリ風雨止ミ、水勢漸ク衰ヘ、故ニ復ス。八月廿九日ノ水ハ伯耆ニ多ク、十月三日ノ水ハ因幡ニ甚シ。然レトモ、辛未五月ノ水ニ比スレハ些少タリ。両度ノ水ニ因田畑ノ損害、略左ノ如シ。【後略】	137, 138	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
765	明治 6		18731003	洪水	鳥取県史料	一明治六年〔癸酉〕七月下旬ヨリ霖雨シ、八月廿九日午前一時頃ヨリ暴風大雨。因幡・伯耆各郡河水暴漲、堤防ヲ決シ、田畑ヲ没ス。最モ会見・汗入・八橋ノ三郡ハ、崩山七、八ヶ所ニ至ル。同三十日ニ至リ、水勢減シ、旧ニ復ス。其後、天気快晴ナリシカ、又、九月下旬ヨリ淫雨数日ヲ度ル。十月二日午前六時頃ヨリ風雨烈シク、同三日ニ至リ各川満溢シ、堤塘ヲ決シ、橋梁ヲ流シ、卑低ノ地ハ人家床上ヲ浸ス事、武、三尺ニ及ヒ、殆ント滔天ノ勢トナル。同午後七時頃ヨリ風雨止ミ、水勢漸ク衰ヘ、故ニ復ス。八月廿九日ノ水ハ伯耆ニ多ク、十月三日ノ水ハ因幡ニ甚シ。然レトモ、辛未五月ノ水ニ比スレハ些少タリ。両度ノ水ニ因田畑ノ損害、略左ノ如シ。【後略】	137, 138	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。	国立公文書館
766	明治 7		18740899	大火	鳥取県史料	【前略】右若桜駅ノ義、一昨七年八月不慮ノ火災ニ罹リ、家財ハ勿論貯蓄米穀トモ悉皆焼失、該駅総戸数五百有余戸有之候処、一宿挙テ灰燼ト相成候次第【後略】	725, 726	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 1 鳥取県史料 1』(2010年)。日付は明記されていないため、日付欄は便宜的に「18740899」とした。	国立公文書館
767	明治 18		18850504	大火	鳥取県史料	【前略】右ハ、五月四日、火災ニ罹リ、農具料・種穀料救助ノ義、出願候ニ付、取調候処、該宿ハ戸数四百四拾八戸ノ内右之如ク大半焼燼シ、共済ノ道モ無之、因テ救与ス。	1099, 1100	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 3 鳥取県史料 3』(2012年)。	国立公文書館
768	明治 18		18850701	洪水	公文録		371-373	鳥取県編『鳥取県史 近代 第 5 巻 資料篇』(1967年)。「水災ノ義ニ付上申」・「水害取調書」などが採録されている。	国立公文書館
769	明治 24		18911230	大火	明治廿五年 恩賜録一		180-183	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 5 行政 2 社会 宗教』(2018年)。「火災ニ付状況上申」ほかの史料が採録されている。	宮内庁宮内公文書館
770					公文雑纂		459, 460	鳥取県編『鳥取県史 近代 第 5 巻 資料篇』(1967年)。	国立公文書館
771	明治 26		18931016	洪水	参事官水害視察			鳥取県立公文書館蔵(管理 ID: 0000573、引継簿冊番号 000219900487)。簿冊中に「東伯郡方面水害視察報告」、「西伯郡(汗入方面)水害視察報告」、「西伯郡(会見方面)水害視察報告」、「西伯郡水害視察報告」、「東伯郡(河村郡方面)水害視察報告」、「北條侍従水害視察ノタメ入県、八頭・岩美・鳥取方面ヲ巡視」、「酒ノ津村水害視察報告」の各史料が綴じられている。	鳥取県立公文書館
772					鳥取県高草気多郡水害一覧			宮川武行著、1893年。鳥取県立図書館蔵、請求記号(517/4/郷土 WH)、資料コード(114119095 ほか)、問い合わせ番号(書誌番号)(1100600627)。	鳥取県立図書館
773	明治 29		18960830	洪水	業議協議書類括			管理 ID: 0000629、引継簿冊番号 000119900084。この中に「水災ノ顛末」が綴じられている。	鳥取県立公文書館
774	大正元		19120923	洪水	因伯時報				鳥取県立図書館
775					鳥取新報				鳥取県立図書館
776	大正 7		19180913	洪水	大正七年 恩賜録一		183-192	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 5 行政 2 社会 宗教』(2018年)。「兵庫県及鳥取県暴雨被害不詳ニ付御救恤の件」。	宮内庁宮内公文書館
777					因伯時報				鳥取県立図書館
778					鳥取新報				鳥取県立図書館
779	大正 12		19230915	洪水	因伯時報				鳥取県立図書館
780					鳥取新報				鳥取県立図書館
781	昭和 8		19330324	洪水	鳥取新報		109-112	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 7 産業 教育 文化』(2018年)。昭和 8 年 5 月 13・15 日付『鳥取新報』記事。	鳥取県立図書館
782	昭和 9		19340921	洪水	因伯時報			鳥取県編『鳥取県史 近代 第 5 巻 資料篇』(1967年、754, 755 頁)に昭和 9 年 9 月 26 日付の「因伯時報」記事が掲載されているが、この前後にも関連する記事があると思われるため、「掲載頁数」欄には頁数を記載しなかった。	鳥取県立図書館
783					鳥取新報				鳥取県立図書館
784	昭和 18		19430910	地震	鳥取県震災小誌		840-844	鳥取県編『鳥取県史 近代 第 5 巻 資料篇』(1967年)に一部が収録されている。鳥取県立図書館にも所蔵あり(請求記号: 8ヶ/369.2/1/郷土 WH、問い合わせ番号: 1101357348 ほか)。	
785					昭和十八年米子市内の戦中日記		540	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 近代 5 行政 2 社会 宗教』(2018年)。なお、底本の典拠は干村二葉『昭和十八年 当用日記』(干村隆氏所蔵)。	個人蔵
786					舞鶴海軍施設部作成「鳥取地方震災被害調査報告書」			報告書本文。管理 ID: 0000006。	鳥取県立公文書館
787					鳥取大地震(舞鶴海軍施設部作成「鳥取地方震災被害調査報告書」)			写真資料。管理 ID: 0000009。	鳥取県立公文書館

通番	年 (元号)	年月日 (陰暦)	年月日 (グレゴリウス暦)	災害名	史資料名	史料	掲載頁数	出典・備考	(底本が典拠とする史料の) 所蔵館
788					鳥取大地震 (「鳥取大震災関係写真」災害篇・復興篇)			写真資料。管理 ID : 0000010。	鳥取県立公文書館
789					鳥取大地震 (他の群に属さないもの)			写真資料。管理 ID : 0000011。	鳥取県立公文書館
790	昭和 24		19490620	暴風雨	日本海新聞			デラ台風。岩美郡網代港の漁船が賀露沖合で遭難する事故も発生。	鳥取県立図書館
791					鳥取市大火災誌 (災害救護篇・復興篇)			鳥取市大火災誌編集委員会編。災害救護篇は 1953 年、復興篇は 1955 年にそれぞれ刊行。	
792					日本海新聞				鳥取県立図書館
793					山陰日日新聞				鳥取県立図書館
794					山陽新聞		246-252	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 現代 1 政治・行政』(2019 年)。昭和 27 年 4 月 18・19 日付『山陽新聞』。	岡山県立図書館
795	昭和 27		19520418	大火	鳥取大火 (建築課作成「鳥取大火災復興記念写真帖 1953 鳥取県」)			写真資料。管理 ID : 0000012。	鳥取県立公文書館
796					鳥取大火 (ジェームス・ロビンソン撮影)			写真資料。管理 ID : 0000013。	鳥取県立公文書館
797					鳥取大火 (他の群に属さないもの)			写真資料。管理 ID : 0000014。	鳥取県立公文書館
798					鳥取大火 (田賀久治撮影)			写真資料。管理 ID : 0000016。	鳥取県立公文書館
799	昭和 28		19530925	暴風雨	日本海新聞			台風 13 号。	鳥取県立図書館
800	昭和 29		19540926	暴風雨	日本海新聞			台風 15 号 (洞爺丸台風)。	鳥取県立図書館
801					山陰日日新聞			台風 15 号 (洞爺丸台風)。	鳥取県立図書館
802	昭和 30		19550623	地震	日本海新聞			24 日朝にかけて地震が続発。主に日野郡一帯で被害あり。	鳥取県立図書館
803					日本海新聞			台風 15 号 (伊勢湾台風)。	鳥取県立図書館
804	昭和 34		19590926	暴風雨	山陰日日新聞			台風 15 号 (伊勢湾台風)。	鳥取県立図書館
805	昭和 36		19610916	暴風雨	日本海新聞			台風 18 号 (第 2 室戸台風)。	鳥取県立図書館
806					山陰日日新聞			台風 18 号 (第 2 室戸台風)。	鳥取県立図書館
807	昭和 38		19630399	大雪	県政だより		318-322	鳥取県立公文書館 県史編さん室編『新鳥取県史 資料編 現代 2 経済・社会・文化』(2020 年)。なお、底本の典拠は鳥取県立公文書館蔵の「県政だより」(昭和 38 年 3 月)。また、長期にわたる被害のため、日付欄については、「県政だより」の刊行月をもとに、便宜的に「19630399」と記載した。	鳥取県立公文書館
808					日本海新聞				鳥取県立図書館
809	昭和 39		19650715	大雨	日本海新聞				鳥取県立図書館
810	昭和 40		19660619	大雨	日本海新聞				鳥取県立図書館
811	昭和 40		19660721	大雨	日本海新聞				鳥取県立図書館
812	昭和 40		19660910	暴風雨	日本海新聞			台風 23 号。	鳥取県立図書館
813	昭和 47		19720709	大雨	日本海新聞			梅雨前線によるもの。9 日頃から 12 日頃まで降り続いた雨による被害。	鳥取県立図書館
814	昭和 51		19760910	暴風雨	日本海新聞			台風 17 号。	鳥取県立図書館
815	昭和 54		19790904	暴風雨	日本海新聞			台風 12 号。	鳥取県立図書館
816	昭和 54		19790930	暴風雨	日本海新聞			台風 16 号。	鳥取県立図書館
817	昭和 54		19791019	暴風雨	日本海新聞			台風 20 号。	鳥取県立図書館
818	昭和 58		19831031	地震	日本海新聞			県中部を中心に被害が発生。	鳥取県立図書館
819	昭和 60		19850630	大雨	日本海新聞			梅雨前線と台風 6 号の影響。	鳥取県立図書館
820	昭和 60		19850710	大雨	日本海新聞				鳥取県立図書館
821	昭和 62		19871017	暴風雨	日本海新聞			台風 19 号。	鳥取県立図書館
822	平成元		19891027	地震	日本海新聞			主に県西部で震度 3 を記録。11 月 2 日早朝にも震度 3 の地震を記録。	鳥取県立図書館
823	平成 2		19901121	地震	日本海新聞			主に県西部で震度 3 を記録。23 日にも震度 4 を、12 月 1 日にも震度 3 をそれぞれ記録する地震が発生。	鳥取県立図書館
824	平成 3		19910827	地震	日本海新聞			27 日午後 11 時 59 分ごろに県西部で震度 3 を記録する地震が発生。その後、翌 28 日午前 10 時 29 分頃にも県西部で震度 4 を記録する地震が発生。	鳥取県立図書館
825	平成 3		19910927	暴風	日本海新聞			台風 19 号。	鳥取県立図書館
826	平成 5		19930713	津波・高潮	日本海新聞			北海道南西沖地震によるもの。	鳥取県立図書館
827	平成 5		19930810	強風	日本海新聞			台風 7 号。	鳥取県立図書館
828	平成 5		19930904	暴風雨	日本海新聞			台風 13 号。	鳥取県立図書館
829					平成 12 (2000) 年鳥取県西部地震 震災誌			「とっとり災害記録伝承ポータル」から閲覧可能。	
830	平成 12		20001006	地震 (鳥取県西部地震)	平成 12 年鳥取県西部地震の記録			「とっとり災害記録伝承ポータル」から閲覧可能。	
831					平成 12 年鳥取県西部地震震災体験記録			「とっとり災害記録伝承ポータル」から閲覧可能。	
832					日本海新聞				鳥取県立図書館
833	平成 28		20161021	地震 (鳥取県中部地震)	鳥取県中部地震記録誌			「とっとり災害記録伝承ポータル」から閲覧可能。	
834					日本海新聞				鳥取県立図書館